
Honeywell

Genesis™ XP 7680g

プレゼンテーション・エリア・イメージャー

(暫定版)



ユーザー・ガイド

免責

Honeywell International Inc. (「HII」) は、本書に記載される仕様およびその他の情報について、事前に通知することなく変更できるものとします。ユーザーは、いかなる場合でも、変更の有無を確認するには HII までお問い合わせください。HII は、本書に記載された情報に必ずしも関与しているわけではありません。

HII は、本書の技術的または編集上の誤りや記載漏れ、もしくは本書の提供、内容の実施、または利用に伴う偶発的、結果的な損傷について、責任を負わないものとします。HII は、意図した結果を得るためのソフトウェアやハードウェアの選択と使用について、一切の責任を負いません。

本書には、著作権によって保護された占有情報が含まれます。すべての権利は著作権者が保有しています。HII の書面による同意なく、本書の一部を複製、複製、または他言語に翻訳することはできません。

Copyright © 2021 Honeywell International Inc.無断転載を禁ず。

Web アドレス：sps.honeywell.com

商標

Microsoft® Windows® および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Bluetooth® ワード・マークおよびロゴは Bluetooth SIG, Inc. が所有します。

Apple は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

本書に記載されるその他の製品の名称または記号は、その他の企業の商標または登録商標である場合があります、それぞれの所有者の財産です。

特許

特許に関する情報については、www.hsmpats.com をご確認ください。

サードパーティ・ソフトウェアのライセンス

オープン・ソースのソフトウェア・ライセンスは、sps.honeywell.com の製品ページからダウンロードできます。

目次

カスタマー・サポート	xiii
技術支援	xiii
製品サービスおよび修理	xiii
限定保証	xiii
CHAPTER 1 - はじめに	1
本書について	1
デバイスを開梱する	1
スキャナーの特長	2
デバイスを接続する	3
USB 接続	3
キーボード・ウェッジ接続	4
RS232 シリアル・ポート接続	5
RS485 接続	6
読み取り方法	6
トラブルシューティング	7
スキャナー・ステータス LED リング	7
メニュー・バーコードのセキュリティ設定	7
カスタム・デフォルトを設定する	7
カスタム・デフォルトをリセットする	8
CHAPTER 2 - インターフェースのプログラミング	9
概要	9
インターフェースのプログラミング — プラグ&プレイ	9
キーボード・ウェッジ	9
Laptop Direct Connect (ラップトップ直接接続)	10

RS232 シリアル・ポート	10
RS485	10
USB IBM SurePos.....	11
USB PC または Macintosh キーボード	12
USB HID	12
USB シリアル.....	12
CTS/RTS エミュレーション	13
ACK/NAK モード	13
Verifone® Ruby 端末	13
Gilbarco® 端末	14
Honeywell バイオプティック補助ポート	14
Datalogic™ Magellan® 補助ポート	14
Wincor Nixdorf 端末.....	15
Wincor Nixdorf Beetle™ 端末	15
Wincor Nixdorf RS232 Mode A.....	16
キーボードの国別レイアウト.....	16
キーボード・ウェッジの修飾キー	23
ALT モード	23
キーボード・スタイル	24
キーボード変換.....	25
制御文字出力	26
キーボードの修飾キー	26
RS232 修飾キー	28
RS232 ボー・レート	28
RS232 ワード長：データ・ビット、ストップ・ビット、パリティ	29
RS232 レシーバー・タイムアウト	30
RS232 ハンドシェイク	30
RS232 タイムアウト	31
XON/XOFF.....	31
ACK/NAK.....	32
スキャナーとバイオプティック間の通信.....	32
スキャナーとバイオプティック間のパケット・モード	32

スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK モード	33
スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK タイムアウト	33

CHAPTER 3 - 入出力設定

起動ブザー	35
BEL 文字受信時のブザー音	35
トリガー・クリック	36
読み取り成功とエラー・インジケータ	36
ブザー—読み取り成功時	36
ブザーの音量—読み取り成功時	36
ブザーのピッチ—読み取り成功時	37
ブザーのピッチ—エラー時	37
ブザーの長さ—読み取り成功時	38
LED—読み取り成功時	38
ブザーの回数—読み取り成功時	38
ブザーの回数—エラー時	38
読み取り成功時の遅延	39
ユーザー指定の読み取り成功時の遅延	39
オブジェクト検出モード	40
トリガー・モード	40
手動トリガー	40
トリガー・トグル	40
シリアル・トリガー	42
プレゼンテーション・モード	42
トリガード・プレゼンテーション・モード	43
デコード後のプレゼンテーション LED の動作	43
プレゼンテーション・センタリング	43
低品質コード	45
低品質 1 次元コード	45
低品質 PDF コード	46
低解像度 PDF コード	46
CodeGate™	46

ハンズフリー・タイムアウト.....	47
再読み取り遅延.....	47
ユーザー指定の再読み取り遅延.....	48
2次元再読み取り遅延.....	48
文字有効化.....	48
有効化文字	49
読み取り成功後に文字有効化を終了.....	49
文字有効化タイムアウト	50
文字無効化.....	50
無効化文字	50
照明	51
エイマー遅延.....	51
ユーザー定義のエイマー遅延	52
エイマー・モード	52
プレゼンテーション・エイマー・モード.....	53
拡張オブジェクト検出.....	53
センタリング.....	54
単一コード・センタリング.....	54
カスタム・センタリング.....	54
優先シンボル体系	56
高優先度シンボル体系.....	57
低優先度シンボル体系.....	57
優先シンボル体系のタイムアウト	57
優先シンボル体系のデフォルト.....	57
アウトプット・シーケンスの概要	58
アウトプット・シーケンス・エディター	58
アウトプット・シーケンスの追加.....	58
アウトプット・シーケンス・エディターのコマンド	59
アウトプット・シーケンスの入力	62
部分シーケンス	62
読み取り成功音 - アウトプット・シーケンス	66
複数シンボル	66

読み取りなし	67
ビデオ・リバーズ	67
読み取り方向	68
タバコ製品に最適なスキャン	69
CHAPTER 4 - データ編集	71
プレフィックス／サフィックスの概要	71
注意点	71
プレフィックスまたはサフィックスの追加	72
例：すべてのシンボル体系にタブ・サフィックスを追加する	72
1つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスをクリアする	72
すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを追加する	73
プレフィックスの選択項目	73
サフィックスの選択項目	73
ファンクション・コードの送信	74
文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延	74
文字間遅延	74
ユーザー指定の文字間遅延	75
ファンクション間遅延	75
メッセージ間遅延	76
CHAPTER 5 - データ・フォーマット	77
データ・フォーマット・エディターの概要	77
データ・フォーマットを表示する	78
データ・フォーマットを追加する	78
その他のプログラミング選択項目	79
端末 ID 表	80
データ・フォーマット・エディター・コマンド	80
送信コマンド	80
移動コマンド	86
検索コマンド	87
その他のコマンド	90

データ・フォーマッター.....	93
データ・フォーマット不一致エラー音.....	94
基準/代用データ・フォーマット.....	95
単スキャンのデータ・フォーマットの変更.....	95
CHAPTER 6 - シンボル体系.....	97
すべてのシンボル体系.....	98
メッセージ長の説明.....	98
Codabar.....	98
Code 39.....	101
Interleaved 2 of 5.....	104
NEC 2 of 5.....	106
Code 93.....	107
Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート/ストップ).....	109
Straight 2 of 5 IATA (2 バー・スタート/ストップ).....	110
Matrix 2 of 5.....	111
Code 11.....	112
Code 128.....	113
ISBT 128 の連結.....	113
GS1-128.....	115
Telepen.....	116
UPC-A.....	117
拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13.....	119
クーポン GS1 DataBar 出力.....	120
UPC-E0.....	121
UPC-E1.....	123
EAN/JAN-13.....	124
ISBN 変換.....	131
EAN/JAN-8.....	131
MSI.....	133
GS1 DataBar Omnidirectional.....	135
GS1 DataBar Limited.....	136

GS1 DataBar Expanded.....	136
Trioptic Code	137
Codablock A.....	137
Codablock F	138
Label Code (ラベル・コード)	139
PDF417	139
MacroPDF417	140
MicroPDF417	140
GS1 コンポジット・コード.....	141
GS1 エミュレーション.....	142
TCIF Linked Code 39 (TLC39)	143
QR Code.....	144
DotCode.....	146
Digimarc Barcode™	147
Data Matrix	148
MaxiCode.....	150
Aztec Code	151
Chinese Sensible (Han Xin) Code.....	152
郵便コード - 2次元	153
Planet Code のチェック・デジット.....	156
Postnet のチェック・デジット.....	157
Australian Post の解釈.....	157
郵便コード - リニア.....	158
China Post (Hong Kong 2 of 5)	158
Korean Post.....	159
CHAPTER 7 - イメージング・コマンド	161
シングルユース・ベース.....	161
コマンド構文.....	161
Image Snap (画像撮影) - IMGSNP	162
IMGSNP の修飾キー.....	162
Image Ship (画像送信) - IMGSHIP	165

IMGSHP の修飾キー	166
画像サイズの互換性	173
Intelligent Signature Capture (インテリジェント署名取り込み) – IMGBOX.....	174
署名取り込みの最適化.....	174
IMGBOX の修飾キー	175
CHAPTER 8 - ユーティリティ	181
すべてのシンボル体系にテスト・コード ID プレフィックスを追加する	181
ソフトウェアの改訂情報を表示する	181
テスト・メニュー	181
TotalFreedom.....	182
アプリケーション・プラグイン (アプリ)	182
EZConfig for Scanning の概要	183
EZConfig for Scanning での設定	183
工場出荷時設定にリセットする	184
CHAPTER 9 - シリアル・プログラミング・コマンド	185
表記規則	185
メニュー・コマンド構文.....	185
クエリ・コマンド	186
トリガー・コマンド.....	188
カスタム・デフォルトをリセットする	189
メニュー・コマンド.....	190
CHAPTER 10 - 製品仕様.....	215
Genesis XP 7680GSR スキャナーの製品仕様.....	215
被写界深度図	216
7680g の標準性能.....	216
7680g の保証性能.....	217
標準コネクタ・ピン配列	217
キーボード・ウェッジ.....	217
シリアル出力.....	218
RS485 出力	218

USB	219
必要な安全ラベル	219
CHAPTER 11 - メンテナンスおよびトラブルシューティング	221
修理	221
メンテナンス	221
スキャナーの清掃	221
滅菌消毒対応機種について	222
ケーブルおよびコネクタの点検	222
ケーブルの交換	222
インターフェース・ケーブルの交換	222
トラブルシューティング	223
付録 A - リファレンス・チャート	225
シンボル体系チャート	225
リニア・シンボル体系	225
2次元シンボル体系	226
郵便シンボル体系	227
ASCII 変換表（コード・ページ 1252）	228
下位 ASCII 参照表	229
ISO 2022/ISO 646 置換文字	232
キーボードのキーマップ	235
シンボルの例	237
プログラミング・チャート	239

カスタマー・サポート

技術支援

ナレッジ・ベースで解決方法を検索したい場合や、テクニカル・サポートのポータルにログインしたい場合は、sps.honeywell.com にアクセスして、**Support (サポート)** を選択してください。

製品サービスおよび修理

Honeywell International Inc. では、世界各地に展開しているサービス・センターを通じて、すべての製品を対象にサービスを提供しています。お近くのサービス・センターを確認したり、製品を返送する前に **RMA # (Return Material Authorization number、返品確認番号)** を取得したりするには、sps.honeywell.com にアクセスして、**Support (サポート)** を選択してください。

限定保証

保証に関する情報については、sps.honeywell.com にアクセスし、**Support (サポート) > Warranties (保証)** を選択します。

1 はじめに

本書について

このユーザー・ガイドでは、Genesis XP 7680g ハンズフリー・エリア・イメージング・スキャナーの据え付けとプログラミングについて説明します。また、製品仕様、寸法、保証、およびカスタマー・サポート情報についても記載しています。

Honeywell のバーコード・スキャナーは、最も一般的な端末および通信設定に合わせて工場プログラムされています。これらの設定を変更する必要がある場合は、本ガイドのバーコードをスキャンしてプログラミングを行います。

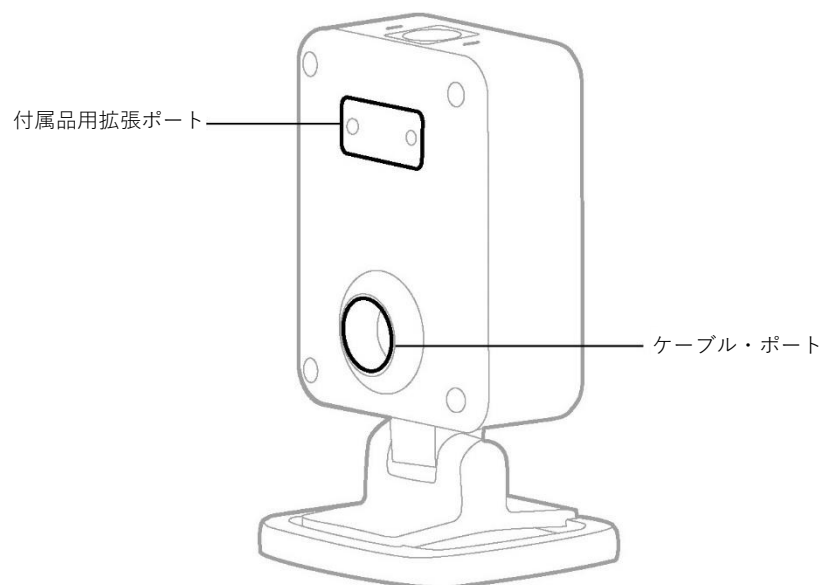
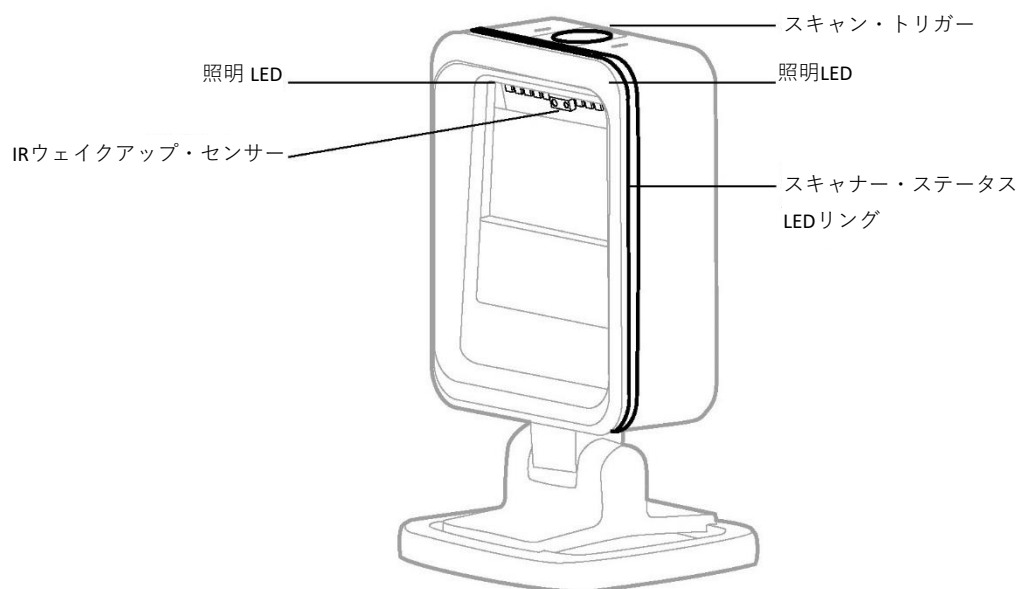
オプションの隣にあるアスタリスク (*) は、デフォルト設定を示しています。

デバイスを開梱する

製品の入った輸送用の梱包箱を開けたら、以下の手順を実行します。

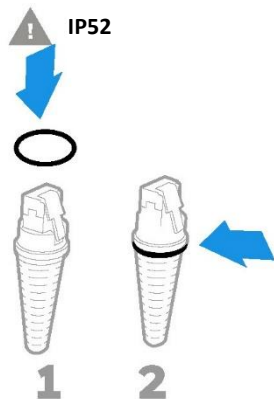
- 輸送中の破損がないか確認する。破損がある場合は、梱包箱を届けた配送業者にすぐに報告してください。
- 梱包箱の内容が注文と一致していることを確認する。
- 梱包箱は、後で保管や輸送に使用するために保存しておく。

スキャナーの特長



デバイスを接続する

注： 図示するように通信ケーブルの端に黒いOリングを差し込み、ケーブルをスキャナーに差し込んだときにOリングが見えなくなるようにすることが重要です。これにより、正しく組み立てることができるとともに、IP52に準拠できます。

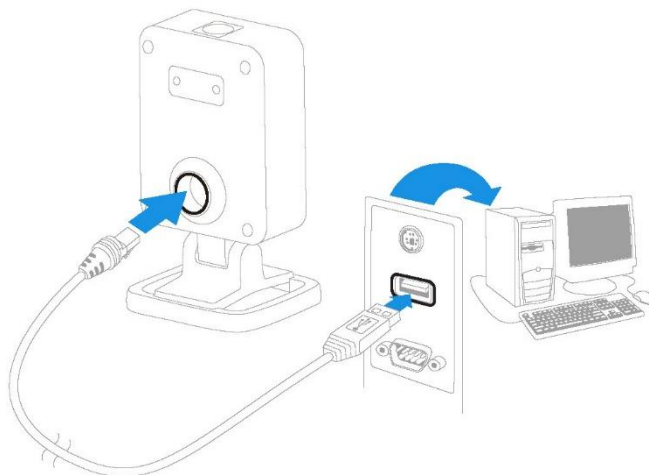


USB 接続

スキャナーをコンピューターのUSBポートに接続できます。

1. 適切なインターフェース・ケーブルを、まずデバイスに接続し、次にコンピューターに接続します。

Genesis XP 7680のUSB接続：



2. スキャナーのブザー音が鳴ります。
3. 237ページ以降の「シサンプル・シンボル」からバーコードを読み取り、スキャナーの動作を確認します。

ユニットは、USBのPCキーボードに初期設定されています。その他のUSB端末設定については、[12ページ](#)を参照してください。

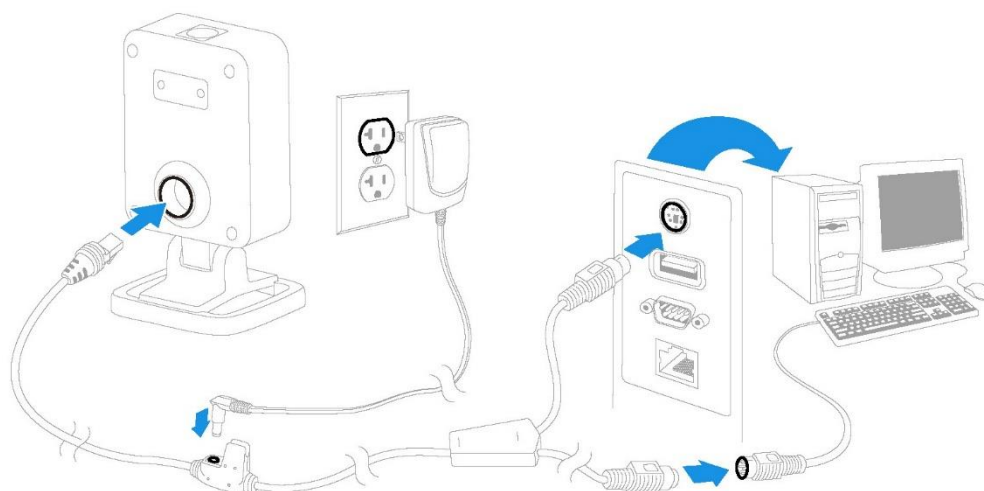
USB プログラミングおよび技術情報に関するその他の情報は、sps.honeywell.com から入手できる「USB アプリケーション・ノート」を参照してください。

キーボード・ウェッジ接続

キーボードと PC の間に「キーボード・ウェッジ」としてスキャナーを接続し、キーボード入力と同じようなデータ出力を行うことができます。キーボード・ウェッジ接続の例を以下に示します。

1. 端末／コンピューターの電源をオフにして、背面からキーボード・ケーブルを取り外します。
2. 適切なインターフェース・ケーブルを、まずデバイスに接続し、次に端末／コンピューターに接続します。

Genesis XP 7680 スキャナーのキーボード・ウェッジ接続：



注： 電源は必要に応じて別途ご注文ください。

3. 端末／コンピューターの電源を再度オンにします。スキャナーのブザー音が鳴ります。
4. 237 ページ以降の「シサンプル・シンボル」からバーコードを読み取り、スキャナーの動作を確認します。

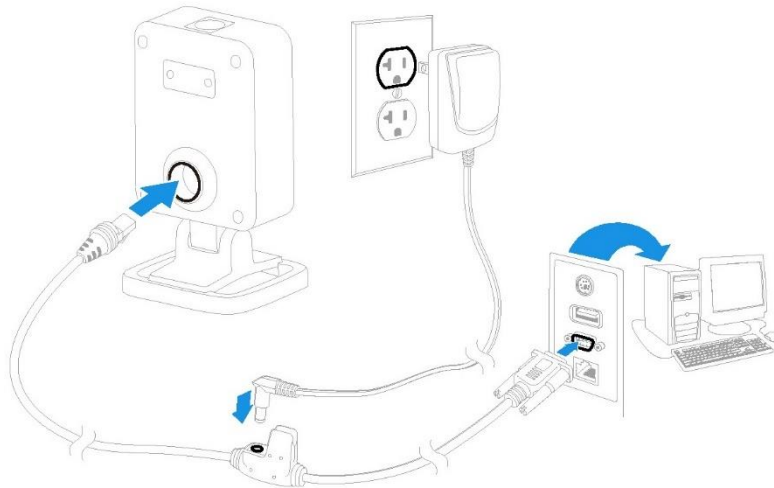
ユニットは、IBM PC AT および USA キーボードと互換性のあるキーボード・ウェッジ・インターフェースに初期設定されています。バーコード・データにはキャリッジ・リターン (CR) サフィクスが追加されます。

RS232 シリアル・ポート接続

1. 端末／コンピューター電源をオフにします。
2. 適切なインターフェース・ケーブルをスキャナーに接続します。

注： スキャナーが正常に動作するには、お使いの端末／コンピューターのタイプに適したケーブルが必要です。

Genesis XP 7680 スキャナーの RS232 シリアル・ポート接続：



注： 電源は必要に応じて別途ご注文ください。

3. シリアル・コネクタをコンピューターのシリアル・ポートに差し込みます。2本のねじを締め、コネクタをポートに固定します。
4. スキャナーが完全に接続されたら、コンピューターの電源を入れます。

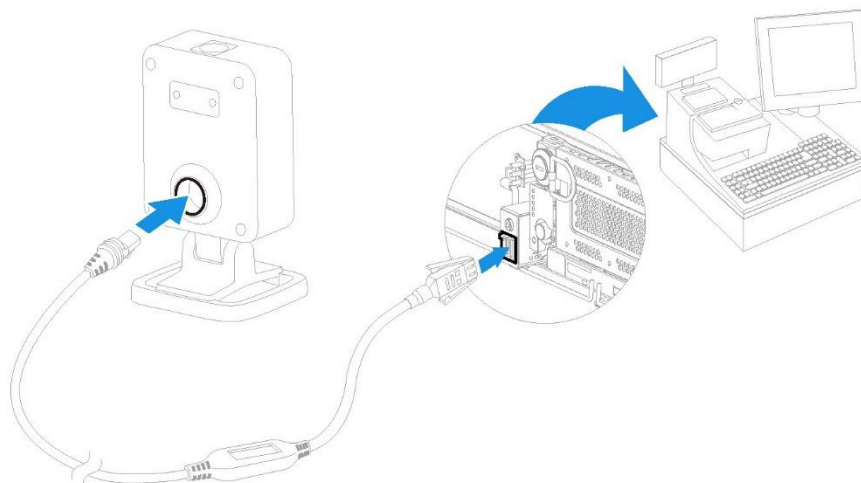
このインターフェースは、115,200ボー、8データ・ビット、パリティなし、1ストップ・ビットで動作します。

RS485 接続

IBM POS 端末インターフェースでは Xenon スキャナーを接続できます。

1. 適切なインターフェース・ケーブルをデバイスに接続し、次にコンピューターに接続します。

Genesis XP 7680 スキャナーの RS485 接続：



注： 電源は必要に応じて別途ご注文ください。

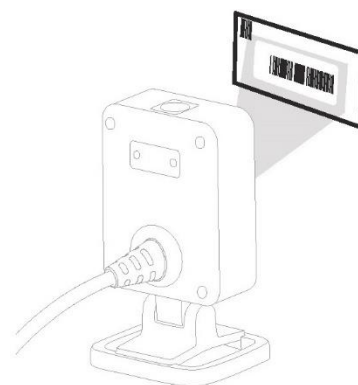
2. 端末／コンピューターの電源を再度オンにします。スキャナーのブザー音が鳴ります。
3. 237 ページ以降の「[シサンプル・シンボル](#)」からバーコードを読み取り、スキャナーの動作を確認します。スキャナーのブザー音が1度鳴ります。

RS485 の詳しい設定については、10 ページの「[RS485](#)」を参照してください。

読み取り方法

バーコードをスキャナーに向けます。照明 LED がオンになります。

オプション：エイミングしやすくするため、スキャン・トリガー・ボタンを長押しして、エイミング・ドットをバーコードの中央に合わせます。



エイミング・ドットはバーコードの中央に合わせますが、読み取りやすくするために、どの方向にしてもかまいません。スキャナーがコードに近いとエイミング・ドットが小さくなり、コードから遠いとエイミング・ドットが大きくなります。シンボル体系のバーまたはエレメント（mil 単位）が小さい場合は、ユニットに近づけて読み取ってください。シンボル体系のバーまたはエレメント（mil 単位）が大きい場合は、ユニットから遠ざけて読み取ってください。

トラブルシューティング

- 室内の照明レベルが十分でない場合、バーコードを読み取れないことがあります。
- バーコードの反射が大きい場合は（ラミネートされている場合など）、バーコードを読み取るために、スキャナーを傾けることが必要となることがあります。

スキャナー・ステータス LED リング

Genesis XP 7680 は、スキャン範囲の周囲 360 度を取り囲み、スキャナーのステータスをフィードバックする LED リングを備えています。

LED	ステータス
白色	アイドル：Genesis XP は読み取りできる状態ですが、スキャン範囲内に対象を認識していません。
緑色	読み取り成功
赤色	エラー

メニュー・バーコードのセキュリティ設定

Honeywell のスキャナーは、メニュー・バーコードをスキャンするか、スキャナーにシリアル・コマンドを送信することでプログラミングできます。メニュー・コードのスキャン機能を制限したい場合は、メニュー・バーコードのセキュリティ設定を使用できます。詳細については、最寄りのテクニカル・サポート・オフィス（xiii ページの「[技術支援](#)」を参照）までお問い合わせください。

カスタム・デフォルトを設定する

独自のカスタム・デフォルトとして、一連のメニュー・コマンドを作成できます。そのためには、カスタム・デフォルトのメニュー・コマンドをスキャンする前に、以下の **Set Custom Defaults**（**カスタム・デフォルトを設定する**）バーコードをスキャンしてください。メニュー・コマンドにより、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」の数値コード、次に **Save**（**保存**）コードの順でスキャンが求められる場合、そのシーケンス全体がカスタム・デフォルトに保存されます。カスタム・デフォルトに保存したいコマンドをすべて入力したら、**Save Custom Defaults**（**カスタム・デフォルトを保存する**）バーコードをスキャンします。



MNUCDP.

* LED Set Custom Defaults (カスタム・デフォルト
を設定する)



MNUCDS.

Save Custom Defaults (カスタム・デフォルトを保存
する)

一連のカスタム設定のうちの1つの設定を修正したいとします。このような場合、新しい設定をスキャンして、古い設定を上書きするだけで修正できます。たとえば、以前にカスタム・デフォルトとして **Beeper Volume at Low** (ブザー音量を下げる) 設定を保存していた場合、ブザー音量を **High** (高) に設定にするには、**Set Custom Defaults (カスタム・デフォルトを設定する)** バーコード、次に **Beeper Volume High** (ブザー音量を上げる) メニュー・コード、最後に **Save Custom Defaults (カスタム・デフォルトを保存する)** の順にスキャンします。残りのカスタム・デフォルトはそのまま残りますが、ブザーの音量設定は更新されます。

カスタム・デフォルトをリセットする

カスタム・デフォルト設定をスキャナーに復元したい場合は、以下の **Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)** バーコードをスキャンします。これは、ほとんどのユーザーに推奨されるデフォルトのバーコードです。これにより、スキャナーがカスタム・デフォルト設定にリセットされます。カスタム・デフォルト設定がない場合、スキャナーは工場出荷時設定にリセットされます。カスタム・デフォルトで指定されていない設定は、デフォルトで工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

Activate Custom Defaults (カスタム・デフォ
ルトを有効化する)

インターフェースのプログラミング

概要

この章では、目的のインターフェースに合わせてシステムをプログラムする方法について説明します。

インターフェースのプログラミング — プラグ&プレイ

Plug and Play (プラグ&プレイ) のバーコードを使用すると、一般的に使用されるインターフェースに合わせて、スキャナーを即座に設定できます。

注： インターフェースを有効にするには、いずれかのコードをスキャンした後、ホスト端末の電源を切り、再度電源を入れます。

キーボード・ウェッジ

ご使用のシステムを IBM PC AT および USA キーボードと互換性のあるキーボード・ウェッジ・インターフェース用にプログラムする場合、以下のバーコードをスキャンします。キーボード・ウェッジはデフォルトのインターフェースです。

注： 以下のバーコードでは、キャリッジ・リターン (CR) サフィックスもプログラムされます。



PAP_AT.

IBM PC AT および互換機、CR サフィックス付き

Laptop Direct Connect（ラップトップ直接接続）

ほとんどのラップトップでは、**Laptop Direct Connect（ラップトップ直接接続）** バーコードをスキャンすると、内蔵キーボードとスキャナーの並列操作が可能になります。以下の **Laptop Direct Connect（ラップトップ直接接続）** バーコードで、キャリッジ・リターン（CR）サフィックスもプログラムされ、Emulate External Keyboard（外付けキーボードをエミュレートする）（25 ページ）がオンになります。



PAPLTD.

ラップトップ直接接続、CR サフィックス付き

RS232 シリアル・ポート

RS232 Interface（RS232 インターフェース） バーコードは、PC または端末のシリアル・ポートに接続する際に使用します。以下の **RS232 Interface（RS232 インターフェース）** バーコードは、以下のようにキャリッジ・リターン（CR）とライン・フィード（LF）サフィックス、ボー・レート、およびデータ・フォーマットもプログラムされます。さらに、トリガー・モードも手動に変更されます。

オプション	設定
Baud Rate（ボー・レート）	115,200 bps
Data Format（データ・フォーマット）	8データ・ビット、パリティ・ビットなし、1ストップ・ビット



PAP232.

RS232 Interface（RS232 インターフェース）

RS485

IBM POS 端末インターフェース用にスキャナーをプログラムするには、以下のいずれかの「Plug and Play（プラグ&プレイ）」コードをスキャンします。

注： これらのコードのいずれかをスキャンした後、キャッシュ・レジスターの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。



PAPP5B.

IBM Port 5B Interface（IBM ポート 5B インターフェース）



PAP9B1.

IBM Port 9B HHBCR-1 Interface（IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース）



PAPP17.

IBM Port 17 Interface (IBM ポート 17 インターフェース)



PAP9B2.

IBM Port 9B HHBCR-2 Interface (IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース)

上記の各バーコードでは、シンボル体系ごとに以下のサフィックスもプログラムされます。

シンボル体系	サフィックス	シンボル体系	サフィックス		
EAN 8	0C	Code 39	00	0A	0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00	0D	0B
UPC-A	0D	Code 128*	00	0A	0B
UPC-E	0A	Code 128 **	00	18	0B
		MaxiCode	00	2F	0B

* サフィックスは、IBM 4683 ポート 5B、IBM 4683 ポート 9B HHBCR-1、および IBM 4683 ポート 17 インターフェースの Code 128 用にプログラムされます

** サフィックスは、IBM 4683 ポート 9 HHBCR-2 インターフェースの Code 128 用にプログラムされます

USB IBM SurePos

IBM SurePos (USB ハンドヘルド・スキャナー) または IBM SurePos (USB テーブルトップ・スキャナー) のインターフェース用にスキャナーをプログラムするには、以下のいずれかの「Plug and Play (プラグ&プレイ)」コードをスキャンします。

注： これらのコードのいずれかをスキャンした後、キャッシュ・レジスターの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。



PAPSPh.

USB IBM SurePos
(USB ハンドヘルド・スキャナー)
インターフェース



PAPSPT.

USB IBM SurePos
(USB テーブルトップ・スキャナー)
インターフェース

上記の各バーコードでは、シンボル体系ごとに以下のサフィックスもプログラムされます。

シンボル体系	サフィックス	シンボル体系	サフィックス		
EAN 8	0C	Code 39	00	0A	0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00	0D	0B
UPC-A	0D	Code 128	00	18	0B
UPC-E	0A	Code 39	00	0A	0B

USB PC または Macintosh キーボード

USB PC キーボードまたは USB Macintosh キーボード用にスキャナーをプログラムするには、以下のいずれかのコードをスキャンします。これらのコードをスキャンすると、CR サフィックスも追加されます。



PAPER124.

USB Keyboard (PC) (USB キーボード [PC])



PAPER125.

USB Keyboard (Mac) (USB キーボード [Mac])



TRMUSB134.

USB Japanese Keyboard (PC) (USB 日本語キーボード [PC])

USB HID

USB HID バーコード・スキャナー用にスキャナーをプログラムするには、以下のコードをスキャンします。



PAPER131.

USB HID Barcode Scanner (USB HID バーコード・スキャナー)

USB シリアル

Microsoft® Windows® PC を使用している場合は、当社 Web サイト (sps.honeywell.com) から最新のドライバーをダウンロードして、**Get Resources (リソースの取得) - Downloads (ダウンロード) - Software (ソフトウェア)** を開く必要があります。ドライバーは次に使用可能な COM ポート番号を使用します。Apple® Macintosh コンピューターの場合は、スキャナーを USB CDC クラスのデバイスとして認識し、自動的にクラス・ドライバーを使用します。

ドライバーをダウンロードしたら、標準の RS232 ベースの COM ポートをエミュレートするようにスキャナーをプログラムするために以下のコードをスキャンします。



TRMUSB130.

USB Serial (USB シリアル)

追加の設定 (ポー・レートなど) は必要ありません。

注： Honeywell の古いシリアル・ドライバーで USB Serial (USB シリアル) バーコードをスキャンした場合、またはドライバーがインストールされていない場合は、バーコードをスキャンできない可能性があります。このような場合は、古いバージョンのドライバーをアンインストールして、最新のドライバーをインストールするか、または Device Manager (デバイス・マネージャー) で該当するデバイス入力を削除してください。

CTS/RTS エミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTS Emulation On (CTS/RTS エミュレーション・オン)



USBCTS0.

* CTS/RTS Emulation Off (CTS/RTS エミュレーション・オフ)

ACK/NAK モード



USBACK1.

ACK/NAK Mode On (ACK/NAK モード・オン)



USBACK0.

* ACK/NAK Mode Off (ACK/NAK モード・オフ)

Verifone® Ruby 端末

Verifone Ruby 端末用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ&プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ボー・レートを 1200 bps、データ・フォーマットを 8 データ・ビット、マーク・バリティ・ビット、1 ストップ・ビットに設定します。また、ライン・フィード (LF) サフィックスも追加し、シンボル体系ごとに以下のプレフィックスもプログラムされます。

シンボル体系	プレフィック
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPERBY.

Verifone Ruby Settings (Verifone Ruby の設定)

Gilbarco® 端末

Gilbarco 端末用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ & プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ボー・レートを 2400 bps、データ・フォーマットを 7 データ・ビット、偶数バリティ・ビット、2 ストップ・ビットに設定します。また、キャリッジ・リターン (CR) サフィックスも追加し、シンボル体系ごとに以下のプレフィックスもプログラムされます。

シンボル体系	プレフィック
UPC-A	A
UPC-E	E0
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPGLB.

Gilbarco Settings (Gilbarco の設定)

Honeywell バイオプティック補助ポート

Honeywell バイオプティック・スキャナーの補助ポート設定用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ & プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ボー・レートを 38400 bps、データ・フォーマットを 8 データ・ビット、バリティ・ビットなし、1 ストップ・ビットに設定します。



PAPBIO.

Honeywell Bioptic Settings (Honeywell バイオプティックの設定)

Datalogic™ Magellan® 補助ポート

Datalogic Magellan の補助ポート設定用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ & プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ボー・レートを 9600 bps、データ・フォーマットを 8 データ・ビット、バリティ・ビットなし、1 ストップ・ビットに設定します。



PAPMAG.

Datalogic Magellan Settings (Datalogic Magellan の設定)

Wincor Nixdorf 端末

Wincor Nixdorf 端末用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ&プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ボー・レートを 9600 bps、データ・フォーマットを 8 データ・ビット、バリティ・ビットなし、1 ストップ・ビットに設定します。



PAPWNX.

Wincor Nixdorf Terminal Settings (Wincor Nixdorf
端末の設定)

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末

Wincor Nixdorf Beetle 端末用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ&プレイ)」コードをスキャンします。シンボル体系ごとに以下のプレフィックスがプログラムされます。

シンボル体系	プレフィック	シンボル体系	プレフィックス
Aztec Code	V	Interleaved 2 of 5	I
Codabar	N	MaxiCode	T
Code 93	L	MicroPDF417	S
Code 128	K	PDF417	Q
Data Matrix	R	QR Code	U
EAN-8	B	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-13	A	UPC-A	A0
GS1 DataBar	E	UPC-E	C
GS1-128	P	その他すべてのバー	M



PAPBTL.

Wincor Nixdorf Beetle Settings
(Wincor Nixdorf Beetle の設定)

Wincor Nixdorf RS232 Mode A

Wincor Nixdorf RS232 Mode A 端末用にスキャナーをプログラムするには、以下の「Plug and Play (プラグ&プレイ)」コードをスキャンします。このバーコードでは、ポー・レートを 9600 bps、データ・フォーマットを 8 データ・ビット、奇数パリティ・ビット、1 ストップ・ビットに設定します。シンボル体系ごとに以下のプレフィックスがプログラムされます。

シンボル体系	プレフィ	シンボル体系	プレフィックス
Code 128	K	EAN-13	A
Code 93	L	GS1-128	K
Codabar	N	Interleaved 2 of 5	I
UPC-A	A0	Straight 2 of 5 IATA	H
UPC-E	C	GS1 DataBar	E
EAN-8	B		
その他すべてのバー	M		



PAPWMA.

Wincor Nixdorf RS232 Mode A
Settings (Wincor Nixdorf RS232
Mode A の設定)

キーボードの国別レイアウト

インターフェースが USB キーボードまたはキーボード・ウェッジの場合、キーボードのレイアウトのデフォルトは US 配列キーボードです。このレイアウトを変更するには、下記の適切な Keyboard Country (国別キーボード) バーコードをスキャンしてください。デフォルトでは、# \$ @ [¥] ^ ' { | } ~ の各記号に国別の置換文字が使用されます。国ごとの置換文字を確認するには、「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」(A-232 ページ) を参照してください。

国別キーボード



KBDCTY0.

* United States (米国)



KBDCTY35.

Albania (アルバニア)



KBDCTY81.

Azeri (Cyrillic) (アゼリー語 [キリル])



KBDCTY80.

Azeri (Latin) (アゼリー語 [ラテン])

国別キーボード（続き）



KBDCTY82.

Belarus (ベラルーシ)



KBDCTY33.

Bosnia (ボスニア)



KBDCTY59.

Brazil (MS) (ブラジル [MS])



KBDCTY53.

Bulgaria (Latin) (ブルガリア [ラテン])



KBDCTY18.

Canada (French) (カナダ [フランス語])



KBDCTY32.

Croatia (クロアチア)



KBDCTY1.

Belgium (ベルギー)



KBDCTY16.

Brazil (ブラジル)



KBDCTY52.

Bulgaria (Cyrillic) (ブルガリア [キリル])



KBDCTY54.

Canada (French legacy) (カナダ [フランス語レガシー])



KBDCTY55.

Canada (Multilingual) (カナダ [マルチリンガル])



KBDCTY15.

Czech (チェコ語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY40.

Czech (Programmers) (チェコ語 [プログラマー])



KBDCTY38.

Czech (QWERTZ) (チェコ語 [QWERTZ])



KBDCTY11.

Dutch (Netherlands) (オランダ語 [オランダ])



KBDCTY83.

Faroese (フェロー語)



KBDCTY3.

France (フランス)



KBDCTY4.

Germany (ドイツ)



KBDCTY39.

Czech (QWERTY) (チェコ語 [QWERTY])



KBDCTY8.

Denmark (デンマーク)



KBDCTY41.

Estonia (エストニア)



KBDCTY2.

Finland (フィンランド)



KBDCTY84.

Gaelic (ゲール語)



KBDCTY17.

Greek (ギリシャ語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY64.

Greek (220 Latin) (ギリシャ語 [220 ラテン])



KBDCTY65.

Greek (319 Latin) (ギリシャ語 [319 ラテン])



KBDCTY63.

Greek (Latin) (ギリシャ語 [ラテン])



KBDCTY60.

Greek (Polytonic) (ギリシャ語 [ポリトニック])



KBDCTY50.

Hungarian (101 key) (ハンガリー語 [101 キーボード])



KBDCTY75.

Iceland (アイスランド)



KBDCTY61.

Greek (220) (ギリシャ語 [220])



KBDCTY62.

Greek (319) (ギリシャ語 [319])



KBDCTY66.

Greek (MS) (ギリシャ語 [MS])



KBDCTY12.

Hebrew (ヘブライ語)



KBDCTY19.

Hungary (ハンガリー)



KBDCTY73.

Irish (アイルランド語)

国別キーボード（続き）



KBDCTY56.

Italian (142) (イタリア語 [142])



KBDCTY28.

Japan ASCII (日本 ASCII)



KBDCTY79.

Kyrgyz (Cyrillic) (キルギス語 [キリル])



KBDCTY42.

Latvia (ラトビア)



KBDCTY44.

Lithuania (リトアニア)



KBDCTY34.

Macedonia (マケドニア)



KBDCTY5.

Italy (イタリア)



KBDCTY78.

Kazakh (カザフ語)



KBDCTY14.

Latin America (ラテン・アメリカ)



KBDCTY43.

Latvia (QWERTY) (ラトビア [QWERTY])



KBDCTY45.

Lithuania (IBM) (リトアニア [IBM])



KBDCTY74.

Malta (マルタ)

国別キーボード（続き）



KBDCTY86.

Mongolian (Cyrillic) (モンゴル語 [キリル])



KBDCTY20.

Poland (ポーランド)



KBDCTY58.

Polish (Programmers) (ポーランド語 [プログラマー])



KBDCTY25.

Romania (ルーマニア)



KBDCTY67.

Russian (MS) (ロシア語 [MS])



KBDCTY21.

SCS



KBDCTY9.

Norway (ノルウェー)



KBDCTY57.

Polish (214) (ポーランド語 [214])



KBDCTY13.

Portugal (ポルトガル)



KBDCTY26.

Russia (ロシア)



KBDCTY68.

Russian (Typewriter) (ロシア語 [タイプライター])



KBDCTY37.

Serbia (Cyrillic) (セルビア [キリル])

国別キーボード（続き）



KBDCTY36.

Serbia (Latin) (セルビア [ラテン])



KBDCTY49.

Slovakia (QWERTY) (スロバキア [QWERTY])



KBDCTY31.

Slovenia (スロベニア)



KBDCTY51.

Spanish variation (スペイン語バリエーション)



KBDCTY29.

Switzerland (French) (スイス [フランス語])



KBDCTY85.

Tatar (タタール語)



KBDCTY22.

Slovakia (スロバキア)



KBDCTY48.

Slovakia (QWERTZ) (スロバキア [QWERTZ])



KBDCTY10.

Spain (スペイン)



KBDCTY23.

Sweden (スウェーデン)



KBDCTY6.

Switzerland (German) (スイス [ドイツ語])



KBDCTY27.

Turkey F (トルコ F)

国別キーボード（続き）



KBDCTY24.

Turkey Q (トルコ Q)



KBDCTY7.

United Kingdom (イギリス)



KBDCTY88.

United States (Dvorak left) (米国 [Dvorak 左])



KBDCTY30.

United States (International) (米国 [インターナショナル])



KBDCTY76.

Ukrainian (ウクライナ語)



KBDCTY87.

United States (Dvorak) (米国 [Dvorak])



KBDCTY89.

United States (Dvorak right) (米国 [Dvorak 右])



KBDCTY77.

Uzbek (Cyrillic) (ウズベク語 [キリル])

キーボード・ウェッジの修飾キー

ALT モード

アクセント付きの e (è) など、バーコードに拡張 ASCII 表の特殊文字が含まれる場合は、ALT モードを使用します。(229 ページの「[拡張 ASCII 文字](#)」を参照してください。)

注：適切な国別キーボードのコードをスキャンしたら、ALT モードのバーコードをスキャンしてください。

ALTキーと3文字分または4文字分のキーを打つ必要がある場合は、**3 Characters (3文字)** または**4 Characters (4文字)** バーコードをスキャンします。これにより、値00～255の特殊文字でデータが出力されます。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



キーボード・スタイル

Caps LockやShift Lockなどのキーボード・スタイルをプログラムします。キーボード変換設定を使用した場合は、以下のキーボード・スタイル設定のいずれかが無効になります。デフォルト値 = *Regular* (標準)。

Regular (標準) は、通常Caps Lockキーをオフにしている場合に使用します。



Caps Lock (Capsロック) は、通常Caps Lockキーをオンにしている場合に使用します。



Shift Lock (Shiftロック) は、通常Shift Lockキーをオンにしている場合に使用します (米国のキーボードでは通常使用しません)。



Automatic Caps Lock (自動Capsロック) は、Caps Lockキーのオン/オフを変更するときに使用します。Caps Lockをオンまたはオフに切り替えると、ソフトウェアが追跡・反映します。この選択は、Caps Lockステータスを認識するLEDを持つシステム(ATキーボード)でのみ使用できます。



KBDSTY6.

Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック)

Caps Lockの切り替えにCaps Lockキーを使用できない国(ドイツ、フランスなど)では、**Autocaps via NumLock (Numロック経由のAutocaps)** バーコードをスキャンする必要があります。NumLockオプションは通常のAutocapsと同様に機能しますが、Caps Lockの現在の状態を取得するには、NumLockキーを使用します。



KBDSTY7.

Autocaps via NumLock (Num ロック経由の
Autocaps)

外付けキーボード(IBM ATまたは同等品)がない場合は、**Emulate External Keyboard (外付けキーボードをエミュレートする)** をスキャンする必要があります。



KBDSTY5.

Emulate External Keyboard (外付けキーボードを
エミュレートする)

注: *Emulate External Keyboard (外付けキーボードをエミュレートする)* バーコードをスキャンした後、コンピューターの電源を切り、再度電源を入れる必要があります。

キーボード変換

英字キーボード文字は、強制的にすべて大文字またはすべて小文字に変換できます。したがって、たとえば「abc569GK」というバーコードがある場合、**Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する)** をスキャンして出力「ABC569GK」を作成するか、**Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する)** をスキャンして「abc569gk」を作成できます。

これらの設定は、**キーボード・スタイル**の選択より優先されます。

注: インターフェイスがキーボード・ウェッジの場合は、まず**Automatic Caps Lock (自動Capsロック)** (25 ページ) のメニュー・コードをスキャンします。そうしないと、出力が想定どおりに行われません場合があります。

デフォルト値 = **Keyboard Conversion Off** (キーボード変換オフ)。



KBDCNV0.

* Keyboard Conversion Off (キーボード変換オ
フ)



KBDENV1.

Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する)



KBDENV2.

Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する)

制御文字出力

これを選択すると、制御文字ではなくテキスト文字列が送信されます。たとえば、キャリッジ・リターンの制御文字が想定される場合、ASCII コードの 0D の代わりに[CR]が出力表示されます。228 ページの「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。変換されるのは、コード 00~1F (表の最初の列) のみです。デフォルト値 = Off (オフ)。

注 : Control + X (Control + ASCII) モードは、このモードより優先されます。



KBDNPE1.

Control Character Output On (制御文字出力オン)



KBDNPE0.

* Control Character Output Off (制御文字出力オフ)

キーボードの修飾キー

ここでは、CTRL+ASCII コードやターボ・モードなどの特別なキーボード機能を変更します。

Control + X (Control + ASCII) Mode On (Control + X (Control + ASCII)モード・オン) : スキャナーから、値 00~1F の ASCII 制御文字に対応するキーの組み合わせが送信されます。推奨モードは Windows です。すべての国別キーボードのコードに対応しています。DOS モードはレガシー・モードであるため、すべての国別キーボードのコードに対応していません。新しいユーザーは、Windows モードを使用してください。CTRL+X の値については、228 ページの「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

Windows Mode Prefix/Suffix Off (Windows モードのプレフィックス/サフィックス・オフ) : スキャナーから、値 00~1F の ASCII 制御文字に対応するキーの組み合わせが送信されますが、プレフィックスやサフィックスの情報は変換されません。

Supports ALT 3 Digit HEX Mode (ALT 3 桁 16 進モードに対応) : スキャナーから、ALT キーと 3 桁の数値として送信された値 00~1F の ASCII 制御文字に対応するキーの組み合わせが送信されます。

デフォルト値 = Control + X Mode Off (Control + X モード・オフ)。



Windows Mode Control + X Mode On (Windows モードの Control + X モード・オン)



* Control + X Mode Off (Control + X モード・オフ)



DOS Mode Control + X Mode On (DOS モードの Control + X モード・オン)



Windows Mode Prefix/Suffix (Windows モードのプレフィックス/サフィックス)



DOS Mode Control + X Mode On with Windows Mode Prefix/Suffix (DOS モードの Control + X モード・オン、Windows モードのプレフィックス/サフィックス付き)



Supports ALT 3 Digit HEX Mode (ALT 3 桁 16 進モードに対応)

Turbo Mode (ターボ・モード)： スキャナーが端末に高速で文字を送信します。端末で文字の読み落としがある場合は、Turbo Mode (ターボ・モード) を使用しないでください。デフォルト値 = Off (オフ)。



Turbo Mode On (ターボ・モード・オン)



* Turbo Mode Off (ターボ・モード・オフ)

Numeric Keypad Mode (テンキー・モード)： テンキーから入力したものと同様に数字を送信します。デフォルト値 = Off (オフ)。



Numeric Keypad Mode On (テンキー・モード・オン)



* Numeric Keypad Mode Off (テンキー・モード・オフ)

Automatic Direct Connect Mode (自動直接接続モード)：この選択は、IBM AT 型の端末を使用しており、システムで文字の読み落としがある場合に使用できます。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



KBDADC1.

Automatic Direct Connect Mode On (自動直接接続
モード・オン)



KBDADC0.

* Automatic Direct Connect Mode Off (自動直接接
続モード・オフ)

RS232 修飾キー

RS232 ボー・レート

ボー・レートは、指定されたレートでスキャナーから端末にデータを送信します。ホスト端末はスキャナーと同じボー・レートに設定する必要があります。デフォルト値 = 115,200。



232BAD0.

300



232BAD2.

1200



232BAD4.

4800



232BAD1.

600



232BAD3.

2400



232BAD5.

9600



232BAD6.

19200



232BAD8.

57,600



232BAD7.

38400



232BAD9.

* 115,200

RS232 ワード長：データ・ビット、ストップ・ビット、パリティ

Data Bits (データ・ビット) は、ワード長を 1 文字あたり 7 データ・ビットまたは 8 データ・ビットに設定します。ASCII 16 進文字 0 から 7F までの 10 進数 (文字、数字、および句読点) のみを必要とするアプリケーションでは、7 データ・ビットを選択します。フル ASCII セットを使用する必要があるアプリケーションの場合は、1 文字あたり 8 データ・ビットを選択します。デフォルト値 = 8。

Stop Bits (ストップ・ビット) は、ストップ・ビットを 1 または 2 に設定します。デフォルト値 = 1。

Parity (パリティ) は、妥当性確認のため、文字のビット・パターンを確認する手段を提供します。デフォルト値 = None (なし)。



232WRD3.

7 Data, 1 Stop, Parity Even (7 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティ偶数)



232WRD6.

7 Data, 1 Stop, Parity Odd (7 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティ奇数)



232WRD0.

7 Data, 1 Stop, Parity None (7 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティなし)



232WRD4.

7 Data, 2 Stop, Parity Even (7 データ・ビット、2
ストップ・ビット、パリティ偶数)



232WRD1.

7 Data, 2 Stop, Parity None (7 データ・ビット、2
ストップ・ビット、パリティなし)



232WRD5.
8 Data, 1 Stop, Parity Even (8 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティ偶数)



232WRD8.
8 Data, 1 Stop, Parity Odd (8 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティ奇数)



232WRD7.
7 Data, 2 Stop, Parity Odd (7 データ・ビット、2
ストップ・ビット、パリティ奇数)



232WRD2.
* 8 Data, 1 Stop, Parity None (8 データ・ビット、
1ストップ・ビット、パリティなし)



232WRD14.
8 Data, 1 Stop, Parity Mark (8 データ・ビット、1
ストップ・ビット、パリティ・マーク)

RS232 レシーバー・タイムアウト

ユニットは、RS232 レシーバー・タイムアウトの時間切れまで、データ受信のために起動状態のままになります。タイムアウトは手動トリガーまたはシリアル・トリガーによりリセットされます。RS232 レシーバーがスリープ状態のときは、文字を送信することによってレシーバーを復帰させ、タイムアウトをリセットできます。CTS ライン上のトランザクションもレシーバーを復帰させます。レシーバーが完全に復帰するには 300 ミリ秒かかります。RS232 レシーバーのタイムアウトを変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」の数字をスキャンした後、**Save (保存)** をスキャンします。範囲は 0~300 秒です。デフォルト値 = 0 秒 (タイムアウトなし、常にオン)。



232LPT.
RS232 Receiver Time-Out (RS232 レシーバー・タ
イムアウト)

RS232 ハンドシェイク

RS232 ハンドシェイクでは、ホスト・デバイスからソフトウェア・コマンドを使用して、スキャナーからのデータ送信を制御できます。RTS/CTS がオフの場合、データ・フロー制御は使用されません。

Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし)： スキャナーは、データを送信する必要があるときに RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまで無期限に待機します。

Two-Direction Flow Control (2 方向フロー制御)： スキャナーは、ホストが送信可能な場合に RTS をアサートします。ホストは、デバイスが送信可能な場合に CTS をアサートします。

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)：スキャナーは、データを送信する必要があるときに RTS をアサートし、ホストによって CTS がアサートされるまでの遅延時間 (31 ページの「RS232 タイムアウト」を参照) だけ待機します。CTS がアサートされないまま遅延時間が経過すると、デバイスの送信バッファがクリアされ、スキャンを再開することができます。デフォルト値 = RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)。



232CTS1.

Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし)



232CTS2.

Two-Direction Flow Control (2方向フロー制御)



232CTS3.

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)



232CTS0.

* RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)

RS232 タイムアウト

Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり) を使用する場合は、ホストからの CTS を待機する遅延時間をプログラムする必要があります。タイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」の数字をスキャンしてタイムアウト (1~5100 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。



232DEL.

RS232 Timeout (RS232 タイムアウト)

XON/XOFF

標準の ASCII 制御文字を使用して、スキャナーにデータ送信の開始 (XON/XOFF オン) またはデータ送信の停止 (XON/XOFF オフ) を指示できます。ホストがスキャナーに XOFF 文字 (DC3、16 進数の 13) を送信すると、データ送信が停止します。送信を再開するには、ホストが XON 文字 (DC1、16 進数の 11) を送信します。データ送信は、XOFF の送信によって中断されたところから続行されます。デフォルト値 = XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)。



232XON1.

XON/XOFF On (XON/XOFF オン)



232XON0.

* XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)

ACK/NAK

データを送信した後、スキャナーはホストからの応答として ACK 文字（16 進数の 06）または NAK 文字（16 進数の 15）を待機します。ACK を受信した場合、その通信サイクルは完了し、スキャナーはさらにバーコードを探します。NAK を受信した場合、最後のバーコード・データセットが再送され、スキャナーは ACK/NAK を再度待機します。ACK/NAK プロトコルをオンにするには、下記の **ACK/NAK On**（**ACK/NAK オン**）バーコードをスキャンします。プロトコルをオフにするには、**ACK/NAK Off**（**ACK/NAK オフ**）をスキャンします。デフォルト値 = **ACK/NAK Off**（**ACK/NAK オフ**）。



232ACK1.

ACK/NAK On (ACK/NAK オン)



232ACK0.

* ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ)

スキャナーとバイオプティック間の通信

Honeywell スキャナーとバイオプティック・スキャナー間の通信を設定するには、以下の設定を使用します。

注： バイオプティック・スキャナーと通信するには、スキャナーのボー・レートを 38400 に設定し、RS232 タイムアウトを 3000 に設定する必要があります。詳細については、28 ページの「RS232 修飾キー」および 31 ページの「RS232 タイムアウト」を参照してください。

スキャナーとバイオプティック間のパケット・モード

スキャナーのフォーマットを設定し、バイオプティック・スキャナーとの互換性を確保するには、**Packet Mode On**（**パケット・モード・オン**）をスキャンする必要があります。デフォルト値 = **Packet Mode Off**（**パケット・モード・オフ**）。



232PKT0.

* Packet Mode Off (パケット・モード・オフ)



232PKT2.

Packet Mode On (パケット・モード・オン)

スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK モード

各パケットが送信された後、スキャナーがバイオプティック・スキャナーからの ACK または NAK を待機するように、**Bioptic ACK/Nak On (バイオプティック ACK/NAK オン)** をスキャンする必要があります。下記の Scanner-Biopic ACK/NAK Timeout (スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK タイムアウト) は、スキャナーが応答を待機する時間の長さを制御します。デフォルト値 = *Biopic ACK/NAK Off (バイオプティック ACK/NAK オフ)*。



232NAK0.

* Biopic ACK/NAK Off (バイオプティック
ACK/NAK オフ)



232NAK1.

Biopic ACK/NAK On (バイオプティック ACK/NAK
オン)

スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK タイムアウト

バイオプティック・スキャナーの ACK/NAK 応答のタイムアウトの長さ (ミリ秒単位) を設定できます。下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」の数字をスキャンしてタイムアウト (1~30,000 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 5100。



232DLK.

ACK/NAK Timeout (ACK/NAK タイムアウト)

入出力設定

起動ブザー

スキャナーは起動時にブザー音を鳴らすようにプログラムできます。起動ブザー音が不要な場合は、**Off (オフ)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = *Power Up Beeper On - Scanner (起動ブザー・オン - スキャナー)*。



BEPPWR0.

Power Up Beeper Off - Scanner (起動ブザー・オフ
- スキャナー)



BEPPWR1.

* Power Up Beeper On - Scanner (起動ブザー・オン
- スキャナー)

BEL 文字受信時のブザー音

ホストから送信されたコマンドで強制的にスキャナーのブザー音を鳴らすこともできます。下記の **Beep on BEL On (BEL 文字受信時のブザー音オン)** バーコードをスキャンすると、スキャナーはホストから BEL 文字を受信するたびにブザー音を鳴らします。デフォルト値 = *Beep on BEL Off (BEL 文字受信時のブザー音オフ)*。



BELBEP0.

* Beep on BEL Off (BEL 文字受信時のブザー音
オフ)



BELBEP1.

Beep on BEL On (BEL 文字受信時のブザー音
オン)

トリガー・クリック

スキャナー・トリガーを押すたびにクリック音を鳴らすようにするには、下記の **Trigger Click On (トリガー・クリック・オン)** バーコードをスキャンします。クリック音が不要な場合は、**Trigger Click Off (トリガー・クリック・オフ)** コードをスキャンします。(この機能は、シリアル・トリガーまたは自動トリガーには影響しません)。デフォルト値 = *Trigger Click Off (トリガー・クリック・オフ)*。



*Trigger Click Off (トリガー・クリック・オフ)



Trigger Click On (トリガー・クリック・オン)

読み取り成功とエラー・インジケーター

ブザー—読み取り成功時

読み取り成功時のブザーを、**On (オン)** または **Off (オフ)** にプログラムできます。このオプションをオフにすると、読み取り成功を通知するブザー応答のみがオフになります。エラーおよびメニューのブザー音は、すべて今までどおり聞こえます。デフォルト値 = *Beeper - Good Read On (ブザー - 読み取り成功時オン)*。



Beeper - Good Read Off (ブザー - 読み取り成功時オフ)



* Beeper - Good Read On (ブザー - 読み取り成功時オン)

ブザーの音量—読み取り成功時

ブザーの音量コードは、読み取り成功時にスキャナーから発せられるブザーの音量を変更します。デフォルト値 = *Xenon XP* スキャナーでは *High (大)*、*Xenon XP* ヘルステア・スキャナーでは *Low (小)*。



* Low (小)



Medium (中)



BEPLVL3.

* High (大)



BEPLVL0.

Off (オフ)

ブザーのピッチー読み取り成功時

ブザーのピッチ・コードは、読み取り成功時にスキャナーから発せられるブザーのピッチ（周波数）を変更します。デフォルト値 = *Medium*（中）。



BEPFQ11600.

Low (1600 Hz) (低 [1600 Hz])



BEPFQ12700.

* Medium (2700 Hz) (中 [2700 Hz])



BEPFQ14200.

High (4200 Hz) (高 [4200 Hz])

ブザーのピッチーエラー時

ブザーのピッチ・コードは、読み取り失敗時またはエラー時にスキャナーから発せられる音のピッチ（周波数）を変更します。デフォルト値 = *Razz*（ブー音）。



BEPFQ2250.

* Razz (250 Hz) (ブー音 [250 Hz])



BEPFQ23250.

Medium (3250 Hz) (中 [3250 Hz])



BEPFQ24200.

High (4200 Hz) (高 [4200 Hz])

ブザーの長さ—読み取り成功時

ブザーの長さコードは、読み取り成功時にスキャナーから発せられるブザーの長さを変更します。デフォルト値 = *Normal* (通常)。



* Normal Beep (通常のブザー音)



Short Beep (短いブザー音)

LED—読み取り成功時

読み取り成功時の LED インジケーターを、**On** (オン) または **Off** (オフ) にプログラムできます。デフォルト値 = *On* (オン)。



* LED - Good Read On (LED - 読み取り成功時オン)



LED - Good Read Off (LED - 読み取り成功時オフ)

ブザーの回数—読み取り成功時

読み取り成功時のブザーの回数は、1~9 回にプログラムできます。同じ回数のブザー音が、読み取り成功時にブザーと LED に適用されます。たとえば、このオプションでブザーを 5 回にプログラムした場合、読み取り成功時にはブザーが 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。ブザーと LED の点滅は、互いに同期しています。ブザーの回数を変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値 (1~9) バーコードをスキャンし、その後 **Save** (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 1。



Number of Good Read Beeps/LED Flashes
(読み取り成功時のブザーと LED 点滅の回数)

ブザーの回数—エラー時

読み取り失敗時またはエラー時にスキャナーから発せられるブザーと LED 点滅の回数は、1~9 回にプログラムできます。たとえば、このオプションでエラー音を 5 回

にプログラムした場合、エラー時にはエラー音が 5 回鳴り、LED が 5 回点滅します。エラー時のブザーの回数を変更するには、下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値（1～9）バーコードをスキャンし、その後 **Save（保存）** をスキャンします。デフォルト値 = 1。



BEPERR.

Number of Error Beeps/LED Flashes (エラー時のブザーと LED 点滅の回数)

読み取り成功時の遅延

スキャナーで別のバーコードの読み取りが可能になるまでの最短時間を設定します。デフォルト値 = 0 ms (遅延なし)。



DLYGRD0.

* No Delay (遅延なし)



DLYGRD500.

Short Delay (500 ms) (短い遅延 [500 ms])



DLYGRD1000.

Medium Delay (1000 ms) (中程度の遅延 [1,000 ms])



DLYGRD1500.

Long Delay (1500 ms) (長い遅延 [1,500 ms])

ユーザー指定の読み取り成功時の遅延

読み取り成功時の遅延の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンして、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値をスキャンして遅延（0～30,000 ミリ秒）を設定し、その後 **Save（保存）** をスキャンします。



DLYGRD.

User-Specified Good Read Delay (ユーザー指定の読み取り成功時の遅延)

オブジェクト検出モード

赤外線（IR）ビームを使用して、スキャナーの視野角内のオブジェクトを検出します。オブジェクトが検出されると、スキャナーはバーコードのスキャンを試行します。ターゲットが約6インチ（15cm）離れた距離にある場合は、**Object Detection Mode（オブジェクト検出モード）**をスキャンした後、**Short Range（近距離）**コードをスキャンします。ターゲットが約9インチ（23cm）離れた距離にある場合は、**Object Detection Mode（オブジェクト検出モード）**をスキャンした後、**Mid Range（中距離）**コードをスキャンします。



Object Detection Mode（オブジェクト検出モード）



*Object Detection - Short Range（オブジェクト検出 - 近距離）



Object Detection - Mid Range（オブジェクト検出 - 中距離）

トリガー・モード

手動トリガー

読み取りにスキャン・トリガーを押す必要がある場合は、**Manual Trigger - Normal（手動トリガー - 標準）**コードをスキャンします。手動トリガー・モードでは、バーコードが読み取られるまで、またはスキャン・トリガーを放すまでスキャナーはスキャンを行います。**Normal（標準）**と**Enhanced（拡張）**の2つのモードがあります。**Normal（標準）**モードでは、高速で広い読み取り範囲（被写界深度）でスキャンします。**Enhanced（拡張）**モードでは、最速のスキャン速度が得られますが、読み取り範囲が**Normal（標準）**モードよりも少し狭くなります。**Enhanced（拡張）**モードは、広い読み取り範囲を必要とせず、高速にスキャンを行いたい場合に適しています。



Manual Trigger - Normal（手動トリガー - 標準）



Manual Trigger - Enhanced（手動トリガー - 拡張）

トリガー・トグル

Trigger Toggle（トリガー・トグル）モードでは、2回または3回トリガーを素早く押すことで、スキャナーをイメージング・モードまたはセンタリング・モードに切り替えた後、再度スキャンに戻ることができます。マウスでダブルクリックするのと同じように、スキャナーの次のアクションを制御できます。たとえば、トリガーを

2回押ししてイメージング・モードにした後、もう一度トリガーを押して画像を撮影できます。その後、スキャナーはスキャン・モードに戻ります。以下のコードを使用して、Trigger Toggle (トリガー・トグル) モードの場合にスキャナーが行うアクションを設定します。



*Trigger Toggle Off (トリガー・トグル・オフ)



Trigger Toggle - Image Capture (トリガー・トグル - 画像キャプチャー)



Trigger Toggle - Centering (トリガー・トグル - センタリング)

トリガー回数

Trigger Toggle (トリガー・トグル) モードを有効にするために必要なトリガー押下回数を設定します。



2 Quick Triggers (2クイック・トリガー)



3 Quick Triggers (3クイック・トリガー)



4 Quick Triggers (4クイック・トリガー)

トリガー・タイミング

通常のトリガー押下ではなく、トリガー・トグルとしてみなすためのトリガー押下のタイミングを設定します。**Trigger Timing (トリガー・タイミング)** バーコードをスキャンしてから、239ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から数字をスキャンしてタイムアウト期間 (50~2,000 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 400ms。



Trigger Timing (トリガー・タイミング)

トリガ・トグル・タイムアウト

スキャナーがスキャン・モードに戻るまでのトリガー・トグル・モードのままでの時間を設定します。**Trigger Toggle Timeout (トリガー・トグル・タイムアウト)** バーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」から数字をスキャンしてタイムアウト期間 (0~65 秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 5 秒。

注: 0 に設定した場合、デフォルトのスキャン・モードに戻るには、トグル・シーケンスを繰り返す必要があります。たとえば、トリガーを素早く 2 回押下して、スキャナーをセンタリング・モードにした場合、**Trigger Timing (トリガー・タイミング)** が 0 であると、デフォルトのスキャン・モードに戻るには、再度 2 回素早く押下する必要があります。



シリアル・トリガー

トリガーを押すか、シリアル・トリガー・コマンド (188 ページの「**トリガー・コマンド**」を参照) を使用すると、スキャナーを有効化できます。シリアル・トリガーを使用するには、シリアル・インターフェース・モードである必要があります。詳しくは、「**RS232 シリアル・ポート**」 (10 ページ) または「**USB シリアル**」 (12 ページ) を参照してください。シリアル・モードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまでスキャナーがスキャンを続けます。スキャナーは、指定した時間が経過した後に電源をオフにするように設定することもできます (下記の「**読み取りタイムアウト**」を参照)。

読み取りタイムアウト

シリアル・コマンドを使用してスキャナーをトリガーする場合に、このオプションを使用して、スキャナーのトリガーのタイムアウト (ミリ秒) を設定します。スキャナーがタイムアウトしたら、トリガーを押すか、シリアル・トリガー・コマンドを使用してスキャナーを起動することができます。**Read Time-Out (読み取りタイムアウト)** バーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」から数字をスキャンしてタイムアウト期間 (0~300,000 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 30,000 ms。



プレゼンテーション・モード

Presentation Mode (プレゼンテーション・モード) では、環境光とスキャナーの照明を使用してバーコードを検出します。**Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)** では、バーコードをスキャナーにかざすまで LED は点灯しません。スキャナーにかざすと、エイマーがオンになり、LED が点灯してコードを読み取ります。室内の照明レベルが十分ではない場合、**Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)** が正しく機能しない場合があります。スキャナーを **Presentation Mode (プ**

レゼンテーション・モード) にプログラムするには、以下のバーコードをスキャンします。



PAPTPR.

Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)

トリガード・プレゼンテーション・モード

このモードでは、照明を使用してオブジェクトの存在を検出します。デフォルト値 = *Ambient and Scanner Light* (環境光とスキャナー照明)。



PDCLED0.

Ambient Light Only (環境光のみ)



PDCLED1.

*Ambient and Scanner Light (環境光とスキャナー照明)

デコード後のプレゼンテーション LED の動作

スキャナーがプレゼンテーション・モードの場合、バーコードのデコード後 30 秒したら、LED エイマーが消灯します。バーコードのデコード後、直ちに LED エイマーを消灯させたい場合は、以下の **LEDs Off (LED オフ)** バーコードをスキャンしてください。デフォルト値 = *LEDs On (LED オン)*。



TRGPCK1.

*LEDs On (LED オン)



TRGPCK0.

LEDs Off (LED オフ)

プレゼンテーション・センタリング

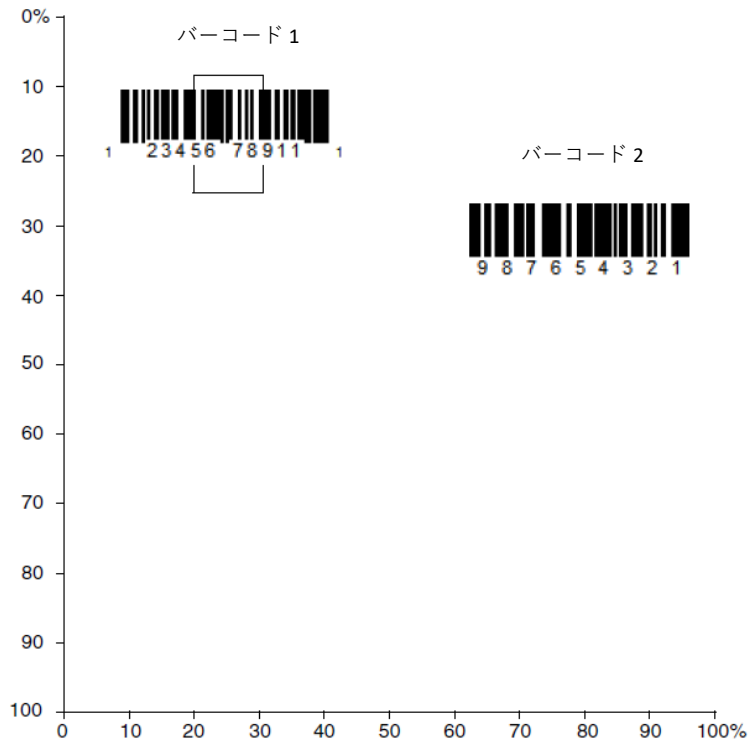
スキャナーをスタンドに装着したときに、ユーザーの意図するバーコードだけが読み取られるようにスキャナーの読み取りエリアを狭めるには、プレゼンテーション・センタリングを使用します。たとえば、複数のコードが互いに近接している場合に、プレゼンテーション・センタリングを使用することで、目的のコードだけが読み取られるようになります。

注： スキャナーを手で持った状態でセンタリングを調節するには、[「センタリング」](#) (3-54 ページ) を参照してください。

事前定義されたウィンドウにバーコードが触れない場合、スキャナーによるデコードも出力も行われません。 **Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)** をスキャンしてプレゼンテーション・センタリングをオンにした場合、 **Top of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・**

ウィンドウ上辺)、Bottom of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ下辺)、Left of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ左辺)、および Right of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ右辺) の各バーコードで指定したセンタリング・ウィンドウを通過するコードのみがスキャナーで読み取られます。

以下の例では、白いボックスがセンタリング・ウィンドウです。センタリング・ウィンドウは左側 20%、右側 30%、上側 8%、下側 25% に設定されています。バーコード 1 は、センタリング・ウィンドウを通過するので読み取られます。バーコード 2 は、センタリング・ウィンドウを通過しないので読み取られません。



注： バーコードはセンタリング・ウィンドウに触れると読み取られます。バーコードがセンタリング・ウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリング・ウィンドウの上辺、下辺、左辺、または右辺を変更するには、**Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)** をスキャンしてから、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。次に、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」からセンタリング・ウィンドウの位置を変更する割合をスキャンした後、**Save (保存)** をスキャンします。プレゼンテーション・センタリングのデフォルト値 = 40% (上辺および左辺)、60% (下辺および右辺)。



* Presentation Centering Off (プレゼンテーション・センタリング・オフ)



PDCTOP.

Top of Presentation Centering Window (プレゼン
テーション・センタリング・ウィンドウ上辺)



PDCBOT.

Bottom of Presentation Centering Window (プレゼン
テーション・センタリング・ウィンドウ下辺)



PDCLFT.

Left of Presentation Centering Window (プレゼン
テーション・センタリング・ウィンドウ左辺)



PDCRGT.

Right of Presentation Centering Window (プレゼンテ
ーション・センタリング・ウィンドウ右辺)

低品質コード

低品質 1 次元コード

この設定を使用すると、損傷したりニア・バーコードや印刷状態の悪いリニア・バーコードを読み取る機能が向上します。**Poor Quality 1D Reading On (低品質 1 次元読み取りオン)** をスキャンすると、低品質のリニア・バーコードの読み取り機能は向上しますが、スキャナーの機敏性は低下するため、高品質のバーコードを読み取る際の生産性が低くなります。この設定は、2次元バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト値 = **Poor Quality 1D Reading Off (低品質 1 次元読み取りオフ)**。



DECLD1.

Poor Quality 1D Reading On (低品質 1 次元読み取
りオン)



DECLD0.

* Poor Quality 1D Reading Off (低品質 1 次元読み取り
オフ)

低品質 PDF コード

この設定を使用すると、複数の画像の情報を組み合わせることにより、損傷した PDF コードや印刷状態の悪い PDF コードを読み取る機能が向上します。1 枚の画像にバーコード全体が表示されない場合に便利です。この設定は、1 次元バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト値 = *Poor Quality PDF Reading Off* (低品質 PDF 読み取りオフ)。



* Poor Quality PDF Reading On (低品質 PDF 読み取りオン)



Poor Quality PDF Reading Off (低品質 PDF 読み取りオフ)

低解像度 PDF コード

この設定を使用すると、低解像度 PDF コードを読み取る機能が向上します。**Low Resolution PDF Codes On** (低解像度 PDF コード・オン) をスキャンすると、低品質の PDF コードの読み取り機能は向上しますが、スキャナーの機敏性は低下するため、高品質のバーコードを読み取る際の生産性が低くなります。この設定は、1 次元バーコードの読み取りには影響しません。デフォルト値 = *Low Resolution PDF Codes Off* (低解像度 PDF コード・オフ)。



Low Resolution PDF Codes On (低解像度 PDF コード・オン)



* Low Resolution PDF Codes Off (低解像度 PDF コード・オフ)

CodeGate™

CodeGate が **On** (オン) であると、トリガーを使用して、デコードされたデータをホスト・システムに送信できます。スキャナーはオンのままで、バーコードのスキャンもデコードも行いますが、トリガーが押されるまでバーコード・データは送信されません。CodeGate が **Off** (オフ) であると、バーコード・データはデコードされると直ぐに送信されます。デフォルト値 = *CodeGate Off Out-of-Stand* (CodeGate オフ、スタンド不使用時)。



* CodeGate Off
Out-of-Stand (CodeGate オフ、スタンド不使用時)



AOSCGD1.

CodeGate On

Out-of-Stand (CodeGate オン、スタンド不使用時)

ハンズフリー・タイムアウト

Presentation Mode (プレゼンテーション・モード) は「ハンズフリー」モードと呼ばれます。ハンズフリー・モードの使用中にスキャナーのトリガーを引くと、スキャナーは手動トリガー・モードに変わります。**Hands Free Time-Out** (ハンズフリー・タイムアウト) を設定することで、スキャナーが手動トリガー・モードのままでの時間を設定できます。タイムアウト値に達すると、(さらにトリガーを引かなければ) スキャナーは元のハンズフリー・モードに戻ります。

Hands Free Time-Out (ハンズフリー・タイムアウト) バーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」からタイムアウト期間 (0~300,000 ミリ秒) をスキャンした後、**Save** (保存) をスキャンします。デフォルト値 = 5,000 ms。



TRGPTO.

Hands Free Time-Out (ハンズフリー・タイムアウト)

再読み取り遅延

スキャナーで同じバーコードを再度読み取れるようになるまでの時間を設定します。再読み取り遅延を設定することで、同じバーコードを誤って再読み取りするのを防げます。不測の再読み取りを最小限に抑えるには、遅延時間を長くすることが有効です。バーコードを繰り返しスキャンする必要がある場合は、アプリケーションの遅延時間を短くしてください。再読み取り遅延は**プレゼンテーション・モード** (42 ページ) でのみ機能します。デフォルト値 = *Medium* (中)。



DLYRRD500.

Short (500 ms) (短 [500 ms])



DLYRRD750.

* Medium (750 ms) (中 [750 ms])



DLYRRD1000.

Long (1000 ms) (長 [1000 ms])



DLYRRD2000.

Extra Long (2000 ms) (極長 [2000 ms])

ユーザー指定の再読み取り遅延

再読み取り遅延の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンして、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値をスキャンして遅延（0～30,000 ミリ秒）を設定し、その後 **Save**（保存）をスキャンします。



User-Specified Reread Delay (ユーザー指定の再読み取り遅延)

2次元再読み取り遅延

2次元バーコードの読み取りには他のバーコードより時間がかかることがあります。2次元バーコード用に別の再読み取り遅延を設定するには、以下のプログラミングコードのいずれかをスキャンします。**2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)**では、**再読み取り遅延**に設定した時間が1次元バーコードと2次元バーコードの両方に使用されます。デフォルト値 = **2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)**。



* 2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)



Short (1000ms) (短 [1000 ms])



Medium (2000ms) (中 [2000 ms])



Long (3000ms) (長 [3000 ms])



Extra Long (4000ms) (極長 [4000 ms])

文字有効化

ホストから送信される文字によってスキャナーをトリガーして、スキャンを開始できます。有効化文字を受信すると、**文字有効化タイムアウト** (3-50 ページ) になるか、無効化文字を受信するか (50 ページの「無効化文字」を参照)、バーコードを送信するまで、スキャナーがスキャンを継続します。文字有効化を使用するには、**On (オン)** バーコードをスキャンしてから、**有効化文字** (49 ページ) を使用して、スキャン開始のためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



有効化文字

文字有効化モードでスキャン開始のために使用する文字を設定します。「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」(228 ページ)で、スキャン開始のために使用する文字を表す 16 進数値を見つけます。以下のバーコードをスキャンしてから、その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを「[プログラミング・チャート](#)」で読み取ります。**Save (保存)** をスキャンして終了します。デフォルト値 = 12 [DC2]。



読み取り成功後に文字有効化を終了

スキャナーでバーコードの検出および読み取りに成功した後、照明をオンのままにしてスキャンを継続するか、照明をオフにするかをプログラムできます。**End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了)** を有効にすると、読み取り成功後に照明はオフになりスキャンが停止します。**Do Not End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了しない)** をスキャンすると、読み取り成功後も照明はオンのままになります。



文字有効化タイムアウト

文字有効化モードの使用時に照明をオンのままにしてバーコードのデコードを試行する時間のタイムアウトを設定できます。タイムアウトの時間（ミリ秒単位）を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」の数字をスキャンしてタイムアウト（1～300,000 ミリ秒）を設定した後、**Save（保存）** をスキャンします。デフォルト値 = 30,000 ms。



HSTCDT.

Character Activation Timeout（文字有効化タイムアウト）

文字無効化

ホストから文字を送信することによってスキャナーをトリガーしてスキャンを開始した場合は、無効化文字を送信してスキャンを停止することもできます。文字無効化を使用するには、以下の **On（オン）** バーコードをスキャンしてから、**無効化文字**（下記）を使用して、スキャン終了のためにホストから送信する文字を選択します。デフォルト値 = **Off（オフ）**。



HSTDEN0.

* off（オフ）



HSTDEN1.

On（オン）

無効化文字

文字無効化モードでスキャン終了のために使用する文字を設定します。「ASCII 変換表（コード・ページ 1252）」（228 ページ）で、スキャン終了のために使用する文字を表す 16 進数値を見つけます。以下のバーコードをスキャンしてから、その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを 239 ページ以降の「プログラミング・チャート」で読み取ります。**Save（保存）** をスキャンして終了します。デフォルト値 = 14 [DC4]。



HSTDCH.

Deactivation Character（無効化文字）

照明

バーコードの読み取り時に照明を点けたい場合は、以下の **Lights On (照明オン)** バーコードをスキャンします。照明をオフにしたい場合は、**Lights Off (照明オフ)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = **Lights On (照明オン)**。

注： この設定は、エイマーの照明には影響しません。エイミング照明は「エイマー・モード」(52 ページ) で設定できます。



* Lights On (照明オン)



SCNLED0.

Lights Off (照明オフ)

エイマー遅延

オペレーターがスキャナーの狙いを定めて画像を取り込むまでの遅延時間を設定できます。以下のコードで、トリガーが引かれてから画像が取り込まれるまでの時間を設定します。遅延時間の間は、エイミング照明は点灯せず、遅延時間が過ぎるまで LED はオンになりません。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



SCNDLY1.

1 millisecond (1 ミリ秒)



SCNDLY250.

250 milliseconds (250 ミリ秒)



SCNDLY500.

500 milliseconds (500 ミリ秒)



SCNDLY0.

* Off (no (オフ[遅延なし])) [A1]

ユーザー定義のエイマー遅延

遅延の長さを独自に設定したい場合は、以下のバーコードをスキャンして、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値（0～4,000 ms）をスキャンしてタイムアウトを設定し、その後 **Save（保存）** をスキャンします。



SCNDLY.

Delay Duration（遅延時間）

エイマー・モード

この機能では、エイマーのオン/オフを切り替えることができます。**Interlaced（インターレース）** バーコードをスキャンすると、エイマーは照明 LED とインターレースされます。デフォルト値 = *Interlaced*（インターレース）。



SCNAIM0.

off（オフ）



SCNAIM2.

* Interlaced（インターレース）

プレゼンテーション・エイマー・モード

この機能では、スキャナーが Presentation Mode (プレゼンテーション・モード)、Presentation - Mobile Phone (プレゼンテーション - 携帯電話)、Streaming Presentation Mode (ストリーミング・プレゼンテーション・モード)、または Streaming Presentation - Mobile Phone (ストリーミング・プレゼンテーション - 携帯電話) の間にエイマーのオン/オフを切り替えることができます。Interlaced (インターレース) バーコードをスキャンすると、エイマーは照明 LED とインターレースされます。デフォルト値 = Aimer Off (エイマー・オフ)。



PDCAIM2.

Interlaced (インターレース)



PDCAIM0.

* off (オフ)

拡張オブジェクト検出

Enhanced Object Detection (拡張オブジェクト検出) モードでは、スキャン照明が常にオンのまま、バーコードの検索が続けられます。Normal Object Detection (標準オブジェクト検出) モードでは、スキャン照明はバーコードの読み取り時はオンですが、アイドル時はオフになります。拡張モードでは、オブジェクトの検出感度が向上します。デフォルト値 = Normal Object Detection (標準オブジェクト検出)。

注：注：Enhanced Object Detection (拡張オブジェクト検出) は、プレゼンテーション・モード (PAPTPR) (42 ページ) でのみ有効です。



TRGOPE0.

*Normal Object Detection (標準オブジェクト
検出)



TRGOPE1.

Enhanced Object Detection (拡張オブジェクト検
出)

センタリング

センタリングを使用してスキャナーの読み取りエリアを狭めることで、スキャナーを手で持ったときに、ユーザーの意図するバーコードだけが読み取られるようにすることができます。たとえば、複数のコードが互いに近接している場合に、センタリングを使用することで、目的のコードだけが読み取られるようになります。（センタリングを [エイマー遅延](#)（51 ページ）と一緒に使用することで、複数のコードが接近して配置されている作業現場でエラーができるだけ発生しないようにできます。エイマー遅延とセンタリング機能を併用すると、リニア・レーザー・バーコード・スキャナーなどの旧式のシステムの動作をエミュレートできます）。

注： スキャナーをスタンドに置いてセンタリングを調節するには、「[プレゼンテーション・センタリング](#)」（3-43 ページ）を参照してください。

単一コード・センタリング

Single Code Centering（単一コード・センタリング）をスキャンすると、画像の中心に最も近いバーコードが対象になります。複数のバーコードが近接している場合、この方法でバーコードを選び出すことで、スキャンの精度が向上します。

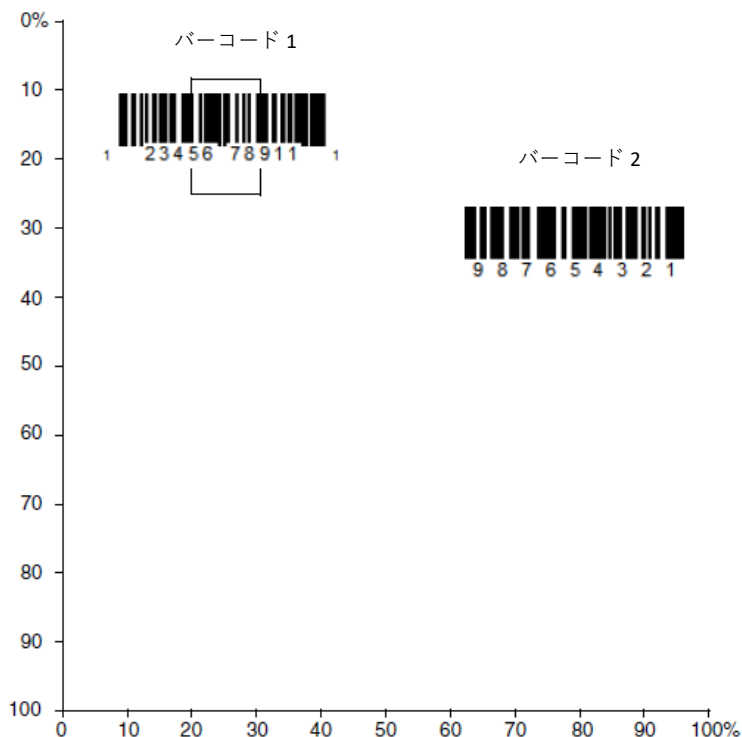


Single Code Centering（単一コード・センタリング）

カスタム・センタリング

以下の設定を使用して、センタリング・ウィンドウをカスタマイズします。事前定義されたウィンドウにバーコードが触れない場合、スキャナーによるデコードも出力も行われません。**Centering On**（センタリング・オン）をスキャンしてセンタリングをオンにした場合、**Top of Centering Window**（センタリング・ウィンドウ上辺）、**Bottom of Centering Window**（センタリング・ウィンドウ下辺）、**Left of Centering Window**（センタリング・ウィンドウ左辺）、および **Right of Centering Window**（センタリング・ウィンドウ右辺）の各バーコードで指定したセンタリング・ウィンドウを通過するコードのみがスキャナーで読み取られます。

例： 以下の例では、白いボックスがセンタリング・ウィンドウです。センタリング・ウィンドウは左側 20%、右側 30%、上側 8%、下側 25%に設定されています。バーコード 1 は、センタリング・ウィンドウを通過するので読み取られます。バーコード 2 は、センタリング・ウィンドウを通過しないので読み取られません。



注： バーコードはセンタリング・ウィンドウに触れると読み取られます。バーコードがセンタリング・ウィンドウを完全に通過する必要はありません。

センタリング・ウィンドウの上辺、下辺、左辺、または右辺を変更するには、**Centering On (センタリング・オン)** をスキャンしてから、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。次に、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」の数字を使用して、センタリング・ウィンドウの位置を変更する割合をスキャンした後、**Save (保存)** をスキャンします。センタリングのデフォルト値 = 40% (上辺および左辺)、60% (下辺および右辺)。



Centering On (センタリング・オン)



* Centering Off (センタリング・オフ)



Top of Centering Window (センタリング・ウィンドウ上辺)



DECBOT.

Bottom of Centering Window (センタリング・ウィンドウ下辺)



DECLFT.

Left of Centering Window (センタリング・ウィンドウ左辺)



DECRGT.

Right of Centering Window (センタリング・ウィンドウ右辺)

優先シンボル体系

優先度の高いものと低いものの両方のバーコード・シンボル体系が同一ラベルに表示され、優先度の低いシンボル体系を無効にできない場合に一方のシンボル体系の優先度を高くするように、スキャナーをプログラムできます。

たとえば、U.P.C.シンボルを読み取るように小売店舗のスキャナーが設定されている場合に、運転免許証のコードの読み取りが必要になることがあります。一部の免許証には Code 39 シンボルの他に PDF417 シンボルもあるため、優先シンボル体系を使用することで、Code 39 の代わりに PDF417 シンボルを読み取るよう指定することができます。

優先シンボル体系では、各シンボル体系を高優先度、低優先度、指定なしタイプに分類します。優先度の低いシンボル体系が出現した場合、スキャナーは一定時間このシンボル体系を無視して (57 ページの「優先シンボル体系のタイムアウト」を参照)、優先度の高いシンボル体系を検索します。この時間内に優先度が高いシンボル体系が見つければ、そのデータが直ちに読み取られます。

優先度が高いシンボル体系が読み取られる前にタイムアウトになった場合、スキャナーは視界内のバーコード (低優先度または指定なし) を読み取ります。タイムアウト時間が過ぎてもスキャナーの視界内にバーコードが見つからない場合は、データは報告されません。

注： 優先度の低いシンボルを読み取るには、エイミング・パターンの中央に配置する必要があります。

優先シンボル体系を有効または無効にするには、以下のバーコードをスキャンしてください。デフォルト値 = Preferred Symbology Off (優先シンボル体系オフ)。



PRFENA1.

Preferred Symbology On (優先シンボル体系オン)



PRFENA0.

* Preferred Symbology Off (優先シンボル体系オフ)

高優先度シンボル体系

優先度の高いシンボル体系を指定するには、以下の **High Priority Symbology**（**高優先度シンボル体系**）バーコードをスキャンします。225 ページの「**シンボル体系チャート**」で、高優先度に設定するシンボル体系を確認します。そのシンボル体系の 16 進数値を見つけ、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」で 2 桁の 16 進数値をスキャンした後、**Save**（**保存**）をスキャンします。デフォルト値 = **None**（なし）。



PRFCOD.

High Priority Symbology（高優先度シンボル体系）

低優先度シンボル体系

優先度の低いシンボル体系を指定するには、以下の **Low Priority Symbology**（**低優先度シンボル体系**）バーコードをスキャンします。225 ページの「**シンボル体系チャート**」で、低優先度に設定するシンボル体系を確認します。そのシンボル体系の 16 進数値を見つけ、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」で 2 桁の 16 進数値をスキャンします。

優先度の低いシンボル体系をさらに設定する場合は、**FF** をスキャンした後、次のシンボル体系に対応する 2 桁の 16 進数値を 239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」からスキャンします。低優先度シンボル体系は最大 5 つまでプログラムできます。**Save**（**保存**）をスキャンして、選択内容を保存します。デフォルト値 = **None**（なし）。



PRFBLK.

Low Priority Symbology（低優先度シンボル体系）

優先シンボル体系のタイムアウト

優先シンボル体系を有効にし、高優先度シンボル体系および低優先度シンボル体系を入力したら、タイムアウト時間を設定する必要があります。これは、優先度の低いバーコードが見つかった後、スキャナーが優先度の高いバーコードを検索する時間です。下記のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」の数字をスキャンして遅延（1~3,000 ミリ秒）を設定した後、**Save**（**保存**）をスキャンします。デフォルト値 = **500 ms**。



PRFPTO.

Preferred Symbology Time-out（優先シンボル体系のタイムアウト）

優先シンボル体系のデフォルト

以下のバーコードをスキャンして、優先シンボル体系のすべての入力内容をデフォルト値に設定します。



PRFDFT.

Preferred Symbology Default（優先シンボル体系のデフォルト）

アウトプット・シーケンスの概要

アウトプット・シーケンス・エディター

このプログラミング・オプションにより、バーコードがスキャンされる順序に関係なく、アプリケーションに必要な任意の順序でデータを出力するようスキャナーをプログラムできます（複数のシンボルをスキャンする場合）。アウトプット・シーケンスで最大 15 のバーコードを定義できます。

注： アウトプット・シーケンス・エディターを設定するには、アプリケーションで必要となるコードID、コード長、および合致文字を把握しておく必要があります。239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」の英数字シンボルを使用してください。シーケンスの各バーコードの読み取り中は、トリガーを押したままにしておく必要があります。

アウトプット・シーケンスの追加

アウトプット・シーケンスを作成するには、スキャナーに送信するシリアル・コマンド文字列を使用します。EZConfig ソフトウェア・ツール（183 ページの「[EZConfig for Scanning の概要](#)」を参照）を使用すれば、このコマンド文字列をスキャナーに簡単に送信できます。また、英数字バーコード（239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」を参照）をスキャンすることもできます。

1. バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成する場合は、62 ページの [Enter Output Sequence](#)（アウトプット・シーケンスの入力）をスキャンします。
2. **コード ID**
225 ページの「[シンボル体系チャート](#)」で、アウトプット・シーケンス・フォーマットを適用したいシンボル体系を探します。シンボル体系の 16 進数値をメモしておきます。バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成する場合は、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から 2 桁の 16 進数値をスキャンします。.
3. **長さ**
このシンボル体系で対応可能なデータ出力長（最大 9999 文字）を指定します。長さをメモしておきます。バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成する場合は、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から 4 桁のデータ長をスキャンします。。（注：50 文字は **0050** と入力します。9999 は汎用の数字で、すべての長さを示します。）長さを計算するときには、プログラミングしたすべてのプレフィックス、サフィックス、またはフォーマットした文字を、長さの一部としてカウントする必要があります（9999 を使用する場合を除く）。
4. **合致文字シーケンス**
「[ASCII 変換表（コード・ページ 1252）](#)」（228 ページ）で、合致させたい文字を表す 16 進数値を見つけます。その文字の 16 進数値をメモしておきます。バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成する場合は、その ASCII 文字を表す英数字の組み合わせを 239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」で読み取ります。（99 は汎用の数字で、すべての文字を示します。）

5. **アウトプット・シーケンス・エディターの終了**
FF を使用して、このコマンド文字列を終了するか、または別のアウトプット・シーケンスを開始します。バーコードを使用している場合は、FF をスキャンします。Save (保存) をスキャンして、入力内容を保存します。

その他のプログラミング選択項目

バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成している場合は、Discard (破棄) (240 ページ) をスキャンして、アウトプット・シーケンスの変更を保存しないで終了します。

アウトプット・シーケンス・エディターのコマンド

SEQBLK	シーケンス・エディターの開始コマンド。
SEQPRE	アウトプット・シーケンス全体にプレフィックスを追加。
SEQSUF	アウトプット・シーケンス全体にサフィックスを追加。
SEQSEP	アウトプット・シーケンス全体にセパレーターを追加。
SEQTTS1	部分シーケンスを送信。
SEQSAT	アウトプット・シーケンス全体の満足するサブセットを定義。
SEQTIM	SEQSAT 使用時のシーケンス・メンバーのタイムアウト。
SEQIPR	部分アウトプット・シーケンスにプレフィックスを追加。
SEQISU	部分アウトプット・シーケンスにサフィックスを追加。
SEQISE	部分アウトプット・シーケンスにセパレーターを追加。
TRGSTO	部分アウトプット・シーケンスのタイムアウト。
FF	終了文字列。

これらのコマンドを使用例を以下に示します。

アウトプット・シーケンス例 1-3 つのシンボル体系



この例では、PDF417、Code 128、および Code 39 のバーコードをスキャンし、スキヤナーでまず Code 39 を出力し、2 番目に Code 128、3 番目に PDF417 を出力するとします。

この場合、以下のコマンド行でシーケンス・エディターを設定します。

SEQBLK シーケンス・エディターの開始コマンド

62	Code 39 のコード ID
9999	Code 39 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
43	Code 39 に適用される開始文字、43h = "C"
FF	最初のコードの終了文字列
6A	Code 128 のコード ID
9999	Code 128 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
54	Code 128 に適用される開始文字、54h = "T"
FF	最初[A2]のコードの終了文字列
72	PDF417 のコード ID
9999	PDF417 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
4D	PDF417 に適用される開始文字、4Dh = "M"
FF	3 番目のコードの終了文字列

コマンド行全体は以下のようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFF

データは以下のように出力されます。

CODE39SMPLTSTMSGCODE128MSGPDF417

次の例では、この出力をさらに細かく設定します。

アウトプット・シーケンス例 2-3 つのシンボル体系で<>セパレーターを使用

この例では、同じ 3 つのバーコードをスキャンしますが、<>ブラケット、キャリッジ・リターン、ライン・フィードを使用して出力を区切ります。



シーケンス・エディターは、「[アウトプット・シーケンス例 1-3 つのシンボル体系](#)」(59 ページ) と同じコマンド行を使用します。

SEQBLK	シーケンス・エディターの開始コマンド
62	Code 39 のコード ID
9999	Code 39 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
43	Code 39 に適用される開始文字、43h = "C"

FF	最初のコードの終了文字列
6A	Code 128 のコード ID
9999	Code 128 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
54	Code 128 に適用される開始文字、54h = "T"
FF	2 番目 最初のコードの終了文字列[A3]
72	PDF417 のコード ID
9999	PDF417 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
4D	PDF417 に適用される開始文字、4Dh = "M"
FF	3 番目のコードの終了文字列

各シーケンスに<>セパレーターを追加：

SEQSEP99	各シーケンスのセパレーター、99 = すべてのシンボル体系
3C	左のブラケット (<)
3E	右のブラケット (>)

キャリッジ・リターンとライン・フィードをサフィックスとして追加：

SEQSUF99	サフィックスのセパレーター、99 = すべてのシンボル体系
0D	キャリッジ・リターン
0A	ライン・フィード

コマンド行全体は以下のようになります。

SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFFSEQSEP993C3ESEQSUF990D0 A

データは以下のように出力されます。

<CODE39SMPL>

<TSTMSGCODE128>

<MSGPDF417>

アウトプット・シーケンスの入力

バーコードを使用してアウトプット・シーケンスを作成する場合は、**Enter Output Sequence (アウトプット・シーケンスの入力)** をスキャンして、文字列のスキャンを開始します。



Enter Output Sequence (アウトプット・シーケンスの入力)

部分シーケンス

アウトプット・シーケンスの操作が、すべてのアウトプット・シーケンス条件を満たす前に終了した場合、その時点までに取得したバーコード・データが「部分シーケンス」です。部分シーケンスの出力方法は、アウトプット・シーケンスの作成に使用したコマンド文字列と同じタイプのコマンド文字列を使用して定義できます。

部分シーケンス例 - 3つのシンボル体系で<>セパレーターを使用、破損したコードがある場合

この例では、PDF417、Code 128、および Code 39 のバーコードをスキャンし、スキャナーでまず Code 39、2 番目に Code 128、3 番目に PDF417 をそれぞれ以下に示すようにブラケットで囲んで出力するとします。ただし、Code 39 のバーコードが破損しており、出力できないとします。



「[アウトプット・シーケンス例 2-3つのシンボル体系で<>セパレーターを使用](#)」(60 ページ) と同じコマンド行を使用します。

SEQBLK	シーケンス・エディターの開始コマンド
62	Code 39 のコード ID
9999	Code 39 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
43	Code 39 に適用される開始文字、43h = "C"
FF	最初のコードの終了文字列
6A	Code 128 のコード ID
9999	Code 128 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
54	Code 128 に適用される開始文字、54h = "T"
FF	<u>2 番目</u> 最初[A4]のコードの終了文字列

72	PDF417 のコード ID
9999	PDF417 に適用されるコード長、9999 = すべての長さ
4D	PDF417 に適用される開始文字、4Dh = "M"
FF	3 番目のコードの終了文字列
SEQSEP99	各シーケンスのセパレーター、99 = すべてのシンボル体系
3C	左のブラケット (<)
3E	右のブラケット (>)
SEQSUF99	サフィックスのセパレーター、99 = すべてのシンボル体系
0D	キャリッジ・リターン
0A	ライン・フィード

部分シーケンスであることを示すために、プレフィックスとして**>PARTIAL<**を追加：

SEQTTS1	部分シーケンスを送信
SEQISU99	部分シーケンスのプレフィックスを追加、99 = すべてのシンボル体系
3E	右のブラケット (>)
50	P
41	A
52	R
54	T
49	I
41	A
4C	L
3C	左のブラケット (<)

コマンド行全体は以下のようになります。

**SEQBLK62999943FF6A999954FF7299994DFFSEQSEP993C3ESEQSUF990D0
ASEQTTS1SEQISU993E5041525449414C3C**

データは以下のように出力されます。

>PARTIAL<
<TSTMSGCODE128>
<MSGPDF417>

部分アウトプット・シーケンスの破棄

アウトプット・シーケンスの操作を完了する前に終了した場合に部分シーケンスを破棄するには、**Discard Partial Sequence (部分シーケンスの破棄)** をスキャンします。



* Discard Partial Sequence (部分シーケンスの破棄)

アウトプット・シーケンスのタイムアウト

SEQBLK コマンドで定義したアウトプット・シーケンスのすべてのコードにタイムアウトを設定できます。スキャナーは、現在のトリガー・セッション中に読み取ったいずれかのコードに対応する最も短いタイムアウトを適用します。タイムアウトになると、スキャナーは SEQBLK で定義されたシーケンスの順序で読み取ったすべてのコードを送信します。

タイムアウトを指定するには、SEQTIM コマンドを使用し、コマンドに続けてタイムアウトのリスト（ミリ秒単位）で指定します。各タイムアウトは 4 桁の 10 進数値で指定し、最後に FF を指定します。タイムアウト値 9999 は特殊で、そのコードのタイムアウトは「無限」になります。

SEQBLK で定義したシーケンス内のコードの数に対応する数のタイムアウトを指定します。さらに、シーケンスのメンバーに合致しないコードに適用させるため、もう 1 つタイムアウトを指定することができます。これは、Require Output Sequence（アウトプット・シーケンスの要求）が **On/Not Required (オン/要求しない)** の場合に有効です。定義されているシーケンスに含まれないコードに対してタイムアウトを指定しなかった場合、SEQTIM で指定した最後のタイムアウトが適用されます。

アウトプット・シーケンスのタイムアウト例

たとえば、SEQBLK で 4 つのコードから成るシーケンスを定義した場合、**SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF** コマンドを使用して、コード 1~4 それぞれに 5 秒、6 秒、7 秒、8 秒のタイムアウトを指定することができます。この場合、定義したシーケンスに含まれないコードには、暗黙的に 8 秒のタイムアウト（リスト内の最後のタイムアウト）が適用されます。このようなコードに明示的にタイムアウトを指定するには、リストの最後にもう 1 つタイムアウトを追加できます。たとえば、シーケンスにないコードに対して 1 秒のタイムアウトを指定するには、コマンド **SEQTIM5000FF6000FF7000FF8000FF1000FF** を使用します。

シーケンス全体の満足するサブセット

SEQBLK で指定したシーケンス全体から 1 つまたは複数のサブセットのバーコードを定義できます。こうしたサブセットの 1 つからすべてのコードをスキャンすると、シーケンス内で読み取ったすべてのコードが送信されます。スキャナーは、SEQBLK で定義されている順序でコードを送信します。

注： 満足するサブセット機能を使用するには、SEQTIM を使用して、シーケンス内の各コードにタイムアウトを指定する必要があります。

シーケンス全体の満足するサブセットのタイムアウト例

サブセットを指定するには、SEQSAT コマンドでメンバーをリストし、各サブセットを FF で終了します。各サブセットのメンバーは、シーケンス全体内のインデックスに対応する 1 桁の 16 進数値として指定します (1 は 1 番目を示します)。たとえば、シーケンスの 1 番目と 2 番目のコードから構成されるサブセット、および 2 番目と 3 番目のコードから構成されるサブセットの 2 つのサブセットを指定するには、コマンド **SEQSAT12FF23FF** を使用します。

奇数のコードのサブセットを定義するには、最後のコード・インデックスの前に 0 を挿入します。たとえば、最初のコード、2 番目のコード、3 番目のコードの 3 つのコードから成るサブセットを定義するには、コマンド **SEQSAT1203FF** を使用します。

デフォルトのアウトプット・シーケンス

Default Sequence (デフォルトのシーケンス) は、スキャナーをすべての汎用的な値にプログラムします。**Default Sequence (デフォルトのシーケンス)** シンボルを読み取る前に、必ずすべてのフォーマットを削除またはクリアしておいてください。



Default Sequence (デフォルトのシーケンス)

アウトプット・シーケンスの要求

アウトプット・シーケンスが **Required (要求する)** の場合、すべての出力データは編集したシーケンスと一致している必要があります。一致していない場合、スキャナーは出力データをホスト・デバイスに送信しません。**On/Not Required (オン/要求しない)** の場合は、スキャナーは編集したシーケンスに合うように出力データを取得しようとします。取得できない場合、スキャナーはすべての出力データをそのままホスト・デバイスに送信するか、または部分シーケンスの出力フォーマット (62 ページの「**部分シーケンス**」を参照) に従い出力データをフォーマットしてホスト・デバイスに送信します。

アウトプット・シーケンスが **Off (オフ)** の場合、バーコード・データはスキャナーがデコードした状態でホストに出力されます。 **デフォルト値 = Off (オフ)**。

注: この設定は、**Multiple Symbols (複数シンボル)** の設定がオンの場合は使用できません。



SEQ_EN2.
Required (要求する)



SEQ_EN1.
On/Not Required (オン/要求しない)



SEQ_EN0.
* Off (オフ)

読み取り成功音 - アウトプット・シーケンス

アウトプット・シーケンスの各バーコードの読み取りが成功した場合にブザー音またはクリック音を出すようにスキャナーをプログラムできます。または、部分シーケンスにブザー音またはエラー音を出すこともできます。 デフォルト値 = *Good Read Click - Each Code in Sequence* (読み取り成功クリック音 - シーケンスの各コード) および *Error Tone - Partial Sequence Output* (エラー音 - 部分シーケンス出力)。



Good Read Beep - Each Code in Sequence
(読み取り成功ブザー音 - シーケンスの各コード)



* Good Read Click - Each Code in Sequence (読み取り成功クリック音 - シーケンスの各コード)



Good Read Beep - Partial Sequence Output
(読み取り成功ブザー音 - 部分シーケンス出力)



* Error Tone - Partial Sequence Output (エラー音 - 部分シーケンス出力)

複数シンボル

このプログラミング機能を **On (オン)** にすると、スキャナーのトリガーを 1 回引くだけで複数のシンボルを読み取ることができます。トリガーを長押しした状態で複数のシンボルにスキャナーの照準を合わせると、各シンボルが 1 回ずつ読み取られます。読み取る際、その都度ブザー音が鳴るか、振動します (振動機能がオンの場合)。トリガーが引かれた状態であれば、スキャナーは新しいシンボルを探し、デコードします。最大 21 のバーコードを読み取ることができます。このプログラミング機能を **Off (オフ)** にすると、スキャナーはエイミング・ビームに最も近いシンボルだけを読み取ります。デフォルト値 = *Off (オフ)*。



On (オン)



* Off (オフ)

読み取りなし

No Read (読み取りなし) を **On (オン)** にすると、コードを読み取れない場合、スキャナーはその旨を通知します。EZConfig for Scanning のツール・スキャン・データ・ウィンドウ (183 ページを参照) を使用している場合、コードを読み取れないと「NR」が表示されます。No Read (読み取りなし) を **Off (オフ)** にすると、「NR」は表示されません。
デフォルト値 = Off (オフ)。



SHWNRD1.

On (オン)



SHWNRD0.

* Off (オフ)

「NR」ではなく「Error」(エラー) や「Bad Code」(異常なコード) などの別の表記にしたい場合は、出力メッセージを編集できます (77 ページ以降の「データ・フォーマット」を参照)。No Read (読み取りなし) のシンボルの 16 進数コードは **9C** です。

ビデオ・リバーズ

Video Reverse (ビデオ・リバーズ) を使用すると、反転したバーコードをスキャナーで読み取ることができます。下記の **Video Reverse Off (ビデオ・リバーズ・オフ)** バーコードは、このようなバーコードの一例です。反転したバーコードだけを読み取るには、**Video Reverse Only (ビデオ・リバーズのみ)** をスキャンします。両方のタイプのコードを読み取るには、**Video Reverse and Standard barcodes (ビデオ・リバーズおよび標準のバーコード)** をスキャンします。

注： **Video Reverse Only (ビデオ・リバーズのみ)** をスキャンした後に、メニュー・バーコードを読み取ることはできません。メニュー・バーコードを読み取るには、**Video Reverse Off (ビデオ・リバーズ・オフ)** または **Video Reverse and Standard barcodes (ビデオ・リバーズおよび標準のバーコード)** をスキャンする必要があります。

注： ユニットからダウンロードした画像は反転されません。これは、デコード専用の設定です。



VIDREV1.

Video Reverse Only (ビデオ・リバーズのみ)



VIDREV2.

Video Reverse and Standard barcodes (ビデオ・リバーズおよび標準のバーコード)

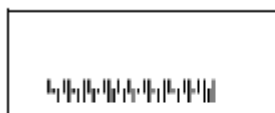


* Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)

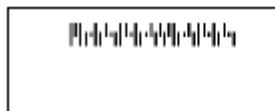
読み取り方向

バーコードによっては、読み取り方向の影響を受けるものがあります。たとえば、KIX コードおよび OCR は、横からまたは上下逆さまにスキャンすると誤読が発生する場合があります。読み取り方向の影響を受けるコードが、スキャナーに対して常に直立で提示されない場合は、読み取り方向を設定します。デフォルト値 = *Upright* (直立)。

Upright (直立) :



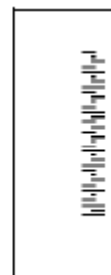
Upside Down (上下反対) :



Vertical, Top to Bottom (垂直、先頭上) : (時計回りに 90°回転)



Vertical, Bottom to Top (垂直、先頭下) : (反時計回りに 90°回転)



ROTATN0.

* Upright (直立)



ROTATN2.

Upside Down (上下反対)



ROTATN1.

Vertical, Bottom to Top (垂直、先頭下)



ROTATN3.

Vertical, Top to Bottom (垂直、先頭上)

タバコ製品に最適なスキャン

タバコ・コードは、ほとんどの欧州のタバコ製品で使用される専門の Dot Code バーコードおよびロシアのタバコ製品で使用される Data Matrix コードです。以下のプラグ&プレイ・コマンドで、タバコのバーコードのスキャンが向上します。



PAPTBR.

Optimized Scanning for Russian Tobacco Products
(ロシアのタバコ製品に最適なスキャン)



PAPTBE.

Optimized Scanning for European Tobacco Products
(欧州のタバコ製品に最適なスキャン)



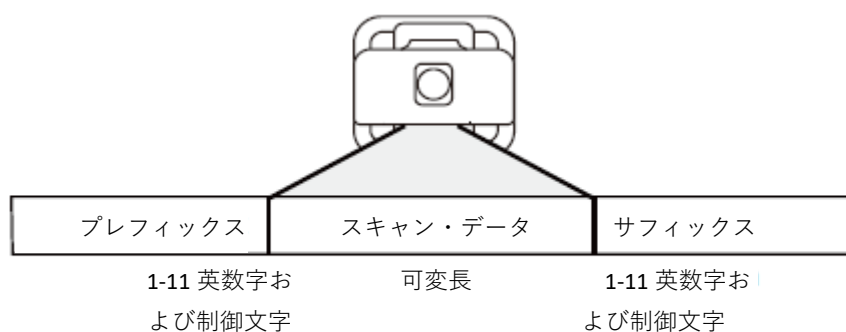
PAPTBC.

Optimized Scanning for both European and Russian
Tobacco Products (欧州とロシアの両方のタバコ
製品に最適なスキャン)

プレフィックス／サフィックスの概要

バーコードをスキャンすると、バーコード・データとともに、追加情報がホスト・コンピューターに送信されます。このバーコード・データと追加のユーザー定義データの集まりを「メッセージ文字列」と呼びます。このセクションに示す選択項目は、メッセージ文字列にユーザー定義データを組み込むために使用されます。

プレフィックス文字およびサフィックス文字は、スキャンされたデータの前後に送信できるデータ文字列です。すべてのシンボル体系に付加して送信するか、特定のシンボル体系のみに付加して送信するかを指定できます。以下の図は、メッセージ文字列の内訳を示しています。



注意点

- メッセージ文字列の構築は必須ではありません。この章に示す選択項目は、デフォルト設定を変更したい場合にのみ使用してください。プレフィックスのデフォルト値 = **None** (なし)。サフィックスのデフォルト値 = **None** (なし)。
- プレフィックスまたはサフィックスの追加またはクリアは、1つのシンボル体系のみ、またはシンボル体系に対して行うことができます。
- 228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」から任意のプレフィックスまたはサフィックスに加え、コード ID と AIM ID も追加できます。
- 一度に複数のシンボル体系に対して複数の入力をつなげることもできます。

- 出力に表示したい順にプレフィックスとサフィックスを入力します。
- (すべてのシンボル体系ではなく) 特定のシンボル体系に対して設定を行う場合、特定のシンボル体系の ID 値は、追加されたプレフィックス文字またはサフィックス文字として扱われます。
- プレフィックスまたはサフィックス設定の最大サイズは、200 文字です (ヘッダー情報を含む)。

プレフィックスまたはサフィックスの追加

- 手順 1. **Add Prefix (プレフィックスを追加)** または **Add Suffix (サフィックスを追加)** シンボル (73 ページ) をスキャンします。
- 手順 2. プレフィックスまたはサフィックスを適用するシンボル体系の 2 桁の 16 進数値を、「シンボル体系チャート」(225 ページ以降) で特定します。たとえば、Code 128 の場合、コード ID は「j」で、16 進数 ID は「6A」です。
- 手順 3. 239 ページ以降の「プログラミング・チャート」で、この 2 桁の 16 進数値をスキャンします。すべてのシンボル体系の場合は **9、9** をスキャンします。

コード ID を追加するには、**5、C、8、0** をスキャンします。

AIM ID を追加するには、**5、C、8、1** をスキャンします。

シリアル番号を追加するには、**5、C、8、8** をスキャンします。

バックスラッシュ (¥) を追加するには、**5、C、5、C** をスキャンします。

注: バックスラッシュ (¥) を追加するには、5C を 2 回スキャンする必要があります。1 回目は先行バックスラッシュを作成するため、2 回目はバックスラッシュ自体を作成するためです。

- 手順 4. すべてのプレフィックス文字またはサフィックス文字について、手順 2 と 3 を繰り返します。
- 手順 5. 保存して終了するには **Save (保存)** をスキャンし、保存しないで終了するには **Discard (破棄)** をスキャンします。別のシンボル体系にプレフィックスまたはサフィックスを追加するには、上記の手順を繰り返してください。

例：すべてのシンボル体系にタブ・サフィックスを追加する

- 手順 1. **Add Suffix (サフィックスを追加)** をスキャンします。
- 手順 2. このサフィックスをすべてのシンボル体系に適用するために、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **9、9** をスキャンします。
- 手順 3. 239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **0、9** をスキャンします。これは、228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」に示す水平タブの 16 進数値に一致します。
- 手順 4. **Save (保存)** をスキャンするか、保存しないで終了するには **Discard (破棄)** をスキャンします。

1 つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスをクリアする

シンボル体系のプレフィックスまたはサフィックスは、1 つまたはすべてクリアできます。単一のシンボル体系にプレフィックスおよびサフィックスを入力した場合、**Clear One Prefix (Suffix) (1 つのプレフィックス (サフィックス) をクリア)** を使用すると、シンボル体系から特定の文字を削除できます。**Clear All Prefixes (Suffixes) (すべてのプレフィックス (サフィックス) をクリア)** を使用すると、シンボル体系のプレフィックスまたはサフィックスがすべて削除されます。

- 手順 1. **Clear One Prefix (1つのプレフィックスをクリア)** または **Clear One Suffix (1つのサフィックスをクリア)** シンボルをスキャンします。
- 手順 2. プレフィックスまたはサフィックスを適用するシンボル体系の 2 桁の 16 進数値を、シンボル体系チャート (225 ページ以降の「[シンボル体系チャート](#)」に記載) で特定します。
- 手順 3. 239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」で、この 2 桁の 16 進数値をスキャンします。すべてのシンボル体系の場合は **9、9** をスキャンします。

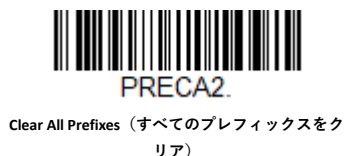
変更内容は自動的に保存されます。

すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを追加する

すべてのシンボル体系にキャリッジ・リターン・サフィックスを一括で追加する場合は、以下のバーコードをスキャンします。この操作では、最初に現在のサフィックスがすべてクリアされ、次にすべてのシンボル体系に対してキャリッジ・リターン・サフィックスがプログラムされます。



プレフィックスの選択項目



サフィックスの選択項目





SUFCA2.

Clear All Suffixes (すべてのサフィックスをクリア)

ファンクション・コードの送信

デフォルトでは、バーコード・データと一緒にすべての ASCII 制御文字が送信されます。こうした印刷できない文字は、あらかじめ規定されたキー・ストロークまたは CTRL+X 機能に変換されます (228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」を参照)。このキー・ストロークがホストのソフトウェア・アプリケーションの動作を妨げる場合は、**Disable (無効)** をスキャンして、こうした ASCII 制御文字が送信されないようにします。デフォルト値 = **Enable (有効)**。



RMVFNC0.

* Enable (有効)



RMVFNC1.

Disable (無効)

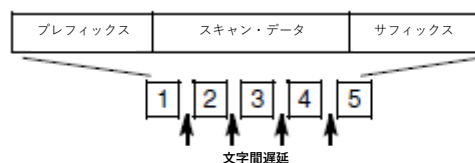
注： または、カスタムなデータ・フォーマットを使用して (77 ページ以降の「データ・フォーマット」を参照)、こうした文字を意味のある出力に変換することもできます。

文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延

端末によっては、データの着信が速すぎると情報 (文字) が失われることがあります。文字間、ファンクション間、およびメッセージ間の遅延を使用すると、データの送信速度を下げてデータの整合性を高めることができます。

文字間遅延

スキャンされたデータを送信するときに、各文字の間に最大 5000 ミリ秒 (5 ミリ秒刻み) の文字間遅延を挿入できます。下記の **Intercharacter Delay (文字間遅延)** バーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「~~プログラミング・チャート~~ **プロダクト・チャート**」で 5 ms の遅延の回数をスキャンし、**Save (保存)** をスキャンします。



INTER
Intercharacter Delay (文字間遅延)

この遅延を削除するには、**Intercharacter Delay**（文字間遅延）バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。

注： 文字間遅延は、USB シリアル・エミュレーションでは使用できません。

ユーザー指定の文字間遅延

スキャンされたデータを送信するときに、特定の文字の後に最大 5000 ミリ秒（5 ms 単位）の文字間遅延を挿入できます。下記の **Delay Length**（遅延時間）バーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」で 5 ms の遅延の回数をスキャンし、**Save**（保存）をスキャンします。

次に、**Character to Trigger Delay**（遅延を発生させる文字）バーコードをスキャンしてから、遅延を発生させる印刷可能文字を表す 2 桁の 16 進数値をスキャンします（229 ページの「下位 ASCII 参照表」を参照）。



DLYCRX.

Delay Length (遅延時間)



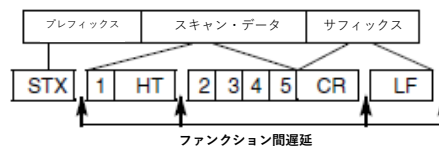
DLY_XX.

Character to Trigger Delay (遅延を発生させる文字)

この遅延を削除するには、**Delay Length**（遅延時間）バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。

ファンクション間遅延

メッセージ文字列を送信するときに、各制御文字の間に最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）のファンクション間遅延を挿入できます。下記の **Interfunction Delay**（ファンクション間遅延）バーコードをスキャンしてから、5 ms の遅延の回数をスキャンし、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。



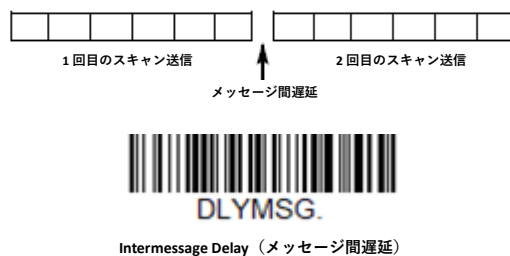
DLYFNC.

Interfunction Delay (ファンクション間遅延)

この遅延を削除するには、**Interfunction Delay**（ファンクション間遅延）バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。

メッセージ間遅延

スキャンを送信するたびに、最大 5000 ミリ秒（5 ミリ秒単位）のメッセージ間遅延を挿入できます。下記の **Intermessage Delay**（メッセージ間遅延）バーコードをスキャンしてから、5 ms の遅延の回数をスキャンし、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。



この遅延を削除するには、**Intermessage Delay**（メッセージ間遅延）バーコードをスキャンしてから、遅延の回数を 0 に設定します。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **Save**（保存）バーコードをスキャンします。

データ・フォーマット・エディターの概要

データ・フォーマット・エディターを使用して、スキャナーの出力を変更できます。たとえば、データ・フォーマット・エディターを使用して、スキャン中にバーコード・データの任意の位置に文字を挿入できます。以降のページの選択項目は、出力を変更する場合にのみ使用してください。データ・フォーマット設定のデフォルト値 = *None* (なし)。

通常、バーコードをスキャンすると、データが自動的に出力されます。ただし、フォーマットを作成する場合は、フォーマット・プログラム内で「送信」コマンド（80 ページの「送信コマンド」を参照）を使用してデータを出力する必要があります。

スキャナーには複数のフォーマットをプログラムできます。プログラムされたフォーマットは、入力された順にスタックされます。ただし、フォーマットが適用される順番は以下のリストに示すとおりです。

1. 特定の端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
2. 特定の端末 ID、実際のコード ID、汎用の長さ
3. 特定の端末 ID、汎用のコード ID、実際の長さ
4. 特定の端末 ID、汎用のコード ID、汎用の長さ
5. 汎用の端末 ID、実際のコード ID、実際の長さ
6. 汎用の端末 ID、実際のコード ID、汎用の長さ
7. 汎用の端末 ID、汎用のコード ID、実際の長さ
8. 汎用の端末 ID、汎用のコード ID、汎用の長さ

データ・フォーマット設定の最大サイズは、2000 バイトです（ヘッダー情報を含む）。

1 番目のデータ・フォーマットがないバーコードが読み取られた場合、次のデータ・フォーマットがあれば、そのデータ・フォーマットがバーコード・データに使用されます。他にデータ・フォーマットがない場合は、生データが出力されます。

データ・フォーマットの設定を変更した場合、すべてのフォーマットをクリアして工場出荷時設定に戻すには、以下の **Default Data Format (デフォルト・データ・フォーマット)** コードをスキャンしてください。



* Default Data Format (デフォルト・データ・フォーマット)

データ・フォーマットを表示する

現在のデータ・フォーマット設定を表示するには、以下のバーコードをスキャンしてください。



Data Format Settings (データ・フォーマット設定)

データ・フォーマットを追加する

手順 1. **Enter Data Format (データ・フォーマットの入力)** シンボルをスキャンします (79 ページ)。

手順 2. **Primary/Alternate (基準/代用フォーマット)** を選択します。基準データ・フォーマットであるか、3つの代用フォーマットのいずれかであるかを決定します。合計4つの異なるデータ・フォーマットを保存できます。基準フォーマットをプログラムする場合は、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **0** をスキャンします。代用フォーマットをプログラムするには、どの代用フォーマットをプログラムするかによって、**1**、**2**、または **3** をスキャンしてください。(詳細については、95 ページの「基準/代用データ・フォーマット」を参照)。

手順 3. **端末の種類**
「端末 ID 表」(80 ページ) を参照して、ご使用の PC の端末 ID 番号を見つけます。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から3つの数値バーコードをスキャンして、スキャナーに端末 ID をプログラムします(3桁入力する必要があります)。たとえば、AT ウェッジの場合は **0**、**0**、**3** をスキャンします。

注： **099** はすべての端末の種類を示します。

手順 4. **コード ID**
225 ページの「シンボル体系チャート」で、データ・フォーマットを適用したいシンボル体系を探します。そのシンボル体系の16進数値を見つけ、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」で2桁の16進数値をスキャンします。

一部のシンボル体系を除き、すべてのシンボル体系のデータ・フォーマットを作成する場合は、**B8 (93 ページ)** を参照してください。

バッチ・モード数のデータ・フォーマットを作成する場合は、コード ID として **35** を使用します。

注： **99** はすべてのシンボル体系を示します。

手順 5. **長さ**
このシンボル体系で対応可能なデータ長(最大9999文字)を指定します。239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から4桁のデータ長をスキャンします。たとえば、50文字は **0050** と入力します。

注： 9999 はすべての長さを表します。

手順 6. **エディター・コマンド**

「データ・フォーマット・エディター・コマンド」(80 ページ) を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルをスキャンします。

手順 7. データ・フォーマットを保存するには、**Save (保存)** をスキャンします。変更を保存せずに終了するには、**Discard (破棄)** をスキャンします。



DFMBK3.

Enter Data Format (データ・フォーマットを入力)



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (破棄)

その他のプログラミング選択項目

- **Clear One Data Format (1つのデータ・フォーマットをクリア)**
1つのシンボル体系のデータ・フォーマットを1つ削除します。基準フォーマットをクリアする場合は、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から **0** をスキャンします。代用フォーマットをクリアする場合は、どのフォーマットをクリアするかによって、**1**、**2**、または **3** をスキャンします。端末の種類とコード ID (225 ページの「シンボル体系チャート」を参照)、および削除したい特定のデータ・フォーマットのバーコードのデータ長をスキャンします。その他のすべてのフォーマットへの影響はありません。
- **Clear All Data Formats (すべてのデータ・フォーマットをクリア)**
すべてのデータ・フォーマットをクリアします。
- **Save (保存)**
データ・フォーマットへの変更を保存して終了します。
- **Discard (破棄)**
データ・フォーマットの変更を保存せずに終了します。



DFMCL3.

Clear One Data Format (1つのデータ・フォーマットをクリア)



DFMCA3.

Clear All Data Formats (すべてのデータ・フォーマットをクリア)



MNUSAV.

Save (保存)



MNUABT.

Discard (破棄)

端末 ID 表

端末	機種	端末 ID
USB	PC キーボード (HID)	124
	Mac キーボード	125
	PC キーボード (日本語)	134
	シリアル (COM ドライバーが必要)	130
	HID POS	131
	USB SurePOS ハンドヘルド	128
	USB SurePOS テーブルトップ	129
シリアル	RS232 TTL	000
	RS232 True	000
	RS485 (IBM-HHBCR 1+2、46xx)	051
キーボード	PS2 互換	003
	AT 互換	002

データ・フォーマット・エディター・コマンド

データ・フォーマット・エディターで作業する場合、仮想カーソルが入力データの文字列に沿って移動します。以下のコマンドは、このカーソルを別の位置に移動し、またデータを選択し、置換し、最終出力に挿入するために使用されます。

送信コマンド

すべての文字を送信する

- F1** 入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。構文 = **F1xx** です。xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」を参照してください。

指定の文字数を送信する

- F2** 指定した数の文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。入力メッセージのうち現在のカーソル位置以降にある「nn」個の文字または最後の文字までが含まれ、その後に「xx」の文字が付加されます。構文 = **F2nnxx** です。nn は文字数を表す数値 (00~99) で、xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」を参照してください。

F2 の例：指定の文字数を送信する



上記のバーコードの最初の 10 個の文字を送信し、続けてキャリッジ・リターンを送信します。コマンド文字列：F2100D

F2 は「指定の文字数を送信する」コマンドです。

10 は送信する文字の数です。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。1234567890

F2 と F1 の例：文字を 2 行に分割する

上記のバーコードの最初の 10 個の文字を送信し、続けてキャリッジ・リターンと残りの文字を送信します。

コマンド文字列：F2100DF10D

F2 は「指定の文字数を送信する」コマンドです。

10 は最初の行に送信する文字の数です。

0D は CR の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D は CR の 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

```
1234567890
ABCDEFGHIJ
<CR>
```

特定の文字までの文字をすべて送信する

- F3** 入力メッセージのうち現在のカーソル位置から検索文字「ss」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含め、その後に挿入文字を付加します。カーソルは文字「ss」まで前進します。構文 = F3ssxx です。ss は検索文字の ASCII コードを表す 16 進数値で、xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」を参照してください。

F3 の例：特定の文字までの文字をすべて送信する



上記のバーコードのうち「D」の直前までのすべての文字にキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。

コマンド文字列：**F3440D**

F3 は「特定の文字までの文字をすべて送信する」コマンドです。

44 は「D」の 16 進数値です。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890ABC
<CR>

文字列までのすべての文字を送信する

- B9** 入力メッセージのうち現在のカーソル位置から検索文字列「s...s」の直前までのすべての文字を出力メッセージに含めます。カーソルは、「s...s」文字列の先頭まで前進します。構文 = B9nnnns...s です。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は一致させる文字列を表します。文字列は、文字列に含まれる文字の 16 進数値から構成されます。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)」を参照してください。

B9 の例：定義された文字列までのすべての文字を送信する



上記のバーコードのうち「AB」の直前までのすべての文字を送信します。

コマンド文字列：**B900024142**

B9 は「文字列までのすべての文字を送信する」コマンドです。

0002 は文字列の長さ (2 文字) です。

41 は「A」の 16 進数値です。

42 は「B」の 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。1234567890

末尾を除くすべての文字を送信する

- E9** 現在のカーソル位置以降にあるすべての文字を、末尾の「nn」個の文字を除いて出力メッセージに含めます。カーソルは、前方の入力メッセージに含まれた最後の文字の 1 つ先の位置に移動します。構文 = **E9nn** です。nn は、メッセージの末尾の送信されない文字数を表す数値 (00~99) です。

文字を複数回挿入する

- F4** カーソルを現在の位置に置いたまま、出力メッセージに文字「xx」を「nn」回送信します。構文 = **F4xxnn** です。xx は挿入文字の ASCII コードを表す 16 進数値で、nn はその送信回数を表す数値 (00~99) です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

E9 と F4 の例：最後の文字以外すべて送信し、その後タブを 2 つ送信する



上記のバーコードから末尾の 8 文字を除いたすべての文字に、2 つのタブを付加して送信します。

コマンド文字列：**E908F40902**

E9 は「末尾を除くすべての文字を送信する」コマンドです。

08 は無視する末尾の文字数です。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

09 は水平タブの 16 進数値です。

02 はタブ文字を送信する回数です。

データは以下のように出力されます。1234567890AB <tab><tab>

文字列を挿入する

- BA** カーソルを現在の位置に置いたまま、出力メッセージに「nn」長の「ss」文字列を送信します。構文 = **BAnnnns...s** です。nnnn は文字列の長さを表し、s...s は文字列を表します。文字列は、文字列に含まれる文字の 16 進数値から構成されます。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

B9 と BA の例：文字列「AB」を探し、アスタリスクを2つ（**）挿入する



上記のバーコードのうち「AB」の直前までのすべての文字を送信します。そこにアスタリスクを2つ挿入して、残りのデータを送信し、最後にキャリッジ・リターンを送信します。

コマンド文字列：**B900024142BA00022A2AF10D**

B9 は「文字列までのすべての文字を送信する」コマンドです。

0002 は文字列の長さ（2文字）です。

41 は「A」の16進数値です。

42 は「B」の16進数値です。

BA は「文字列を挿入する」コマンドです。

0002 は追加する文字列の長さ（2文字）です。

2A はアスタリスク（*）の16進数値です。

~~2A はアスタリスク（*）の16進数値です。~~ [A5]

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの16進数値です。

データは以下のように出力されます。

1234567890ABCDEFGHIJ**
<CR>

シンボル体系名を挿入する

- B3** カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードのシンボル体系の名前を挿入します。Honeywell の ID を持つシンボル体系のみが含まれます（225 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照）。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表（コード・ページ 1252）](#)」を参照してください。

バーコード長を挿入する

- B4** カーソルを動かさずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。長さは数値列として表され、先行ゼロは含まれません。

B3 と B4 の例：シンボル体系の名前と長さを挿入する



上記のバーコードのバーコード・データの前に、シンボル体系の名前と長さを挿入します。挿入内容はスペースで区切ります。最後にキャリッジ・リターンを送信します。

コマンド文字列：**B3F42001B4F42001F10D**

B3 は「シンボル体系名を挿入する」コマンドです。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

20 はスペースの 16 進数値です。

01 はスペース文字を送信する回数です。

B4 は「バーコード長を挿入する」コマンドです。

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです。

20 はスペースの 16 進数値です。

01 はスペース文字を送信する回数です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ
<CR>

キー・ストロークを挿入する

- B5** キー・ストロークまたはキー・ストロークの組み合わせを挿入します。キー・ストロークは、お使いのキーボードにより異なります（235 ページの「[キーボードのキーマップ](#)」を参照）。矢印やファンクションなど、任意のキーを挿入できます。構文 = **5CB5xxssnn**。xx は押されるキーの数（修飾キーなし）、ss は下記の表の修飾キー、nn は 235 ページの「[キーボードのキーマップ](#)」のキー番号です。

修飾キー	Hex
修飾キーなし	00
Shift Left (左シフト)	01
Shift Right (右シフト)	02
Alt Left (左 Alt)	04
Alt Right (右 Alt)	08
Control Left (左 Ctrl)	10
Control Right (右 Ctrl)	20

たとえば、**B501021F** の場合、米国キーボード 104 キーに「A」を挿入します。B5 = コマンド、01 = キー・プレス・イベント数（修飾キーなし）、02 は Shift Right（右シフト）の修飾キー、1F は「a」キーです。小文字の「a」を挿入する場合は、**B501001F** と入力します。

キー・ストロークが3つであれば、構文はキー・ストロークが1つの場合の B5xxssnn から B5xxssnnssnnssnn になります。たとえば、「abc」を挿入する場合は、B503001F00320030F833 となります。

注： 必要であれば、修飾キーと一緒に追加できます。合計は16進数値に変換されません。

例： Control Left (左 Ctrl) +Shift Left (左シフト) = 17 の場合、16進数値に変換され、 = 11 です。

移動コマンド

カーソルを指定の文字数だけ前進させる

F5 カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ前進させます。
構文 = F5nn です。nn はカーソルを前進させる文字数を表す数値 (00~99) です。

F5 の例：カーソルを前方に移動し、データを送信する



上記のバーコードで、カーソルを3文字分前進させてから、残りのバーコード・データを送信します。最後にキャリッジ・リターンを送信します。

コマンド文字列：**F503F10D**

F5 は「カーソルを指定の文字数だけ前進させる」コマンドです。

03 はカーソルを移動する文字数です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの16進数値です。

データは以下のように出力されます。

4567890ABCDEFGHIJ
<CR>

カーソルを指定の文字数だけ後退させる

F6 カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字数だけ後退させます。
構文 = F6nn です。nn はカーソルを後退させる文字数を表す数値 (00~99) です。

カーソルを先頭に移動する

F7 カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。構文 = F7 です。

FE と F7 の例：1 で始まるバーコードを操作する



1 で始まるバーコードを検索します。一致するバーコードがあれば、カーソルをデータの先頭に戻し、6 文字にキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：**FE31F7F2060D**

FE は「文字を比較する」コマンドです。

31 は 1 の 16 進数値です。

F7 は「カーソルを先頭に移動する」コマンドです。

F2 は「指定の文字数を送信する」コマンドです。

06 は送信する文字の数です。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

123456

<CR>

カーソルを末尾に移動する

EA カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。構文 = EA です。

検索コマンド

前方の文字を検索する

F8 入力メッセージで、現在のカーソル位置の前方にある文字「xx」を検索し、カーソルが文字「xx」を指している状態にします。構文 = F8xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

F8 の例：特定の文字以降のバーコード・データを送信する



バーコード内で文字「D」を検索し、「D」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：**F844F10D**

F8 は「前方の文字を検索する」コマンドです。

44 は「D」の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

DEFGHIJ

<CR>

後方の文字を検索する

F9 入力メッセージで、現在のカーソル位置の後方にある文字「xx」を検索し、カーソルが文字「xx」を指している状態にします。構文 = F9xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

前方の文字列を検索する

B0 現在のカーソル位置の前方にある文字列「s」を検索し、カーソルが文字「s」を指している状態にします。構文 = B0nnnnS です。nnnn は文字列の長さ (最長 9999) で、s は一致文字列の各文字の ASCII 16 進数値から構成されます。たとえば、B0000454657374 では、4 文字の「Test」文字列の最初の出現を前方に検索します。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

B0 の例：特定の文字列以降のバーコード・データを送信する



バーコード内で文字「FGH」を検索し、「FGH」およびそれに続くすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：**B00003464748F10D**

B0 は「前方の文字列を検索する」コマンドです。

0003 は文字列の長さ (3 文字) です。

46 は「F」の 16 進数値です。

47 は「G」の 16 進数値です。

48 は「H」の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

FGHIJ

<CR>

後方の文字列を検索する

- B1** 現在のカーソル位置の後方にある文字列「s」を検索し、カーソルが文字「s」を指している状態にします。構文 = B1nnnnS です。nnnn は文字列の長さ（最長 9999）で、S は一致文字列の各文字の ASCII 16 進数値から構成されます。たとえば、B1000454657374 では、4 文字の「Test」文字列の最初の出現を後方に検索します。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表（コード・ページ 1252）」を参照してください。

前方の一致しない文字を検索する

- E6** 入力メッセージで、現在のカーソル位置の前方にある「xx」以外の最初の文字を検索し、カーソルがその「xx」以外の文字を指している状態にします。構文 = E6xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表（コード・ページ 1252）」を参照してください。

F6 の例：バーコード・データの先頭のゼロを削除する



この例のバーコードはゼロで埋められています。ゼロを無視して、それ以降のデータをすべて送信することができます。E6 は、ゼロ以外の最初の文字を前進方向へ検索し、それより後のすべてのデータにキャリッジ・リターンを付加したものを送信します。上記のバーコードを使用すると以下ようになります。

コマンド文字列：**E630F10D**

E6 は「前方の一致しない文字を検索する」コマンドです。

30 は 0 の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

37692
<CR>

後方の一致しない文字を検索する

- E7** 入力メッセージで、現在のカーソル位置の後方にある「xx」以外の最初の文字を検索し、カーソルがその「xx」以外の文字を指している状態にします。構文 = E7xx です。xx は検索文字の ASCII コードを表す 16 進数値です。10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「ASCII 変換表（コード・ページ 1252）」を参照してください。

その他のコマンド

文字を抑止する

FB 他のコマンドによってカーソルが現在の位置から移動する際に、最大 15 種類の文字をすべて抑止します。FC コマンドが検出されると抑止機能は終了します。カーソルは、FB コマンドでは移動しません。

構文 = FBnnxyy ... zz です。nn はリストに指定する抑止文字の数で、xyy ... zz は抑止する文字のリストです。

FB の例：バーコード・データ内のスペースを削除する



この例のバーコードには、データにスペースが含まれています。データを送信する前に、スペースを削除することができます。上記のバーコードを使用すると以下のようになります。

コマンド文字列：**FB0120F10D**

FB は「文字を抑止する」コマンドです。

01 は抑止する文字の種類の数です。

20 はスペースの 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

34567890
<CR>

文字の抑止を停止する

FC 抑止フィルターを無効にし、抑止した文字をすべて消去します。構文 = FC です。

文字を置換する

E4 カーソルを動かさずに、出力メッセージの文字を最大 15 個置換します。置換は、E5 コマンドが検出されるまで続きます。構文 = E4nnxx₁xx₂yy₁yy₂...zz₁zz₂ です。nn は、リストに指定する文字の合計数（置換する文字と置換文字）です。xx₁ は置換する文字で、xx₂ は置換文字です。以下、zz₁ および zz₂ まで同様です。

E4 の例：バーコード・データのゼロをキャリッジ・リターンに置換する



ホスト・アプリケーションにとって不適切な文字がバーコードに含まれている場合は、E4 コマンドを使用して、別の文字に置換できます。この例では、上記のバーコード内のゼロをキャリッジ・リターンに置換します。

コマンド文字列：**E402300DF10D**

E4 は「文字を置換する」コマンドです。

02 は、置換する文字と置換文字の合計数です（0 をキャリッジ・リターンで置換するため、文字の合計数は 2 です）。

30 は 0 の 16 進数値です。

0D はキャリッジ・リターン（0 を置換する文字）の 16 進数値です。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

データは以下のように出力されます。

1234

5678

ABC

<CR>

文字の置換を停止する

E5 文字の置換を終了します。構文 = E5 です。

文字を比較する

FE 現在のカーソル位置にある文字を文字「xx」と比較します。文字が一致する場合は、カーソルを 1 つ先の位置に移動します。構文 = FExx です。xx は比較文字の ASCII コードに対する 16 進数値を表します。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

文字列を比較する

B2 入力メッセージにある文字列を文字列「s」と比較します。文字列が同じ場合、カーソルをその文字列の末尾まで移動させます。構文 = B2nnnnS です。nnnn は文字列の長さ（最長 9999）で、S は一致文字列の各文字の ASCII 16 進数値から構成されます。たとえば、B2000454657374 の場合、現在のカーソル位置にある文字列が 4 文字の文字列「Test」と比較されます。

10 進コード、16 進コード、および文字コードについては、228 ページ以降の「[ASCII 変換表 \(コード・ページ 1252\)](#)」を参照してください。

数字かどうかを確認する

EC 現在のカーソル位置に ASCII 数字があるかどうか確認します。文字が数字ではない場合は、フォーマットを中止します。

EC の例：バーコードが数字から始まる場合にのみデータを出力する


数字で始まるバーコードのデータのみが必要な場合は、EC を使用して数字かどうか確認できます。

コマンド文字列：**ECF10D**


EC は「数字かどうかを確認する」コマンドです。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

このバーコード  が読み取られた場合、次のデータ・フォーマット
AB1234

があれば、それがデータに使用されます。他のフォーマットがなければ、フォーマットは失敗し、生データ **AB1234** が出力されます。

このバーコード  が読み取られた場合、データは次のように出力されます。
1234AB

1234AB
<CR>

数字以外の文字か確認する

ED 現在のカーソル位置に ASCII 数字以外の文字があるか確認します。文字が数字の場合は、フォーマットを中止します。

ED の例：バーコードが英文字から始まる場合にのみデータを出力する


英文字で始まるバーコードのデータのみが必要な場合は、ED を使用して英文字かどうか確認できます。

コマンド文字列：**EDF10D**


ED は「数字以外の文字か確認する」コマンドです。

F1 は「すべての文字を送信する」コマンドです。

0D はキャリッジ・リターンの 16 進数値です。

このバーコード  が読み取られた場合、次のデータ・フォーマット
1234AB

があれば、それがデータに使用されます。他のフォーマットがなければ、フォーマットは失敗し、生データ **1234AB** が出力されます。

このバーコード  が読み取られた場合、データは次のように出力され
AB1234

れます。

AB1234
<CR>

遅延を挿入する

EF 現在のカーソル位置から、最大 49,995 ミリ秒（5 の倍数）の遅延を挿入します。構文 = EFnnnnn です。nnnn は 5ms 単位の遅延で、最大 9999 です。このコマンドは、キーボード・エミュレーション時にのみ使用できます。

データを破棄する

B8 特定の種類のデータを破棄します。たとえば、英字 A で始まる Code 128 バーコードを破棄するとします。この場合、手順 4（78 ページ）で 6A（Code 128）を選択し、手順 5 で 9999（すべての長さ）を選択します。FE41B8 を入力し、Code 128 バーコードを比較し、英字 A で始まるバーコードを破棄します。構文 = B8 です。

注： B8 コマンドは、他のコマンドをすべて入力した後に入力します。

B8 コマンドを有効にするには、Data Format（データ・フォーマット）が **Required（必須）** である必要があります（93 ページを参照）。

Data Format（データ・フォーマット）が **On, but Not Required（オン、必須ではない）**（94 ページ）の場合、B8 フォーマットに適合するバーコード・データが通常通りスキャンされ、出力されます。

B8 コマンドではデータ・フォーマットが **On（オン）** および **Required（必須）**（94 ページ）である必要があるため、破棄するすべてのバーコードのデータ・フォーマットおよび出力するすべてのバーコードのデータ・フォーマットを入力します。他のデータ・フォーマットの設定が B8 コマンドに影響を与えます。Data Format **Non-Match Error Tone（データ・フォーマット不一致エラー音）** が **On（オン）**（94 ページ）であると、エラー音が鳴ります。Data format **Non-Match Error Tone（データ・フォーマット不一致エラー音）** が **Off（オフ）** であると、コードの読み取りが無効になり、エラー音は鳴りません。

データ・フォーマッター

データ・フォーマッターが **Off（オフ）** の場合、読み取られたバーコード・データはプレフィックスやサフィックスを含め、そのままホストに出力されます。



Data Formatter Off（データ・フォーマッター・オフ）

作成して保存してあるデータ・フォーマットに従うように要求することもできます。以下の設定を、データ・フォーマットに適用することができます。

- **データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス／サフィックスを保持**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更され、プレフィックスやサフィックスも送信されます。
- **データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス／サフィックスを切り捨て**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更されます。特定のシンボルに対してデータ・フォーマットが見つかった場合、そうしたプレフィックスやサフィックスは送信されません。シンボルにデータ・フォーマットが見つからない場合は、プレフィックスやサフィックスも送信されます。
- **データ・フォーマット必須、プレフィックス／サフィックスを保持**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更され、プレフィックスやサフィックスも送信されます。データがデータ・フォーマットの要件に一致しない場合、エラー音が鳴り、そのバーコードのデータは送信されませ

ん。エラー音を鳴らさずにこのタイプのバーコードを処理する場合は、「[データ・フォーマット不一致エラー音](#)」を参照してください。

- **データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを切り捨て**
スキャンされたデータはデータ・フォーマットに合わせて変更されます。特定のシンボルに対してデータ・フォーマットが見つかった場合、そうしたプレフィックスやサフィックスは送信されません。データがデータ・フォーマットの要件に一致しない場合、エラー音が鳴ります。エラー音を鳴らさずにこのタイプのバーコードを処理する場合は、「[データ・フォーマット不一致エラー音](#)」を参照してください。

以下のいずれかのオプションを選択します。デフォルト値 = *Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix* (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)。



DFM_EN1.

* Data Formatter On, Not Required,
Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)



DFM_EN3.

Data Formatter On, Not Required,
Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須でない、プレフィックス/サフィックスを切り捨て)



DFM_EN2.

Data Format Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを保持)



DFM_EN4.

Data Format Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを切り捨て)

データ・フォーマット不一致エラー音

必要なデータ・フォーマットに合わないバーコードが検出された場合、通常、スキャナーはエラー音を鳴らします。ただし、エラー音を鳴らさずにバーコードのスキャンを続けることもできます。**Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラー音オフ)** バーコードをスキャンすると、データ・フォーマットに一致しないデータは送信されず、エラー音も鳴りません。不一致バーコードが見つかった場合にエラー音を鳴らさず場合は、**Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラー音オン)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = *Data Format Non-Match Error Tone On* (データ・フォーマット不一致エラー音オン)。



DFMDEC0.

* Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラー音オン)



DFMDEC1.

Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラー音オフ)

基準／代用データ・フォーマット

最大4つのデータ・フォーマットを保存でき、それらのフォーマットを切り替えることができます。基準データ・フォーマットは、**0**として保存されます。その他の3つのデータ・フォーマットは、**1**、**2**、および**3**に保存されます。これらのフォーマットのいずれかを使用するようデバイスを設定するには、以下のいずれかのバーコードをスキャンします。



ALTFNM0.

Primary Data Format (基準データ・フォーマット)



ALTFNM1.

Data Format 1 (データ・フォーマット 1)



ALTFNM2.

Data Format 2 (データ・フォーマット 2)



ALTFNM3.

Data Format 3 (データ・フォーマット 3)

単一スキャンのデータ・フォーマットの変更

単一スキャンでデータ・フォーマットを切り替えることもできます。代用データ・フォーマットを使用して次のバーコードをスキャンした後、上記で選択したフォーマット（基準、1、2、または3）に戻ります。

たとえば、Data Format 3 (データ・フォーマット 3) として保存したデータ・フォーマットにデバイスを設定しているとします。以下の **Single Scan-Data Format 1 (単一スキャン-データ・フォーマット 1)** バーコードをスキャンすることで、1度トリガーを引いて、Data Format 1 (データ・フォーマット 1) に切り替えることができます。次にスキャンされるバーコードでは Data Format 1 (データ・フォーマット 1) を使用し、その後 Data Format 3 (データ・フォーマット 3) に戻ります。



VSAF_0.

Single Scan-Primary Data Format (単一スキャン-基準データ・フォーマット)



VSAF_2.

Single Scan-Data Format 2 (単一スキャン-データ・フォーマット 2)



VSAF_1.

Single Scan-Data Format 1 (単一スキャン-データ・フォーマット 1)



VSAF_3.

Single Scan-Data Format 3 (単一スキャン-データ・フォーマット 3)

シンボル体系

このプログラミング・セクションには、以下のメニュー項目があります。設定およびデフォルト値については、[CHAPTER 9](#) を参照してください。

- すべてのシンボル体系
- Aztec Code
- China Post (Hong Kong 2 of 5)
- Chinese Sensible (Han Xin) Code
- Codabar
- Codablock A
- Codablock F
- Code 11
- Code 128
- Code 32 Pharmaceutical (PARAF)
- Code 39
- Code 93
- Data Matrix
- Digimarc Barcode™
- DotCode
- EAN/JAN-13
- EAN/JAN-8
- GS1 コンポジット・コード
- GS1 DataBar Limited
- GS1 DataBar Limited
- GS1 DataBar Omnidirectional
- GS1 エミュレーション
- GS1-128
- Interleaved 2 of 5
- Korean Post
- Label Code (ラベル・コード)
- Matrix 2 of 5
- MaxiCode
- MacroPDF417
- MSI
- NEC 2 of 5
- 郵便コード - 2 次元
- 郵便コード - リニア
- PDF417
- QR Code
- Straight 2 of 5 IATA (2 バー・スタート／ストップ)
- Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート／ストップ)
- TCIF Linked Code 39 (TLC39)
- Telepen
- Trioptic Code
- UPC-A
- 拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13
- UPC-E0
- UPC-E1

すべてのシンボル体系

最高のスキャン性能を得るために、必要なシンボル体系のみを有効にしてください。**All Symbolologies Off (すべてのシンボル体系をオフ)** をスキャンしてすべてのシンボル体系を無効にし、必要なシンボル体系を有効にするために各シンボル体系の **On (オン)** バーコードをスキャンします。



ALLEN A0.

All Symbolologies Off (すべてのシンボル体系をオフ)

メッセージ長の説明

一部のバーコード・シンボル体系では、有効読み取り長を設定できます。最小長と最大長に同じ値を設定すれば、スキャナーが固定長バーコード・データを強制的に読み取るように設定できます。これにより、誤読の可能性を減らすことができます。

例： 文字数 9～20 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 09

最大長 = 20

例： 文字数 15 のバーコードのみをデコードします。

最小長 = 15

最大長 = 15

最小および最大のメッセージ長をデフォルト値とは異なる値にするには、シンボル体系の説明に含まれているメッセージ長のバーコードをスキャンしてから、239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」からメッセージ長の桁数をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。最小長と最大長、およびデフォルト値はそれぞれのシンボル体系に含まれています。

Codabar

<Codabar の設定をすべてデフォルトに戻す>



CBRDFT.

Codabar のオン／オフ



CBRENA1.

* On (オン)



Codabar のスタート／ストップ・キャラクタ

スタート／ストップ・キャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。スタート／ストップ・キャラクタは、送信するように設定することも、送信しないように設定することもできます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



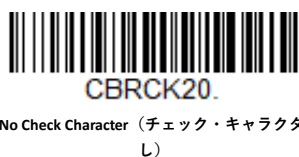
Codabar のチェック・キャラクタ

Codabar のチェック・キャラクタは、さまざまな「モジュラス」を使用して作成されています。 スキャナーをプログラムして、モジュラス 16 のチェック・キャラクタを使用する Codabar バーコードのみを読み取るように設定できます。デフォルト値 = *No Check Character* (チェック・キャラクタなし)。

No Check Character (チェック・キャラクタなし) は、スキャナーがチェック・キャラクタの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・キャラクタが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・キャラクタありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取り、スキャン・データの末尾にこのキャラクタを送信します。

チェック・キャラクタが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・キャラクタありで印刷された Codabar バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・キャラクタを付加しません。



Codabar の連結

Codabar ではシンボルの連結に対応しています。連結を有効にすると、スキャナーは、スタート・キャラクタが「D」で、ストップ・キャラクタが「D」のシンボルに隣接している Codabar シンボルを探します。この場合、2つのメッセージは連結して1つになり、キャラクタ「D」は省略されます。



スキャナーが連結されていない単独の「D」Codabar シンボルをデコードしないようにするには、**Require (要求する)** を選択します。この選択が、D 以外のストップ/スタート・キャラクタを持つ Codabar シンボルに及ぼす影響はありません。



CBRCCT1.

On (オン)



CBRCCT0.

* Off (オフ)



CBRCCT2.

Require (要求する)

Codabar のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~60。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 60。



CBRMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



CBRMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 39

<Code 39 の設定をすべてデフォルトに戻す>



Code 39 のオン／オフ



Code 39 バーコードを読み取る場合は、Codablock A を無効のままにしてください。Codablock A を有効にしている場合（137 ページの「[Codablock A](#)」を参照）は、Code 39 を無効にしてください。

Code 39 のスタート／ストップ・キャラクタ

スタート／ストップ・キャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。スタート／ストップ・キャラクタは、送信するように設定することも、送信しないように設定することもできます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



Code 39 のチェック・キャラクタ

No Check Character (チェック・キャラクタなし) は、スキャナーがチェック・キャラクタの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・キャラクタが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・キャラクタありで印刷された Code 39 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・キャラクタを付加しません。

チェック・キャラクタが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・キャラクタありで印刷された **Code 39** バーコードのみを読み取り、スキャン・データの末尾にチェック・キャラクタを付加して送信します。デフォルト値 = **No Check Character (チェック・キャラクタなし)**。



C39CK20.

* No Check Character (チェック・キャラクタなし)



C39CK21.

Validate, But Don't Transmit (検証するが送信しない)



C39CK22.

Validate and Transmit (検証して送信)

Code 39 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 0~48。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 48。



C39MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



C39MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 39 の連結

この機能を使用すると、いくつかの **Code 39** バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピューターに送信できます。スキャナーは、連結のトリガー文字を含む **Code 39** バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない **Code 39** バーコードを読み取るまで、**Code 39** バーコードをバッファします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO: 先入れ先出し)。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



C39APP1.

On (オン)



C39APP0.

* Off (オフ)

Code 32 Pharmaceutical (PARAF)

Code 32 Pharmaceutical は、イタリアの医薬分野で使用されている Code 39 シンボル体系の一種です。このシンボル体系は、PARAF とも呼ばれています。

注： Code 32 Pharmaceutical コードのスキャン中は、Trioptic Code (137 ページ) をオフにしておく必要があります。



C39B321.

On (オン)



C39B320.

* Off (オフ)

Full ASCII

Full ASCII Code 39 のデコードを有効にすると、バーコード・シンボル内の特定の文字ペアは、単一の文字として解釈されます。たとえば、\$V は ASCII 文字 SYN としてデコードされ、/C は ASCII 文字#としてデコードされます。デフォルト値 = Off (オフ)。

Full ASCII 表													
NUL %U	DLE \$P	SP	SPACE	0	0	@ %V	P	P	' %W	p	+P		
SOH \$A	DC1 \$Q	!	/A	1	1	A A	Q	Q	a +A	q	+Q		
STX \$B	DC2 \$R	"	/B	2	2	B B	R	R	b +B	r	+R		
ETX \$C	DC3 \$S	#	/C	3	3	C C	S	S	c +C	s	+S		
EOT \$D	DC4 \$T	\$	/D	4	4	D D	T	T	d +D	t	+T		
ENQ \$E	NAK \$U	%	/E	5	5	E E	U	U	e +E	u	+U		
ACK \$F	SYN \$V	&	/F	6	6	F F	V	V	f +F	v	+V		
BEL \$G	ETB \$W	'	/G	7	7	G G	W	W	g +G	w	+W		
BS \$H	CAN \$X	(/H	8	8	H H	X	X	h +H	x	+X		
HT \$I	EM \$Y)	/I	9	9	I I	Y	Y	i +I	y	+Y		
LF \$J	SUB \$Z	*	/J	:	/Z	J J	Z	Z	j +J	z	+Z		
VT \$K	ESC %A	+	/K	;	%F	K K	[%K	k +K	{ %P				
FF \$L	FS %B	,	/L	<	%G	L L	¥ %L	l +L	%Q				
CR \$M	GS %C	-	-	=	%H	M M] %M	m +M	} %R				
SO \$N	RS %D	.	.	>	%I	N N	^ %N	n +N	~ %S				
SI \$O	US %E	/	/O	?	%J	O O	_ %O	o +O	DEL %T				

文字ペア/M および/N は、それぞれマイナス記号とピリオドとしてデコードされます。文字ペア/P から/Y は、0~9 としてデコードされます。



C39ASC1.

Full ASCII On (Full ASCII オン)



C39ASC0.

* Full ASCII Off (Full ASCII オフ)

Code 39 のコード・ページ

コード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し（「ISO 2022/ISO 646 置換文字」を参照）、239 ページ以降の「プログラミング・チャート」から数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



C39DCP.

Code 39 Code Page (Code39 のコード・ページ)

Interleaved 2 of 5

<Interleaved 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す>



I25DFT.

Interleaved 2 of 5 のオン／オフ



I25ENA1.

* On (オン)



I25ENA0.

off (オフ)

チェック・デジット

No Check Digit (チェック・デジットなし) は、スキャナーがチェック・デジットの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・デジットが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、ユニットはチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・デジットを付加しません。

チェック・デジットが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・デジットありで印刷された Interleaved 2 of 5 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのデジットを送信します。デフォルト値 = **No Check Digit (チェック・デジットなし)**。



I25CK20.

* No Check Character (チェック・キャラクタなし)



I25CK21.

Validate, But Don't Transmit (検証するが送信しない)



I25CK22.

Validate and Transmit (検証して送信)

Interleaved 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 6、デフォルトの最大長 = 80。



I25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



I25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

FEBRABAN デコード

以下のコードをスキャンして、FEBRABAN Boletto デコードをオンまたはオフにします。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



I25PAY1.

FEBRABAN Decode On (FEBRABAN デコード・オン)



I25PAY0.

*FEBRABAN Decode Off (FEBRABAN デコード・オフ)

NEC 2 of 5

<NEC 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す>



NEC 2 of 5 のオン／オフ



チェック・デジット

No Check Digit (チェック・デジットなし) は、スキャナーがチェック・デジットの有無にかかわらずバーコード・データの読み取りや送信を行うことを示します。

チェック・デジットが **Validate, but Don't Transmit (検証するが送信しない)** に設定されている場合、ユニットはチェック・デジットありで印刷された NEC 2 of 5 バーコードのみを読み取りますが、スキャン・データの送信時に、チェック・デジットを付加しません。

チェック・デジットが **Validate and Transmit (検証して送信)** に設定されている場合、スキャナーはチェック・デジットありで印刷された NEC 2 of 5 バーコードのみを読み取り、スキャン・データの最後にこのデジットを送信します。デフォルト値 = **No Check Digit (チェック・デジットなし)**。



* No Check Digit (チェック・デジットなし)



Validate, But Don't Transmit (検証するが送信しない)



Validate and Transmit (検証して送信)

NEC 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



N25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



N25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 93

<Code 93 の設定をすべてデフォルトに戻す>



C93DFT.

Code 93 のオン/オフ



C93ENA1.

* On (オン)



C93ENA0.

off (オフ)

Code 93 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 0~80。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 80。



C93MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



C93MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 93 の連結

この機能を使用すると、いくつかの Code 93 バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピューターに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナーはスペースで始まる Code 93 バーコード（スタートおよびストップ・シンボルを除く）を保管し、すぐにはデータを送信しません。スキャナーはバーコードを読み取り順に保管して、それぞれから最初のスペースを削除します。スキャナーは、スペース以外のキャラクタで始まる Code 93 バーコードを読み取ると、連結されたデータを送信します。デフォルト値 = Off (オフ)。



C93APP1.

On (オン)



C93APP0.

* Off (オフ)

Code 93 のコード・ページ

コード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し（232 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照）、239 ページ以降の「[プログラミング・チャートプログラマインダ・チャート](#)」から数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



C93DCP.

Code 39 Code Page (Code39 のコード・ページ)

Straight 2 of 5 Industrial (3 バー・スタート/ストップ)

<Straight 2 of 5 Industrial の設定をすべてデフォルトに戻す>



R25DFT.

Straight 2 of 5 Industrial のオン/オフ



R25ENA1.

On (オン)



R25ENA0.

* Off (オフ)

Straight 2 of 5 Industrial のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



R25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



R25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Straight 2 of 5 IATA (2バー・スタート/ストップ)

<Straight 2 of 5 IATA の設定をすべてデフォルトに戻す>

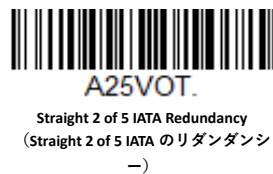


Straight 2 of 5 IATA のオン/オフ



Straight 2 of 5 IATA のリダンダンシー

Straight 2 of 5 IATA バーコードの読み取り時にエラーが発生した場合、リダンダンシー回数を調整できます。リダンダンシーにより、バーコードを送信する前にデコードする回数を調整することで、エラーの数を減らすことができます。リダンダンシー回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなります。リダンダンシーを調整するには、以下の Straight 2 of 5 IATA Redundancy (Straight 2 of 5 IATA のリダンダンシー) バーコードをスキャンした後、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」で 0~10 のリダンダンシー回数をスキャンします。その後、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = 0。



Straight 2 of 5 IATA のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。





A25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Matrix 2 of 5

<Matrix 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す>



X25DFT.

Matrix 2 of 5 のオン／オフ



X25ENA1.

On (オン)



X25ENA0.

* Off (オフ)

Matrix 2 of 5 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



X25MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



X25MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 11

<Code 11 の設定をすべてデフォルトに戻す>



C11DFT.

Code 11 のオン/オフ



C11ENA1.

On (オン)



C11ENA0.

* Off (オフ)

必要チェック・デジット数

Code 11 バーコードで使用するチェック・デジットを、1つにするか2つにするか設定します。デフォルト値 = Two Check Digits (チェック・デジット2つ)。



C11CK20.

One Check Digit (チェック・デジット1つ)



C11CK21.

* Two Check Digits (チェック・デジット2つ)

Code 11 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



C11MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



C11MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Code 128

<Code 128 の設定をすべてデフォルトに戻す>



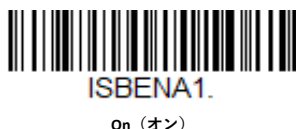
Code 128 のオン／オフ



Code 128 バーコードを読み取る場合は、Codablock F を無効のままにしてください。Codablock F を有効にしている場合（138 ページの「[Codablock F](#)」を参照）は、Code 128 を無効にしてください。

ISBT 128 の連結

1994 年、ISBT（International Society of Blood Transfusion、国際輸血学会）は、重要な血液情報を統一された方法で伝達するための基準を承認しました。ISBT フォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT 128 アプリケーション仕様では、1) 血液製剤にラベル付けするために重要なデータ要素について、2) 高度なセキュリティと省スペース設計により現在推奨される Code 128 について、3) 隣接するシンボルの連結をサポートする Code 128 の種類について、および、4) 血液製剤のラベル上のバーコードの標準レイアウトについて説明しています。連結をオンまたはオフにするには、以下のバーコードを使用します。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



Code 128 のリダンダンシー

Code 128 バーコードの読み取り時にエラーが発生した場合、リダンダンシー回数を調整できます。リダンダンシーにより、バーコードを送信する前にデコードする回数を調整することで、エラーの数を減らすことができます。リダンダンシー回数が多いほど、バーコードのデコードにかかる時間が長くなります。リダンダンシーを調整するには、以下の Code 128 Redundancy (Code 128 のリダンダンシー) バーコードをスキャンした後、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」で 0~10 のリダンダンシー回数をスキャンします。その後、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。デフォルト値 = 0。



128VOT.

Code 128 Redundancy (Code 128 のリ
ダンダンシー)

Code 128 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 0~80。デフォルトの最小長 = 0、デフォルトの最大長 = 80。



128MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小
長)



128MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大
長)

Code 128 の連結

この機能を使用すると、いくつかの Code 128 バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピューターに送信できます。スキャナーは、連結のトリガー文字を含む Code 128 バーコードを検出すると、連結のトリガーを含まない Code 128 バーコードを読み取るまで、Code 128 バーコードをバッファします。その後、データはバーコードが読み取られた順番に送信されます (FIFO: 先入れ先出し)。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



128APP1.

On (オン)



128APP0.

* Off (オフ)

Code 128 のコード・ページ

コード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し (232 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表

示されるようになります。



128DCP.

Code 128 のコード・ページ (Code
128 のコード・ページ)

GS1-128

<GS1-128 の設定をすべてデフォルトに戻す>



GS1DFT.

GS1-128 のオン/オフ



GS1ENA1.

* On (オン)



GS1ENA0.

* Off (オフ)

GS1-128 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~80。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 80。



GS1MIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小
長)



GS1MAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大
長)

Telepen

<Telepen の設定をすべてデフォルトに戻す>



Telepen のオン/オフ



Telepen の出力

AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力) を使用すると、スキャナーはスタート/ストップ・パターン 1 のシンボルを読み取り、標準の Full ASCII (スタート/ストップ・パターン 1) としてデコードします。**Original Telepen Output (オリジナル Telepen 出力)** を選択すると、スキャナーはスタート/ストップ・パターン 1 のシンボルを読み取り、オプションの Full ASCII (スタート/ストップ・パターン 2) の圧縮数値としてデコードします。デフォルト値 = AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力)。



Telepen のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~60。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 60。

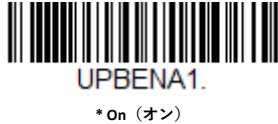


UPC-A

<UPC-A の設定をすべてデフォルトに戻す>



UPC-A のオン/オフ



注： UPC-A バーコードを EAN-13 に変換するには、124 ページの「[UPC-A を EAN-13 に変換する](#)」を参照してください。

UPC-A のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。 デフォルト値 = On (オン)。



UPC-A のナンバー・システム

U.P.C.シンボルのナンバー・システム・デジットは、通常スキャン・データの最初に送信されますが、送信されないようプログラミングすることができます (**Off (オフ)**)。デフォルト値 = **On (オン)**。



UPANSX1.

* On (オン)



UPANSX0.

Off (オフ)

UPC-A のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての UPC-A データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも **Off (オフ)**。



UPAAD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



UPAAD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



UPAAD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



UPAAD50.

* 5 Digit Addenda Off (5 桁のアドオン・オフ)

UPC-A アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナーはアドオンが含まれている UPC-A バーコードのみを読み取ります。その後、[118 ページ](#)に記載された 2 桁または 5 桁のアドオンをオンにする必要があります。デフォルト値 = **Not Required (必須ではない)**。



UPAARQ1.

Required (必須)



UPAARQ0.

* Not Required (必須ではない)

アドオンのタイムアウト

スキャナーがアドオンを探す時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合、**UPC-A Addenda Required (UPC-A アドオン必須)** の設定に基づき、データを送信または破棄できます。このタイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」の数字をスキャンしてタイムアウト (0~120 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 500。

注： *Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト) 設定は、アドオンおよびクーポン・コードのすべての検索に適用されます。*



UPC-A のアドオン・セパレーター

この機能を **On (オン)** にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間にスペースが挿入されます。**Off (オフ)** にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On (オン)*。



拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13

拡張クーポン・コード付き **UPC-A/EAN-13** を有効または無効にするには、以下のコードを使用します。デフォルト設定 (**Off (オフ)**) のままにすると、スキャナーはクーポン・コードおよび拡張クーポン・コードを単一のバーコードとして扱います。

Allow Concatenation (連結許可) コードをスキャンすると、スキャナーは 1 回のスキャンでクーポン・コードと拡張クーポン・コードを見つけたときに、両方を 1 つのシンボル体系として送信します。それ以外の場合は、最初に読み取ったクーポン・コードを送信します。

Require Concatenation (連結必須) コードをスキャンすると、データを送信するには、クーポン・コードと拡張クーポン・コードを1回のスキャンで読み取る必要があります。両方のコードを読み取らない限り、データは出力されません。デフォルト値 = Off (オフ)。



CPNENA0.

* Off (オフ)



CPNENA1.

Allow Concatenation (連結許可)



CPNENA2.

Require Concatenation (連結必須)

アドオンのタイムアウト

スキャナーがアドオンを探す時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合、**拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13** の設定に基づき、データを送信または破棄できます。このタイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」の数字をスキャンしてタイムアウト (0~120 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 500。

注： *Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)* 設定は、アドオンおよびクーポン・コードのすべての検索に適用されます。



DLYADD.

Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)

クーポン GS1 DataBar 出力

UPC と GS1 DataBar の両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合に、GS1 DataBar コードからのデータのみをスキャンして出力することもできます。GS1 DataBar コードのデータのみをスキャンして出力するには、以下の **GS1 Output On (GS1 出力オン)** コードをスキャンします。デフォルト値 = *GS1 Output Off (GS1 出力オフ)*。



CPNGS10.

* GS1 Output Off (GS1 出力オフ)



CPNGS11.

GS1 Output On (GS1 出力オン)

UPC-E0

<UPC-E の設定をすべてデフォルトに戻す>



UPC-E0 のオン/オフ

ほとんどの UPC バーコードは、0 ナンバー・システムで始まります。これらのコードを読み取るには、**UPC-E0 On (UPC-E0 オン)** オプションを使用します。1 ナンバー・システムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1** (123 ページ) を使用してください。デフォルト値 = *On* (オン)。



* UPC-E0 On (UPC-E0 オン)



* UPC-E0 Off (UPC-E0 オフ)

UPC-E0 Expand (UPC-E0 拡張)

UPC-E 拡張では、UPC-E コードを 12 桁の UPC-A 形式に拡張します。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



On (オン)



* Off (オフ)

UPC-E0 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナーはアドオンが含まれている UPC-E バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = *Not Required* (必須ではない)。



Required (必須)



* Not Required (必須ではない)

アドオンのタイムアウト

スキャナーがアドオンを探す時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合、**UPC-E0 Addenda Required (UPC-E0 アドオン必須)** の設定に基づき、データを送信または破棄できます。このタイムアウトの時間（ミリ秒単位）を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」の数字をスキャンしてタイムアウト（0～120 ミリ秒）を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 500。

注： *Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト) 設定は、アドオンおよびクーポン・コードのすべての検索に適用されます。*



DLYADD.

Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)

UPC-E0 のアドオン・セパレーター

この機能を **On (オン)** にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。**Off (オフ)** にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On (オン)*。



UPEADS1.

* On (オン)



UPEADS0.

* Off (オフ)

UPC-E0 のチェック・デジット

チェック・デジットは、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定します。デフォルト値 = *On (オン)*。



UPECKX1.

* On (オン)



UPECKX0.

Off (オフ)

UPC-E0 の先頭のゼロ

この機能により、スキャン・データの最初に先行ゼロ (0) を送信できます。送信しない場合は、**off (オフ)** をスキャンします。デフォルト値 = **On (オン)**。



UPC-E0 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての UPC-E データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも **off (オフ)**。



UPC-E1

ほとんどの UPC バーコードは、0 ナンバー・システムで始まります。これらのコードには、**UPC-E0 (121 ページ)** を使用します。1 ナンバー・システムで始まるコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1 On (UPC-E1 オン)** オプションを使用してください。デフォルト値 = **Off (オフ)**。



EAN/JAN-13

<EAN/JAN の設定をすべてデフォルトに戻す>



EAN/JAN-13 のオン／オフ



* On (オン)



off (オフ)

UPC-A を EAN-13 に変換する

UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換する) を選択すると、UPC-A バーコードは 13 桁の EAN-13 コードに変換され、先頭にゼロが付加されます。**Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない)** を選択すると、UPC-A コードは UPC-A として読み取られます。



UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に
変換する)



* Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない)

EAN/JAN-13 のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = *On* (オン)。



E13CKX1.

* On (オン)



E13CKX0.

Off (オフ)

EAN/JAN-13 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての EAN/JAN-13 データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも *Off* (オフ)。



E13AD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



E13AD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



E13AD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



E13AD50.

* 5 Digit Addenda Off (5 桁のアドオン・オフ)

EAN/JAN-13 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナーはアドオンが含まれている EAN/JAN-13 バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = *Not Required* (必須ではない)。



E13ARQ1.

Required (必須)



E13ARQ0.

* Not Required (必須ではない)

290 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「290」で始まる EAN-13 バーコードにのみ 5 桁のアドオンを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求) : 「290」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、5 桁のアドオンが必要になります。5 桁のアドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1 つの連結されたバーコードとして送信されます。**AddendaTimeout (アドオンのタイムアウト)** 時間内に 5 桁のアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

注 : [290 で始まる EAN-13 アドオン必須](#) (126 ページ) を使用している場合は、その設定が優先されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない) : Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#) に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)*。



ARQ2900.

* Don't Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求しない)



ARQ2901.

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求)

378/379 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「378」または「379」で始まる EAN-13 バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンの組み合わせを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求) : 「378」または「379」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、2 桁のアドオン、5 桁のアドオン、または 2 桁と 5 桁のアドオンの組み合わせが必要になります。アドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1 つの連結されたバーコードとして送信されます。**AddendaTimeout (アドオンのタイムアウト)** 時間内に必要なアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) : Require Addenda (アドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#) に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



* *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)



Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)



Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求)

414/419 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「414」または「419」で始まる EAN-13 バーコードに2桁または5桁のアドオンの組み合わせを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求) : 「414」または「419」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、2桁のアドオン、5桁のアドオン、または2桁と5桁のアドオンの組み合わせが必要になります。アドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。[AddendaTimeout \(アドオンのタイムアウト\)](#) 時間内に必要なアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) : *Require Addenda* (アドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#) に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)。



* *Don't Require Addenda* (アドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)



Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)



Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求)

434/439 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「434」または「439」で始まる EAN-13 バーコードに 2 桁または 5 桁のアドオンの組み合わせを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require Addenda (アドオンを要求) : 「434」または「439」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、2 桁のアドオン、5 桁のアドオン、または 2 桁と 5 桁のアドオンの組み合わせが必要になります。アドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1 つの連結されたバーコードとして送信されます。[AddendaTimeout \(アドオンのタイムアウト\)](#) 時間内に必要なアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require Addenda (アドオンを要求しない) : Require Addenda (アドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#) に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)*。



ARQ4340.

* Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)



ARQ4341.

Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求)



ARQ4342.

Require 5 Digit Addenda (5 桁のアドオンを要求)



ARQ4343.

Require 2 or 5 Digit Addenda (2 桁または 5 桁のアドオンを要求)

977 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「977」で始まる EAN-13 バーコードにのみ 2 桁のアドオンを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 2 Digit Addenda (2 桁のアドオンを要求) : 「977」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、2 桁のアドオンが必要になります。2 桁のアドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1 つの連結されたバーコードとして送信されます。[AddendaTimeout \(アドオンのタイムアウト\)](#) 時間内に 2 桁のアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない) : Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#)に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)*。



* Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)



Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)

978 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「978」で始まる EAN-13 バーコードにのみ5桁のアドオンを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求) : 「978」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、5桁のアドオンが必要になります。5桁のアドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。[AddendaTimeout \(アドオンのタイムアウト\)](#) 時間内に5桁のアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない) : Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#)に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)*。



* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)



Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)

979 で始まる EAN-13 アドオン必須

この設定では、「979」で始まる EAN-13 バーコードにのみ5桁のアドオンを要求するようスキャナーをプログラムします。以下の設定をプログラムできます。

Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求) : 「979」で始まるすべての EAN-13 バーコードで、5桁のアドオンが必要になります。5桁のアドオンが追加された EAN-13 バーコードは、1つの連結されたバーコードとして送信されます。[AddendaTimeout \(アドオンのタイムアウト\)](#) 時間内に5桁のアドオンが見つからなかった場合、EAN-13 バーコードは破棄されます。

Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない) : Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求) を選択している場合にこの機能を無効にするには、**Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)** をスキャンします。[EAN/JAN-13 アドオン必須](#)に使用している設定に応じて、EAN-13 バーコードが送信されます。

デフォルト値 = *Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)*。



* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)



Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)

アドオンのタイムアウト

スキャナーがアドオンを探す時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合、[EAN/JAN-13 Addenda Required \(EAN/JAN-13 アドオン必須\)](#) の設定に基づき、データを送信または破棄できます。このタイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」の数字をスキャンしてタイムアウト (0~120 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 500。

注： *Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト) 設定は、アドオンおよびクーポン・コードのすべての検索に適用されます。*



Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)

EAN/JAN-13 のアドオン・セパレーター

この機能を On (オン) にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間にスペースが挿入されます。Off (オフ) にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On (オン)*。



* On (オン)



off (オフ)

注： *拡張クーポン・コード付き EAN-13 を有効または無効にしたい場合は、「[拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13](#)」(119 ページ) を参照してください。*

ISBN 変換

On (オン) をスキャンすると、EAN-13 Bookland シンボルが同等の ISBN 番号フォーマットに変換されます。デフォルト値 = *Off (オフ)*。



EAN/JAN-8

<EAN/JAN-8 の設定をすべてデフォルトに戻す>



EAN/JAN-8 のオン / オフ



EAN/JAN-8 のチェック・デジット

これを選択すると、スキャン・データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = *On (オン)*。



EAN/JAN-8 のアドオン

これを選択すると、スキャンされたすべての EAN/JAN-8 データの末尾に 2 桁または 5 桁が追加されます。

デフォルト値 = 2 桁アドオンおよび 5 桁アドオンのいずれも *Off* (オフ)。



EA8AD21.

2 Digit Addenda On (2 桁のアドオン・オン)



EA8AD20.

* 2 Digit Addenda Off (2 桁のアドオン・オフ)



EA8AD51.

5 Digit Addenda On (5 桁のアドオン・オン)



EA8AD50.

* 5 Digit Addenda Off (5 桁のアドオン・オフ)

EAN/JAN-8 アドオン必須

Required (必須) をスキャンすると、スキャナーはアドオンが含まれている EAN/JAN-8 バーコードのみを読み取ります。デフォルト値 = *Not Required* (必須ではない)。



EA8ARQ1.

Required (必須)



EA8ARQ0.

* Not Required (必須ではない)

アドオンのタイムアウト

スキャナーがアドオンを探す時間を設定できます。この時間内にアドオンが見つからない場合、**EAN/JAN-8 Addenda Required (EAN/JAN-8 アドオン必須)** の設定に基づき、データを送信または破棄できます。このタイムアウトの時間 (ミリ秒単位) を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「**プログラミング・チャート**」の数字をスキャンしてタイムアウト (0~120 ミリ秒) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。デフォルト値 = 500。

注： *Addenda Timeout* (アドオンのタイムアウト) 設定は、アドオンおよびクーポン・コードのすべての検索に適用されます。



DLYADD.

Addenda Timeout (アドオンのタイムアウト)

EAN/JAN-8 のアドオン・セパレーター

この機能を **On (オン)** にすると、バーコードのデータとアドオンのデータの間スペースが挿入されます。**Off (オフ)** にすると、スペースは挿入されません。デフォルト値 = *On* (オン)。



EA8ADS1.

* On (オン)



EA8ADS0.

Off (オフ)

MSI

<MSI の設定をすべてデフォルトに戻す>



MSIDFT.

MSI のオン / オフ



MSIENA1.

On (オン)



MSIENA0.

* off (オフ)

MSI のチェック・キャラクタ

MSI バーコードには、異なるタイプのチェック・キャラクタが使用されます。スキャナーをプログラムして、タイプ 10 のチェック・キャラクタを使用する MSI バーコードを読み取るようにすることができます。デフォルト値 = *Validate Type 10, but Don't Transmit* (タイプ 10 を検証するが送信しない)。

チェック・キャラクタが **Validate Type 10/11 and Transmit** (タイプ 10/11 を検証して送信) に設定されている場合、スキャナーは指定したタイプのチェック・キャラクタありで印刷された MSI バーコードのみを読み取り、スキャンされたデータの末尾にこの文字を付加して送信します。

チェック・キャラクタが **Validate Type 10/11 and Transmit** (タイプ 10/11 を検証して送信) に設定されている場合、ユニットは指定したタイプのチェック・キャラクタありで印刷された MSI バーコードのみを読み取り、スキャンされたデータの末尾にこの文字を付加して送信します。



MSICK0.

* *Validate Type 10, but Don't Transmit* (タイプ 10 を検証するが送信しない)



MSICK1.

Validate Type 10 and Transmit (タイプ 10 を検証して送信)



MSICK2.

Validate 2 Type 10 Characters, but Don't Transmit (2つのタイプ 10 文字を検証するが送信しない)



MSICK3.

Validate 2 Type 10 Characters and Transmit (2つのタイプ 10 文字を検証して送信)



MSICK4.

Validate Type 11 then Type 10 Character, but Don't Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証するが送信しない)



MSICK5.

Validate Type 11 then Type 10 Character and Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証して送信)



MSICK6.

Disable MSI Check Characters (MSI のチェック・キャラクタ無効)

MSI のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 4~48。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



MSIMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



MSIMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1 DataBar Omnidirectional

<GS1 DataBar Omnidirectional の設定をすべてデフォルトに戻す>



RSSDFT.

GS1 DataBar Omnidirectional のオン/オフ



RSSENA1.

* On (オン)



RSSENA0.

off (オフ)

GS1 DataBar Limited

<GS1 DataBar Limited の設定をすべてデフォルトに戻す>



GS1 DataBar Limited のオン/オフ



GS1 DataBar Expanded

<GS1 DataBar Expanded の設定をすべてデフォルトに戻す>



GS1 DataBar Expanded のオン/オフ



GS1 DataBar Expanded のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 4~74。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 74。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



RSEMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Trioptic Code

注： Code 32 Pharmaceutical コード (103 ページ) をスキャンする場合は、Trioptic Code をオフにしてください。

Trioptic Code は、磁気記憶媒体のラベリングに使用されます。



TRIENA1.

On (オン)



TRIENA0.

* off (オフ)

Codablock A

<Codablock A の設定をすべてデフォルトに戻す>



CBADFT.

Codablock A のオン/オフ



CBAENA1.

On (オン)



CBAENA0.

* off (オフ)

Code 39 バーコードを読み取る場合は、Codablock A を無効のままにしてください。
Codablock A を有効にしている場合、Code 39 (101 ページの「Code 39」を参照) を無効にしてください。

Codablock A のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~600。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 600。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Codablock F

<Codablock F の設定をすべてデフォルトに戻す>



Codablock F のオン/オフ



On (オン)



* off (オフ)

Code 128 バーコードを読み取る場合は、Codablock F を無効のままにしてください。Codablock F を有効にしている場合、Code 128 (113 ページの「[Code 128](#)」を参照) を無効にしてください。

Codablock F のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2048。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2048。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



CBFMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Label Code (ラベル・コード)

標準のラベル・コードが図書館で使用されています。デフォルト値 = *off* (オフ)。



LBLENA1.

On (オン)



LBLENA0.

* off (オフ)

PDF417

<PDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す>



PDFDFT.

PDF417 のオン／オフ



PDFENA1.

* On (オン)



PDFENA0.

off (オフ)

PDF417 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2750。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2750。



PDFMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



PDFMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

MacroPDF417

Macro PDF417 は PDF417 の 1 つの実装であり、大量のデータをエンコードして複数の PDF417 バーコードに分割できます。この選択を有効にすると、このような複数のバーコードが単一のデータ文字列に組み立てられます。デフォルト値 = On (オン)。



PDFMAC1.

* On (オン)



PDFMAC0.

Off (オフ)

MicroPDF417

<MicroPDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す>



MPDDFT.

MicroPDF417 のオン/オフ



MPDENA1.

On (オン)



MPDENA0.

* off (オフ)

MicroPDF417 のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~366。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 366。



MPDMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



MPDMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1 コンポジット・コード

リア・コードは、一意の 2 次元コンポジット・コンポーネントと組み合わせることで、GS1 コンポジット・シンボル体系と呼ばれる新しいクラスを形成します。GS1 コンポジット・シンボル体系は、すでに使用しているシンボル体系と共存させることができます。デフォルト値 = *Off* (オフ)。



COMENA1.

On (オン)



COMENA0.

* off (オフ)

UPC/EAN のバージョン

U.P.C.または EAN リニア・コンポーネントのある GS1 コンポジット・シンボルをデコードするには、**UPC/EAN Version On (UPC/EAN バージョン・オン)** バーコードをスキャンします。(これは GS1-128 または GS1 リニア・コンポーネントを持つ GS1 コンポジット・シンボルには影響しません)。デフォルト値 = **UPC/EAN Version Off (UPC/EAN バージョン・オフ)**。



UPC/EAN Version On (UPC/EAN バージョン・オン)



* UPC/EAN Version Off (UPC/EAN バージョン・オフ)

注： UPC と GS1 DataBar の両方のコードを持つクーポンをスキャンする場合に、GS1 DataBar コードからのデータのみをスキャンして出力することもできます。詳細については、「[クーポン GS1 DataBar 出力](#)」(120 ページ)を参照してください。

GS1 コンポジット・コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1～2435。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2435。



Minimum Message Length (メッセージの最小長)



Maximum Message Length (メッセージの最大長)

GS1 エミュレーション

スキャナーは、任意の GS1 データ・キャリアーからの出力を自動的にフォーマットして、同等の GS1-128 または GS1 DataBar シンボルにエンコードされる内容をエミュレーションできます。GS1 データ・キャリアーには、UPC-A と UPC-E、EAN-13 と EAN-8、ITF-14、GS1-128、および GS1-128 DataBar と GS1 コンポジットが含まれます。(GS1 データを受信するアプリケーションは、1 種類のデータ・キャリアーを認識するだけで済むため、すべて単純化することができます)。

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション) をスキャンすると、小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) はすべて 16 桁まで拡張されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-128 AIM ID、Jc1 になります (225 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照)。

GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション) をスキャンすると、小売コード (U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13) はすべて 16 桁まで拡張されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-DataBar AIM ID、Jem になります (225 ページの「[シンボル体系チャート](#)」を参照)。

GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ) をスキャンすると、小売コードの拡張は無効になり、UPC-E 拡張は「**UPC-E0 拡張**」(121 ページ) の設定によって制御されます。AIM ID を有効にすると、その値は GS1-128 AIM ID,]C1 になります (225 ページの「**シンボル体系チャート**」を参照)。

EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8 を EAN13 に変換) をスキャンすると、EAN8 バーコードはすべて EAN13 フォーマットに変換されます。

デフォルト値 = *GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)*。



EANEMU1.

GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション)



EANEMU2.

GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション)



EANEMU3.

GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ)



EANEMU4.

EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8 を EAN13 に変換)



EANEMU0.

* GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)

TCIF Linked Code 39 (TLC39)

このコードは、Code 39 リニア・コンポーネントと MicroPDF417 スタック・コード・コンポーネントを持っているため、コンジット・コードです。Code 39 リニア・コンポーネントは、すべてのバーコード・リーダーで読み取ることができます。MicroPDF417 コンポーネントは、TLC39 に **On (オン)** が選択されている場合のみデコードすることができます。リニア・コンポーネントは、TLC39 がオフの場合でも、Code 39 としてデコードできます。デフォルト値 = *Off (オフ)*。



T39ENA1.

On (オン)



T39ENA0.

* off (オフ)

QR Code

<QR コードの設定をすべてデフォルトに戻す>



QR コードのオン／オフ

このオプションは、QR コードと Micro QR コードの両方に適用されます。



QRCENA1.

* On (オン)



QRCENA0.

Off (オフ)

QR コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~7089。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 7089。



QRCMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



QRCMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

QR コードの連結

この機能を使用すると、いくつかの QR コード・バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピューターに送信できます。スキャナーは、連結のトリガー文字が含まれている QR コード・バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされている情報によって指定された数だけ、QR コード・バーコードをバッファします。適切なコード数に達すると、バーコードに指定された順番でデータが出力されます。連結された QR コードをスキャンする方法は、以下の 3 通りあります。

One Scan (ワンスキャン)：トリガーを 1 度引くと、同じ画像内の連結 QR コードがすべてデコードされます。

Swipe (スワイプ)：トリガーを引いたままにすると、トリガーが押されている間、すべての連結 QR コードがスキャンされます。QR コードの一部がスキャンおよびバッファされると、その都度スキャナーから短いピープ音が鳴ります。最後の QR コードがスキャンされデータが完成すると、スキャナーから長いピープ音が鳴ります。この機能はプレゼンテーション・モードでは機能しません。

Point and Shoot (ポイント・アンド・シュート)：各画像に対して、トリガーを 1 度引きます。QR コードの一部がスキャンおよびバッファされると、その都度スキャナーから短いピープ音が鳴ります。最後の QR コードがスキャンされデータが完成すると、スキャナーから長いピープ音が鳴ります。この機能はプレゼンテーション・モードでは機能しません。

デフォルト値 = *One Scan* (ワンスキャン)。



QRCAPP1.

* One Scan (ワンスキャン)



QRCAPP2.

Swipe (スワイプ)



QRCAPP3.

Point and Shoot (ポイント・アンド・シュート)



QRCAPP0.

Off (オフ)

QR コードのコード・ページ

QR コードのコード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し (232 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



QRCDP.

QR Code Page (QR コードのコード・ページ)

Web リンク付き QR コード

「http」または「https」を含む QR コードのスクランを有効または無効にするには、この機能を使用します。



DotCode

<DotCode の設定をすべてデフォルトに戻す>



DotCode のオン／オフ



低品質 DotCode

この設定を使用すると、損傷した DotCode や印刷状態の悪い DotCode を読み取る機能が向上します。デフォルト値 = Poor Quality DotCodes Off (低品質 DotCode オフ)。



Poor Quality DotCodes On (低品質 DotCode オン)



* Poor Quality DotCodes Off (低品質 DotCode オフ)

DotCode のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~2400。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 2400。



DOTMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



DOTMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Digimarc Barcode™

Digimarc デコーダー 試行回数

試行回数を設定するには、下記のバーコードをスキャンしてから、本書の 239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」の数字をスキャンして試行回数 (0~10) を設定した後、**Save (保存)** をスキャンします。最小~最大試行回数 = 0~10。デフォルト値 = 3。



DIGSTR.

Digimarc Decoder Attempts (Digimarc
デコーダー 試行回数)

Digimarc Barcode

この設定により、Digimarc デコーダーと ID デコーダーを使用して Digimarc Barcode をデコードするようスキャナーをプログラムできます。Digimarc Barcode を **On (オン)** に設定すると、Digimarc デコーダーはほとんどのフレームで使用され、ID デコーダーは 5 つおきにフレームを読み取ります。

Digimarc Barcode が **Uses ID Decoder then Both Decoders (ID デコーダー使用後に両方のデコーダーを使用)** に設定されている場合、ID デコーダーが Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダー 試行回数) で設定されている試行回数読み取りを行った後、ID デコーダーと Digimarc デコーダーが使用されます。Digimarc Barcode が **Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダー使用後に両方のデコーダーを使用)** に設定されている場合、Digimarc デコーダーが Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダー 試行回数) で設定されている試行回数読み取りを行った後、ID デコーダーと Digimarc デコーダーが使用されます。

Digimarc Barcode が **Uses ID Decoder then Alternates Decoders (ID デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)** に設定されている場合、ID デコーダーが Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダー 試行回数) で設定されている試行回数読み取りを行った後、ID デコーダーと Digimarc デコーダーが交互に切り替えられます。Digimarc Barcode が **Uses Digimarc Decoder then Alternates Decoders (Digimarc デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)** に設定されている場合、Digimarc デコーダーが Digimarc Decoder Attempts (Digimarc デコーダー 試行回数) で設定されている試行回数読み取りを行った後、ID デコーダーと Digimarc デコーダーが交互に切り替えられます。

デフォルト値 = Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダー使用後に両方のデコーダーを使用)。



DIGENA0.

off (オフ)



DIGENA1.

On (オン)



DIGENA2.

Uses ID Decoder then Both Decoders (ID デコーダー使用後に両方のデコーダーを使用)



DIGENA3.

* Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダーの使用後に両方のデコーダーを使用)



DIGENA4.

Uses ID Decoder then Alternates Decoders (ID デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)



DIGENA5.

Uses Digimarc Decoder then Alternates Decoders (Digimarc デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)

Data Matrix

<Data Matrix の設定をすべてデフォルトに戻す>



IDMDFT.

Data Matrix のオン / オフ



IDMENA1.

* On (オン)



IDMENA0.

Off (オフ)

ダイレクト・パーク・マーキング・デコード

DPM (Direct Part Marking: ダイレクト・パーク・マーキング) バーコードの読み取りに問題がある場合、Dotpeen コードでは **Dotpeen DPM Decoding (Dotpeen DPM のデコード)** をスキャンするか、または反射 (エッチング) コードでは **Reflective (Etched) DPM Decoding (反射 (エッチング) DPM のデコード)** をスキャンします。デフォルト値 = *Disable DPM Decoding (DPM デコード無効)*。



DPMENA1.

Dotpeen DPM decoding (Dotpeen DPM のデコード)



DPMENA0.

* Disable DPM Decoding (DPM デコード無効)



DPMENA2.

Reflective (Etched) DPM decoding (反射 (エッチング) DPM のデコード)

Data Matrix のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ) を参照してください。最小長および最大長 = 1~3116。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 3116。



IDMMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



IDMMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Data Matrix のコード・ページ

Data Matrix のコード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し (232 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照)、239 ページ以降の「[プログラミング・チャート](#)」から数値をスキャンし、**Save (保存)** バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



IDMDCP.

Data Matrix Code Page (Data
Matrix のコード・ページ)

MaxiCode

<MaxiCode の設定をすべてデフォルトに戻す>



MAXDFT.

MaxiCode のオン／オフ



MAXENA1.

On (オン)



MAXENA0.

* off (オフ)

MaxiCode のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~150。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 150。



MAXMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小
長)



MAXMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Aztec Code

<Aztec Code の設定をすべてデフォルトに戻す>



Aztec Code のオン／オフ



Aztec Code のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~3832。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 3832。



Aztec の連結

この機能を使用すると、いくつかの Aztec バーコードのデータを連結してから、ホスト・コンピューターに送信できます。スキャナーは、連結のトリガー文字が含まれている Aztec バーコードを検出すると、それらのバーコードにエンコードされている情報によって指定された数だけ、Aztec バーコードをバッファします。適切なコード数に達すると、バーコードに指定された順番でデータが出力されます。デフォルト値 = On (オン)。





AZTAPP0.

Off (オフ)

Aztec のコード・ページ

Aztec のコード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、以下のバーコードをスキャンした後、バーコードが作成されたコード・ページを選択し（232 ページの「[ISO 2022/ISO 646 置換文字](#)」を参照）、239 ページ以降の「[プログラミング・チャートプログラミンダート](#)」から数値をスキャンし、**Save**（保存）バーコードをスキャンします。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。



AZTDCP.

Aztec Code Page (Aztec のコード・ページ)

Chinese Sensible (Han Xin) Code

<Han Xin の設定をすべてデフォルトに戻す>



HX_DFT.

Han Xin コードのオン／オフ



HX_ENA1.

On (オン)



HX_ENA0.

* Off (オフ)

Han Xin コードのメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 1~7833。デフォルトの最小長 = 1、デフォルトの最大長 = 7833。



HX_MIN.
Minimum Message Length (メッセージの最小長)



HX_MAX.
Maximum Message Length (メッセージの最大長)

郵便コード - 2 次元

以下に、使用可能な 2 次元郵便コードおよび 2 次元郵便コードの組み合わせを示します。2 次元郵便コード・オプションは、一度に 1 つだけ有効にすることができます。2 つ目の 2 次元郵便コード・オプションをスキャンすると、最初のオプションは無効になります。

デフォルト値 = 2D Postal Codes Off (2 次元郵便コード・オフ)。



POSTAL0.
* 2D Postal Codes Off (2 次元郵便コード・オフ)

2 次元郵便コード (単独) :



POSTAL1.
Australian Post On (Australian Post オン)



POSTAL30.
Canadian Post On (Canadian Post オン)



POSTAL7.
British Post On (British Post オン)



POSTAL10.
Intelligent Mail Barcode On (Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL3.

Japanese Post On (日本郵便オン)



POSTAL4.

KIX Post On (KIX Post オン)



POSTAL5.

Planet Code On (Planet Code オン)

156 ページの「[Planet Code のチェック・デジット](#)」も参照。



POSTAL9.

Postal-4i On (Postal-4i オン)



POSTAL6.

Postnet On (Post オン)

157 ページの「[Postnet のチェック・デジット](#)」も参照。



POSTAL11.

Postnet with B and B' Fields On (Postnet B および B' フィールド・オン)



POSTAL2.

InfoMail On (InfoMail オン)

2次元郵便コード（組み合わせ）：



POSTAL8.

InfoMail and British Post On (InfoMail と British Post オン)



POSTAL20.

Intelligent Mail Barcode and Postnet with B and B' Fields On (Intelligent Mail バーコードならびに Postnet B および B' フィールド・オン)



POSTAL14.

Postnet and Postal-4i On (Postnet と Postal-4i
オン)



POSTAL17.

Postal-4i and Intelligent Mail Barcode On
(Postal-4i と Intelligent Mail バーコード・オ
ン)



POSTAL12.

Planet Code and Postnet On (Planet Code と
Postnet オン)



POSTAL13.

Planet Code and Postal-4i On (Planet Code と
Postal-4i オン)



POSTAL21.

Planet Code, Postnet, and Postal-4i On (Planet
Code、Postnet、および Postal-4i オン)



POSTAL16.

Postnet and Intelligent Mail Barcode On (Postnet と
Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL19.

Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On (Postal-
4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オ
ン)



POSTAL18.

Planet Code and Postnet with B and B' Fields On
(Planet Code ならびに Postnet B および B'フィー
ルド・オン)



POSTAL15.

Planet Code and Intelligent Mail Barcode (Planet
Code と Intelligent Mail Bar バーコード・オン)



POSTAL22.

Planet Code, Postnet, and Intelligent Mail Barcode On
(Planet Code、Postnet、および Intelligent Mail バ
ーコード・オン)



POSTAL23.

Planet Code, Postal-4i, and Intelligent Mail Barcode On (Planet Code, Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL25.

Planet Code, Postal-4i, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code、Postal-4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL27.

Postal-4i, Intelligent Mail Barcode, and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL29.

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Barcode, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code、Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL24.

Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Barcode On (Postnet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)



POSTAL26.

Planet Code, Intelligent Mail Barcode, and Postnet with B and B' Fields On (Planet Code、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)



POSTAL28.

Planet Code, Postal-4i, Intelligent Mail Barcode, and Postnet On (Planet Code、Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet オン)

Planet Code のチェック・デジット

これを選択すると、Planet Code データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



PLNCKX1.

Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)



PLNCKX0.

* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)

Postnet のチェック・デジット

これを選択すると、Postnet データの最後にチェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = Don't Transmit (送信しない)。



NETCKX1.

Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)



NETCKX0.

* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)

Australian Post の解釈

このオプションは、Australian 4-State シンボルの顧客フィールドに、どの解釈を適用するかを制御します。

Bar Output (バー出力) は、バー・パターンを「0123」フォーマットで一覧表示します。

Numeric N Table (数字 N テーブル) は、N テーブルを使用し、フィールドを数字データとして解釈します。

Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル) では、C テーブルを使用し、フィールドを英数字データとして解釈します。「Australian Post 仕様表」を参照してください。

Combination C and N Tables (C と N テーブルの組み合わせ) は、C または N テーブルを使用してフィールドを解釈します。



AUSINT0.

* Bar Output (バー出力)



AUSINT1.

Numeric N Table (数字 N テーブル)



AUSINT2.

Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル)



AUSINT3.

Combination C and N Tables (C と N テーブルの組み合わせ)

郵便コード - リニア

以下にリニア郵便コードを記載します。リニア郵便コード・オプションの組み合わせは、一度に1つだけ有効にすることができます。

China Post (Hong Kong 2 of 5)

<China Post (Hong Kong 2 of 5) 設定をすべてデフォルトに戻す>



CPCDFT.

China Post (Hong Kong 2 of 5) のオン/オフ



CPCENA1.

On (オン)



CPCENA0.

* off (オフ)

China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 80。



CPCMIN.

Minimum Message Length (メッセージの最小長)



CPCMAX.

Maximum Message Length (メッセージの最大長)

Korean Post

<Korean Post の設定をすべてデフォルトに戻す>



Korean Post



Korean Post のメッセージ長

メッセージ長を変更するには、以下のバーコードをスキャンします。詳細については、「[メッセージ長の説明](#)」(98 ページ)を参照してください。最小長および最大長 = 2~80。デフォルトの最小長 = 4、デフォルトの最大長 = 48。



Korean Post のチェック・デジット

これを選択すると、チェック・デジットを送信するかどうかを指定できます。デフォルト値 = *Don't Transmit* (送信しない)。



スキャナーは、デジタル・カメラのように画像を取り込み、処理し、転送します。以下のコマンドで、こうした機能をスキャナーが行う方法を変更することができます。

シングルユース・ベース

修飾キー付きのイメージング・コマンドは、スキャナーにシングルユース・ベースで命令を送信し、1回の画像取り込みが有効になります。その取り込みが完了すると、スキャナーはイメージングのデフォルトの設定に戻ります。設定を永続的に変更する場合は、デフォルトのシリアル・コマンド（CHAPTER 9を参照）を使用する必要があります。デフォルトのシリアル・コマンドを使用すると、選択した内容が新たにスキャナーの永続的な設定になります。

コマンド構文

1つのシーケンス内に複数の修飾キーおよびコマンドを発行できます。同じコマンドにさらに修飾キーを適用する場合は、その修飾キーをコマンドに追加するだけです。たとえば、Image Snap（画像撮影）コマンドに対して、Imaging Style（イメージング・スタイル）を1Pに設定する修飾キーとWait for Trigger（トリガーの待機）を1Tに設定する修飾キーの2つの修飾キーを追加するには、**IMGSPNP1P1T**と入力します。

注： 画像取り込みコマンド（*IMGSPNP* または *IMGBOX*）を処理した後、その画像を端末で見るには *IMGSHIP* コマンドを実行する必要があります。

シーケンスにコマンドを追加するには、各コマンドをセミコロンで区切ってください。たとえば、上記のシーケンスにImage Ship（画像送信）コマンドを追加するには、**IMGSPNP1P1T;IMGSHIP**と入力します。

イメージング・コマンドは以下のとおりです。

Image Snap（画像撮影） - **IMGSPNP**（162 ページ）

Image Ship（画像送信） - **IMGSHIP**（165 ページ）

Intelligent Signature Capture（インテリジェント署名取り込み） - **IMGBOX**（174 ページ）

コマンドの修飾キーについては、それぞれのコマンドの説明の次に示します。

注： それぞれのコマンドの説明に含まれる画像は例に過ぎません。得られる結果は、本書内のものと異なる可能性があります。得られる出力の品質は、照明、取り込む画像／対象の初期状態の品質、および画像／対象とスキャナーの距離によって異なります。高品質の画像を実現するには、取り込む画像／対象からスキャナーを4～6インチ（10.2～15.2 cm）離して使用することをお勧めします。

手順 1 - IMGSNP を使用して写真を撮影する

Image Snap（画像撮影） - IMGSNP

ハードウェア・トリガーを押すたび、または Image Snap（画像撮影）（IMGSNP）コマンドを実行すると、画像が撮影されます。

Image Snap（画像撮影）コマンドには、メモリー内の画像の外観を変更するための多種多様な修飾キーがあります。任意の数の修飾キーを IMGSNP コマンドに追加できます。

例： このコマンドを使用して、画像を撮影し、ゲインを上げて、撮影完了後にブザー音を鳴らすことができます：**IMGSNP2G1B**。

IMGSNP の修飾キー

P - Imaging Style（イメージング・スタイル）

Image Snap（画像撮影）のスタイルを設定します。

- 0P **Decoding Style（デコード・スタイル）**。露光パラメーターが合うまで数フレームを撮影できます。最後のフレームは後で利用できます。
- 1P **Photo Style（写真スタイル）（デフォルト値）**。単純なデジタル・カメラを真似、視覚的に最適化された画像が得られます。
- 2P **Manual Style（手動スタイル）**。高度なスタイルで、上級者向けです。スキャナーを最も自由に設定できますが、自動露光機能はありません。

B - Beeper（ブザー）

画像の撮影後、ブザーを鳴らします。

- 0B ブザーなし（デフォルト値）
- 1B 画像が取り込まれると、ブザーが鳴ります

T - Wait for Trigger (トリガーの待機)

画像撮影前にハードウェア・トリガーが押されるのを待機します。Photo Style (写真スタイル) (1P) の使用時のみ有効です。

0T すぐに画像を撮影します (デフォルト値)

1T トリガーが押されるのを待機してから、画像を撮影します

L - LED State (LED の状態)

LED をオン/オフにするのか、いつオン/オフにするのかを決定します。ID カードなどのカラー文書の写真を撮影する場合、特にスキャナーをスタンドに置くときは、環境光 (0L) をお勧めします。スキャナーを手に持つ場合は、LED 照明 (1L) をお勧めします。Decoding Style (デコード・スタイル) (0P) の使用時は LED State (LED の状態) は利用できません。

0L LED オフ (デフォルト値)

1L LED オン

E - Exposure (露光)

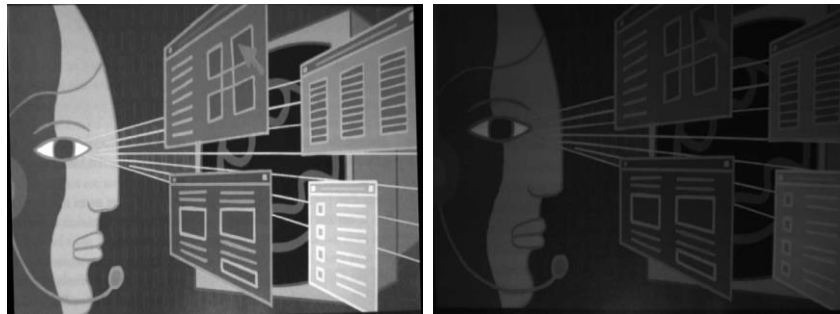
Exposure (露光) は Manual Style (手動スタイル) (2P) でのみ使用し、露光時間を設定できます。これは、カメラのシャッター・スピードの設定と似ています。露光時間により、スキャナーが画像を記録する時間の長さが決まります。明るい日は画像を記録するために十分な光があるため、露光時間は非常に短くて済みます。これに対して、夜間は近くに光がないため、露光時間をかなり長くする必要があります。単位は 127 マイクロ秒です。(デフォルト値 = 7874)

nE 範囲：1~7874

例：

蛍光灯下での 7874E の場合の露光：

蛍光灯下での 100E の場合の露光：



G - Gain (ゲイン)

Gain (ゲイン) は Manual Style (手動スタイル) (2P) でのみ使用します。音量の調節と同じように、信号を増幅し、ピクセル値を増大させます。ゲインを上げると、画像のノイズも増幅されます。

1G ゲインなし (デフォルト値)

2G ゲイン中

4G ゲイン高

8G ゲイン最大

例：

ゲインが 1G の場合：



ゲインが 4G の場合：



ゲインが 8G の場合：



W - Target White Value (ターゲット・ホワイト値)

取り込んだ画像のグレースケールの中心値のターゲットを設定します。コントラストの高い文書の接写画像を取り込むには、75 など低めの設定が推奨されます。設定値を高くすると、露光時間が長くなり、画像は明るくなりますが、設定値が高すぎると、画像が露出オーバーになる可能性があります。Photo Style (写真スタイル) (1P) の使用時のみ有効です。(デフォルト値 = 125)

nW 範囲：0～255

例：

ホワイト値が 75W の場合：



ホワイト値が 125W の場合：



ホワイト値が 200W の場合：



D - Delta for Acceptance (許容範囲)

ホワイト値の許容設定範囲を設定します(「W - Target White Value (ターゲット・ホワイト値)」を参照)。Photo Style (写真スタイル) (1P) の使用時のみ有効です。(デフォルト値 = 25)

nD 範囲：0～255

U - Update Tries (アップデート試行)

D - Delta for Acceptance (許容範囲) に達するまでのスキャナーが撮影するフレームの最大数を設定します。Photo Style (写真スタイル) (1P) の使用時のみ有効です。
(デフォルト値 = 6)

nU 範囲 : 0~10

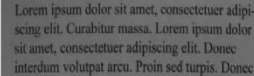
% - Target Set Point Percentage (ターゲット・セット・ポイント比率)

取り込んだ画像の明暗値のターゲット・ポイントを設定します。75%に設定すると、ピクセルの 75%がターゲット・ホワイト値以下になり、ピクセルの 25%はターゲット・ホワイト値を上回ります。通常的环境下では、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。グレースケール値を変更するには、**W - Target White Value (ターゲット・ホワイト値)** を使用してください。(デフォルト値 = 50)

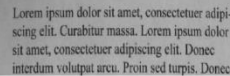
n% 範囲 : 1~99

例 :

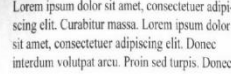
ターゲット・セット・ ポイント比率が 97%の 場合 :	ターゲット・セット・ポ イント比率が 50%の場 合 :	ターゲット・セット・ ポイント比率が 40%の 場合 :
------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------



Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetur adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec



Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetur adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec



Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipi-
scing elit. Curabitur massa. Lorem ipsum dolor
sit amet, consectetur adipiscing elit. Donec
interdum volutpat arcu. Proin sed turpis. Donec

手順 2 - IMGSHIP を使用して写真を送信する

Image Ship (画像送信) – IMGSHIP

トリガーを押すたび、または Image Snap (画像撮影) (IMGSNP) コマンドを実行すると、画像が撮影されます。常に、最後の画像がメモリーに保存されます。この画像を IMGSHIP コマンドを使用して「送信」できます。

Image Ship (画像送信) コマンドには、画像出力の外観を変更するための多種多様な修飾キーがあります。修飾キーは、送信される画像には影響しますが、メモリー内の画像には影響しません。任意の数の修飾キーを IMGSHIP コマンドに追加できます。

例 : このコマンドを使用して、画像を撮影し、ガンマ補正と文書画像フィルタリングを行ったビットマップ画像として送信することができます :
IMGSNP;IMGSHIP8F75K26U。

IMGSHP の修飾キー

A - Infinity Filter (無限遠フィルター)

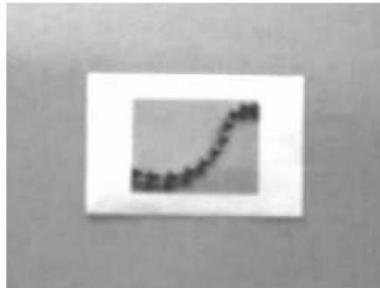
非常に遠く離れた距離 (10 フィート (3m) 以上) から撮影した写真の質を向上します。ただし、[IMGSNP の修飾キー](#) (162 ページ) では使用できません。

0A 無限遠フィルター・オフ (デフォルト値)

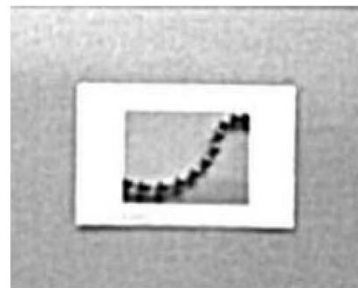
1A 無限遠フィルター・オン

例：

約 12 フィート (3.66m) 離れた距離で無限フィルターがオフ (0A) の場合：



約 12 フィート (3.66m) 離れた距離で無限フィルターがオン (1A) の場合：



C - Compensation (補正)

画像全体の照明のばらつきをなくすために、画像を平らにします。

0C 補正無効 (デフォルト値)

1C 補正有効

例：

補正が 0C の場合：



補正が 1C の場合：



D - Pixel Depth (ピクセル深度)

送信画像のピクセルあたりのビット数を示します (KIM または BMP フォーマットのみ)。

8D ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像 (デフォルト値)

1D ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

E - Edge Sharpen (エッジ・シャープニング)

エッジ・シャープニング・フィルターが画像の縁をクリーンアップして、画像をさらに鮮明にシャープにします。エッジ・シャープニングは画像を鮮明にしますが、それと同時に本来の画像からきれいに撮影された詳細部も取り除いてしまいます。エッジ・シャープニング・フィルターの強度は 1~24 で設定できます。23E を入力すると、エッジは最もシャープになりますが、画像内のノイズも増えます。

0E 画像をシャープにしない (デフォルト値)

14E 標準画像用にエッジ・シャープニングを適用する

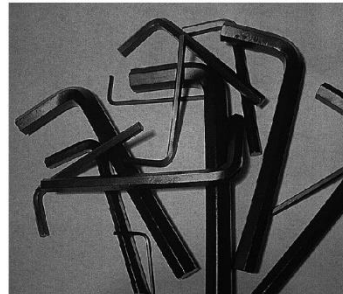
ne 強度 n ($n=1\sim 24$) でエッジ・シャープニングを適用する

例：

エッジ・シャープニングが 0E の
場合：



エッジ・シャープニングが 24E の
場合：



F - File Format (ファイル・フォーマット)

画像に希望するフォーマットを示します。

0F KIM フォーマット

1F TIFF バイナリー

2F TIFF バイナリー・グループ 4、圧縮

3F TIFF グレースケール

4F 非圧縮バイナリー (左上から右下、1 ピクセル/ビット、行末を 0 で埋める)

5F 非圧縮グレースケール (左上から右下、ビットマップ・フォーマット)

6F JPEG 画像 (デフォルト値)

8F BMP フォーマット (右下から左上、非圧縮)

15F BMP 非圧縮生画像

H - Histogram Stretch (ヒストグラム・ストレッチ)

送信画像のコントラストを高くします。一部の画像フォーマットでは使用できません。

0H ストレッチなし (デフォルト値)

1H ヒストグラム・ストレッチ

例：

ヒストグラム・ストレッチが0Hの場合：



ヒストグラム・ストレッチが1Hの場合：



I - Invert Image (画像反転)

X軸またはY軸を中心として画像を回転させます。

1ix X軸を中心に反転 (画像の上下が反転)

1iy Y軸を中心に反転 (画像の左右が反転)

例：

画像を反転しない場合： 画像反転を1ixに設定した場合：



画像反転を1iyに設定した場合：



IF- Noise Reduction (ノイズ低減)

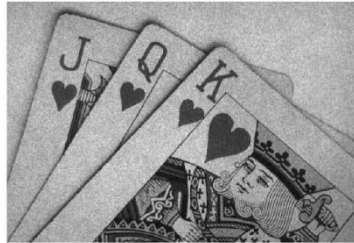
画像のゴマ塩ノイズを低減します。

0if ゴマ塩ノイズ低減なし (デフォルト値)

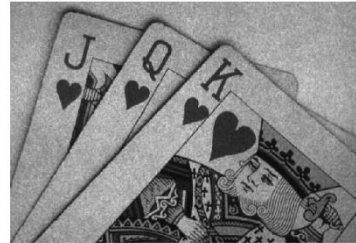
1if ゴマ塩ノイズ低減あり

例 :

ノイズ低減オフ (0if) :



ノイズ低減オン (1if) :



IR - Image Rotate (画像回転)

0ir 画像を撮影したとおり (正しい向き) (デフォルト値)

1ir 画像を右に 90 度回転

2ir 画像を 180 度回転 (上下逆)

3ir 画像を左に 90 度回転

例 :

画像回転を 0ir に設定した場合 :



画像回転を 2ir に設定した場合 :



画像回転を 1ir に設定した場合 :



画像回転を 3ir に設定した場合 :



J - JPEG Image Quality (JPEG 画像品質)

JPEG 画像フォーマットを選択した場合に必要な品質を設定します。値が高いほど、品質は高くなりますが、ファイルは大きくなります。値が低いほど、損失圧縮量が大きくなり、転送速度は速くなりますが、品質が低下しますが、ファイルは小さくなります。(デフォルト値 = 50)

- nJ 品質係数 n ($n = 0 \sim 100$) を保持しながら、できる限り画像を圧縮します
- 0J 最低画質 (最小ファイル)
- 100J 最高画質 (最大ファイル)

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを測定します。ガンマ補正を使用して、画像を明るくしたり暗くしたりすることができます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定値が小さいほど、画像は暗くなります。テキスト画像に最適な設定値は 50K です。

- 0K ガンマ補正オフ (デフォルト値)
- 50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用
- nK ガンマ補正係数 n ($n = 0 \sim 1,000$) を適用

例：

ガンマ補正を 0K に設定した場合：



ガンマ補正を 50K に設定した場合：



ガンマ補正を 255K に設定した場合：



L、R、T、B、M - Image Cropping (画像切り取り)

上下左右のピクセル座標を指定して、画像のウィンドウを送信します。デバイスの列には 0~1279 の番号、行には 0~959 の番号が付けられています。

- nL 送信画像の左端が、メモリー内の画像の n 列に対応します。範囲：000 ~ 843 (デフォルト値 = 0)
- nR 送信画像の右端が、メモリー内の画像の $n-1$ 列に対応します。範囲：000 ~ 843 (デフォルト値 = すべての列)
- nT 送信画像の上端が、メモリー内の画像の n 行に対応します。範囲：000 ~ 639 (デフォルト値 = 0)

nB 送信画像の下端が、メモリー内の画像の $n-1$ 行に対応します。範囲：000～639 (デフォルト値 = すべての行)

例：

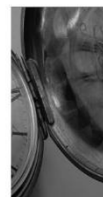
切り取りなしの画像：



画像切り取りを 300R に設定した場合：



画像切り取りを 300L に設定した場合：



画像切り取りを 200B に設定した場合：



画像切り取りを 200T に設定した場合：



または、画像の外側のマージンから切り取るピクセルの数を指定します。この場合、中央のピクセルだけが送信されます。

nM マージン：画像の左から n 列、右から $n+1$ 列、上から n 行、下から $n+1$ 行を切り取ります。残りの中央のピクセルを送信します。範囲：0～238 (デフォルト値 = 0、または画像全体)

例：

画像切り取りを 238M に設定した場合：



P - Protocol (プロトコル)

画像の送信に使用します。ホストに送信している画像データの 2 つの機能に対応しています。データの送信に使用するプロトコル (Hmodem、追加のヘッダー情報が含まれる Xmodem 1K のバリエーション) と、送信される画像データのフォーマットです。

- 0P なし (生データ)
- 2P なし (USB のデフォルト値)
- 3P Hmodem 圧縮 (RS232 のデフォルト値)
- 4P Hmodem

S - Pixel Ship (ピクセル送信)

画像を本来のサイズに対する比率に拡大縮小します。一定の規則的間隔のピクセルのみを送信することで、画像を間引きます。

例： 4S では、4 行おきに 4 ピクセルごとに送信します。

送信するピクセルの数が小さいほど、画像が小さくなりますが、一定数を超えると、画像を使用できなくなります。

- 1S すべてのピクセルを送信（デフォルト値）
- 2S 縦横両方で2ピクセルごとに送信
- 3S 縦横両方で3ピクセルごとに送信

例：

ピクセル送信を1Sに設定した場合： ピクセル送信を2Sに設定した場合： ピクセル送信を3Sに設定した場合： ピクセル送信を4Sに設定した場合：



U - Document Image Filter（文書画像フィルター）

画像内のテキストの縁をシャープにし、その間の部分を滑らかにするためのパラメーターを入力できます。このフィルターはガンマ補正（170 ページを参照）と一緒に使用し、スキャナーはスタンドに置き、このコマンドで画像を取り込みます：

IMGSNP1P0L168W90%32D。

このフィルターは通常、標準の E - Edge Sharpen（エッジ・シャープニング）コマンド（173 ページを参照）よりも優れた JPEG 圧縮を実現します。また、純粋な白黒のみの画像（ピクセルあたり1ビット）を送信する場合にも有効です。最適な設定は26Uです。

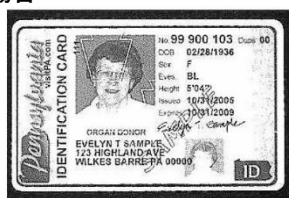
- 0U 文書画像フィルター・オフ（デフォルト値）
- 26U 標準の文書画像に文書画像フィルターを適用
- nU グレースケールのしきい値 n を使用して文書画像フィルターを適用。画像コントラストが低ければ、数値を下げます。1U は、E - Edge Sharpen（エッジ・シャープニング）（167 ページ）を 22e に設定した場合と同等の効果があります。範囲：0-255。

例：

文書画像フィルターを0Uに設定した場合：



文書画像フィルターを26Uに設定した場合：



V - Blur Image (画像ぼかし)

画像内の定義された線および網掛け部分のハード・エッジ.の横にあるピクセルを平均化することで、遷移を滑らかにします。

0V ぼかさない (デフォルト値)

1V ぼかす

例：

画像ぼかしオフ (0v)：



画像ぼかしオン (1v)：



W - Histogram Ship (ヒストグラム送信)

ヒストグラムにより、画像の色調範囲 (キー・タイプ) を容易に把握できます。ローキー画像はシャドウに細部が集中し、ハイキー画像はハイライトに、平均的なキーの画像は中間調に集中します。この修飾キーは、画像のヒストグラムを送信します。

0W ヒストグラムを送信しない (デフォルト値)

1W ヒストグラムを送信

例：

ヒストグラムに使用する画像：



画像のヒストグラム：



画像サイズの互換性

画像送信で正確に 640x480 ピクセルを返すアプリケーションでは、Force VGA Resolution (VGA 解像度を強制) バージョンをスキャンします。デフォルト値 = Native Resolution (ネイティブ解像度)。



Force VGA Resolution (VGA 解像度を強制)



IMGVGA0.

* Native Resolution (ネイティブ解像度)

Intelligent Signature Capture (インテリジェント署名取り込み) – IMGBOX

IMGBOX では、署名取り込みエリアのサイズおよび位置をバーコードへの近接度を基準にして設定できます。これにより、署名取り込みエリアを特定のフォームに合わせることができます。IMGBOX を使用するには、署名ボックスがバーコードに対して既知の位置にあるよう設定されたフォームが必要です。署名エリア全体のサイズを入力できるだけでなく、署名エリアをバーコードから垂直方向および水平方向にどの程度離すかも指定できます。また、署名取り込み画像を最終的に出力するための解像度およびファイル・フォーマットも設定できます。

注： IMGBOX コマンドは、PDF417、Code 39、Code 128、Aztec、Codabar、Interleaved 2 of 5 のいずれかのタイプのバーコードによってのみトリガーできます。これらのシンボル体系のいずれかが読み取られると、画像が保持され、IMGBOX コマンドを実行することができます。

署名取り込みの最適化

スキャナーを使用して署名を頻繁に取り込むような場合は最適化してください。ただし、このモードが有効であると、バーコードのスキャン速度が低下する可能性があります。デフォルト値 = Off (オフ)。



DECBND1.

Optimize On (最適化オン)

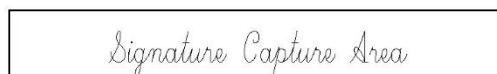


DECBND0.

* Optimize Off (最適化オフ)

署名取り込みアプリケーションの例を以下に示します。この例では、エイマーを署名取り込みエリアの中心に合わせて、トリガーを押します。スキャナーが Code 128 バーコードを読み取り、データがホストに転送されたことを知らせるために、ブザーが 1 回鳴ります。これで、ホストから IMGBOX コマンドが送信され、コードの下の署名取り込みエリアの座標が指定され、署名を含むエリアのみが画像としてホストに転送されます。

この例を試すには、エイマーを署名エリア（バーコードでなく）に揃えてから、トリガーを押します。

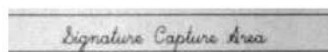


トリガーを押した後に、以下の IMGBOX コマンド文字列を送信します。

例：IMGBOX245w37h55y。

注： コマンド文字列では大文字／小文字は重要ではありません。ここでは説明のために大文字と小文字を使用しています。

以下の画像が取り込まれます。



IMGBOX コマンドには、スキャナーから出力される署名画像出力のサイズや表示を変更するための多種多様な修飾キーがあります。修飾キーは、送信される画像には影響しますが、メモリー内の画像には影響しません。任意の数の修飾キーを IMGBOX コマンドに追加できます。

注： ウィンドウのサイズ（幅と高さ）が指定されていない場合、IMGBOX コマンドは NAK を返します。「H - Height of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの高さ）」（177 ページ）および「W - Width of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの幅）」（178 ページ）を参照してください。

IMGBOX の修飾キー

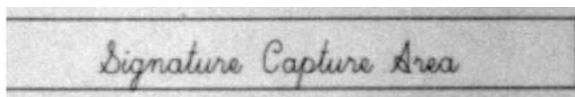
A - Output Image Width（出力画像の幅）

画像を水平方向に拡大縮小します。このオプションを使用する場合は、解像度（R）をゼロに設定してください。

例： 画像の幅を 200A に設定した場合：



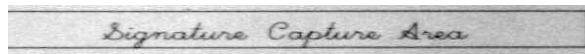
画像の幅を 600A に設定した場合：



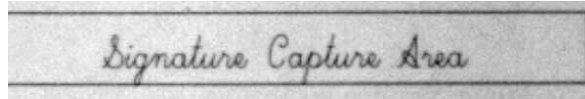
B - Output Image Height (出力画像の高さ)

画像を垂直方向に拡大縮小します。このオプションを使用する場合は、解像度 (R) をゼロに設定してください。

例： 画像の高さを 50B に設定した場合：



画像の高さを 100B に設定した場合：



D - Pixel Depth (ピクセル深度)

送信画像内のピクセルあたりのビット数を指定します。この値により、グレースケール画像なのか白黒画像なのかが定義されます。

8D ピクセルあたり 8 ビット、グレースケール画像 (デフォルト値)

1D ピクセルあたり 1 ビット、白黒画像

F - File Format (ファイル・フォーマット)

画像を保存するファイル・フォーマットのタイプを指定します。

0F KIM フォーマット

1F TIFF バイナリー

2F TIFF バイナリー・グループ 4、圧縮

3F TIFF グレースケール

4F 非圧縮バイナリー

5F 非圧縮グレースケール

6F JPEG 画像 (デフォルト値)

7F アウトライン画像

8F BMP フォーマット

H - Height of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの高さ)

署名取り込みエリアの高さは、0.01 インチ単位で測定されます。たとえば、署名を取り込むエリアの高さを 3/8 インチとすると、 $H = .375 / 0.01 = 37.5$ になります。

例：IMGBOX245w37h55y。

K - Gamma Correction (ガンマ補正)

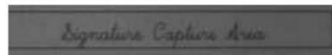
ガンマは、画像が生成する中間トーン値の明るさを測定します。ガンマ補正を使用して、画像を明るくしたり暗くしたりすることができます。ガンマ補正を大きくすると、全体的に明るい画像が得られます。設定値が小さいほど、画像は暗くなります。テキスト画像に最適な設定値は 50K です。

0K ガンマ補正オフ (デフォルト値)

50K 標準の文書画像を明るくするためにガンマ補正を適用

nK ガンマ補正係数 n ($n = 1 \sim 255$) を適用

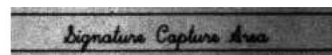
例： ガンマ補正を 0K に設定した場合：



ガンマ補正を 50K に設定した場合：



ガンマ補正を 255K に設定した場合：

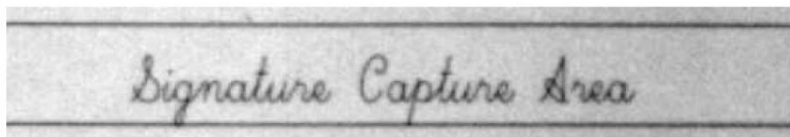


R - Resolution of Signature Capture Area (署名取り込みエリアの解像度)

解像度は、バーの最小幅ごとにスキャナーが出力するピクセルの数です。R の値を大きいほど、画質は向上しますが、ファイル・サイズが大きくなります。値は 1000 から始まります。スキャナーが自動的に、最初の桁と 2 番目の桁の間に小数点を挿入します。

たとえば、2.5 の解像度を指定するには、2500 を使用します。修飾キー A および B を使用する場合はゼロに設定してください（「A - Output Image Width（出力画像の幅）」および 176 ページの「B - Output Image Height（出力画像の高さ）」を参照）。

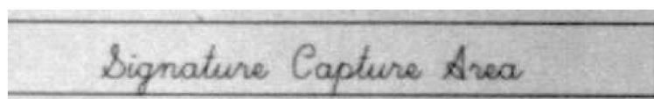
例： 解像度を 0R に設定した場合：



解像度を 1000R に設定した場合：



解像度を 2000R に設定した場合：



S - Barcode Aspect Ratio（バーコードのアスペクト比）

IMGBOX で使用されるすべての寸法は、バーコードの最小エレメント・サイズの倍数として測定されます。バーコードのアスペクト比により、バーコードの高さのナロー・エレメントの幅に対する比率を設定できます。たとえば、ナロー・エレメントの幅を .010 インチ、バーコードの高さを 0.400 インチとした場合、 $S = 0.4/0.01 = 40$ になります。

W - Width of Signature Capture Area（署名取り込みエリアの幅）

署名取り込みエリアの幅は、0.01 インチ単位で測定されます。たとえば、署名を取り込むエリアの幅を 2.4 インチとすると、 $W = 2.4/0.01 = 240$ になります。（この例では、画像エリアの幅を少し大きめに設定するために、値 245 を使用しました。）

例： **IMGBOX245w37h55y**。

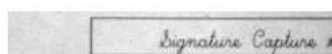
X - Horizontal Barcode Offset（水平バーコード・オフセット）

署名取り込みエリアの水平方向の中心をずらすことができます。正の値では水平方向の中心が右に移動し、負の値では左に移動します。数値はバーの最小幅の倍数にします。

例： 水平オフセットを 75X に設定した場合：



水平オフセットを -75X に設定した場合：



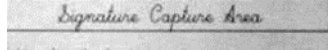
Y - Vertical Barcode Offset (垂直バーコード・オフセット)

署名取り込みエリアの垂直方向の中心をずらすことができます。負の値では署名取り込みエリアがバーコードの上になり、正の値ではバーコードの下になります。数値はバーの最小幅の倍数にします。

例： 垂直オフセットを-7Yに設定した場合：



垂直オフセットを65Yに設定した場合：



すべてのシンボル体系にテスト・コード ID プレフィックスを追加する

これを選択すると、シンボル体系をデコードする前に、コード ID の送信をオンにできます。(各シンボル体系を識別する単一文字コードについては、225 ページ以降の「シンボル体系チャート」を参照してください)。この操作では、最初に現在のプレフィックスがすべてクリアされ、次にすべてのシンボル体系に対してコード ID プレフィックスがプログラムされます。これは一時的な設定であり、ユニットの電源を入れ直すと削除されます。



PRECA2,BK2995C80!

Add Code I.D.Prefix to All Symbologies (Temporary) (すべてのシンボル体系にコード ID プレフィックスを追加 [一時的])

ソフトウェアの改訂情報を表示する

ソフトウェアの最新の改訂情報、ユニットのシリアル番号、およびスキャナーとベース両方に関するその他の製品情報を出力するには、以下のバーコードをスキャンします。



REVINF.

Show Software Revision (ソフトウェアの改訂情報を表示)

テスト・メニュー

Test Menu On (テスト・メニュー・オン) コードをスキャンしてから本書のプログラミング・コードをスキャンすると、スキャナーにプログラミング・コードの内容が表示されます。プログラミング機能はそのまま実行されますが、これに加えてそのプログラミング・コードの内容が端末に出力されます。

注：この機能は通常のスキャナー操作では使用しないでください。



TSTMNU1.

On (オン)



TSTMNU0.

* Off (オフ)

TotalFreedom

TotalFreedom は、スキャナーに常駐するアプリケーションを作成できるオープン・システム・アーキテクチャーです。TotalFreedom を使用して、デコード・アプリおよびデータ・フォーマット・アプリを作成できます。TotalFreedom の詳細については、当社 Web サイト (sps.honeywell.com) を参照してください。

アプリケーション・プラグイン (アプリ)

以下のバーコードをスキャンすることで、使用しているアプリをオフまたはオンにすることができます。アプリはデコードとフォーマットというグループごとに保存されています。以下のグループの On (オン) または Off (オフ) バーコードをスキャンすることで、このグループのアプリを有効および無効にできます。また、List Apps (アプリ一覧) バーコードをスキャンして、すべてのアプリのリストを出力することもできます。



PLGDCE1.

* Decoding Apps On (デコード・アプリ・オン)



PLGDCE0.

Decoding Apps Off (デコード・アプリ・オフ)



PLGFOE1.

* Formatting Apps On (フォーマット・アプリ・オン)



PLGFOE0.

Formatting Apps Off (フォーマット・アプリ・オフ)



PLGINF.

List Apps (アプリ一覧)

注：アプリの設定を有効にするには、デバイスをリセットする必要があります。

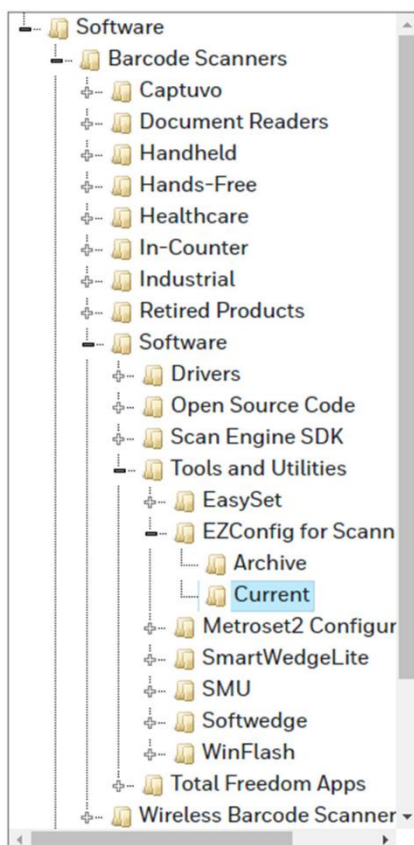
EZConfig for Scanning の概要

EZConfig for Scanning は、PC に接続されたスキャナーで実行可能な、PC ベースのさまざまなプログラミング機能を提供します。EZConfig for Scanning を使用すると、スキャナーのファームウェアのアップグレードのダウンロード、プログラム済みパラメーターの変更、プログラミング・バーコードの作成と印刷を行うことができます。また、EZConfig for Scanning を使用することで、プログラミング・パラメーターを保存したり開いたりすることもできます。この保存したファイルを電子メール送信したり、必要に応じて、カスタマイズしたプログラミング・パラメーターをすべて含めた単一のバーコードを作成し、電子メールや Fax で任意の場所に送信したりできます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードをスキャンして、カスタマイズされたプログラムを読み込むことができます。

EZConfig for Scanning での設定

EZConfig Cloud for Scanning ツールを使用して、オンラインでスキャナーを設定します。

1. Honeywell テクニカル・サポートのダウンロード・ポータル (<https://hsmftp.honeywell.com>) にアクセスします。
2. **Software (ソフトウェア) > Barcode Scanners (バーコード・スキャナー) > Software (ソフトウェア) > Tools and Utilities (ツールとユーティリティ) > EZConfig for Scanning > Current (最新)** を開きます。



3. EZConfig for Scanning の **Setup (設定)** バージョンをダウンロードします。
4. EZConfig を開き、スキャナーを設定します。

工場出荷時設定にリセットする



注意： このオプションはすべての設定を消去して、スキャナーを元の工場出荷時設定にリセットします。プラグインもすべて無効になります。

スキャナーに設定されているプログラミング・オプションが不明の場合や、一部のオプションの変更後にスキャナーを工場出荷時設定に戻したい場合は、まず **Remove Custom Defaults (カスタム・デフォルトを削除する)** バーコードをスキャンしてから、**Activate Defaults (デフォルトを有効化する)** をスキャンします。これにより、スキャナーは工場出荷時設定にリセットされます。



DEFOVR.

Remove Custom Defaults (カスタム・デフォルト
を削除する)



DEFAULT.

Activate Defaults (デフォルトを有効化する)

190 ページ以降の「**メニュー・コマンド**」には、各コマンドの工場出荷時設定（プログラミング・ページではアスタリスク（*）で表示）が記載されています。

シリアル・プログラミング・コマンド

シリアル・プログラミング・コマンドは、プログラミング・バーコードの代わりに使用することができます。スキャナーのプログラミングには、シリアル・コマンドとプログラミング・バーコードの両方を使用できます。各シリアル・プログラミング・コマンドの説明と例については、本書の対応するプログラミング・バーコードを参照してください。

デバイスは RS232 インターフェース向けに設定されている必要があります (10 ページを参照)。以下のコマンドは、ターミナル・エミュレーション・ソフトウェアを使用して、PC COM ポート経由で送信することができます。

表記規則

メニュー・コマンドおよびクエリ・コマンドの説明に使用する表記規則は、以下のとおりです。

パラメーター コマンドの一部として送信する実際の値を表すラベル。

[オプション] コマンドのオプション部分。

{データ} コマンド内の選択肢。

太字 画面上に表示されるメニュー、メニュー・コマンド、ボタン、ダイアログ・ボックス、およびウィンドウの名前。

メニュー・コマンド構文

メニュー・コマンドの構文は以下のとおりです (スペースは、わかりやすくするために挿入しています)。

Prefix [:Name:] *Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [; Tag SubTag {Data}] [...]*
Storage

プレフィックス 3 つの ASCII 文字 : SYN M CR (ASCII 22、77、13)

Tag (タグ) 目的のメニュー・コマンド・グループを識別する、大文字と小文字を区別しない 3 文字のフィールド。たとえば、RS232 構成の設定はすべて、**232** という Tag (タグ) で識別されます。

SubTag (サブタグ)	タグ・グループ内にある目的のメニュー・コマンドを識別する、大文字と小文字を区別しない3文字のフィールド。たとえば、RS232 ボー・レートの SubTag (サブタグ) は BAD です。
Data (データ)	Tag (タグ) または SubTag (サブタグ) で識別される、メニュー設定の新しい値。
Storage (ストレージ)	コマンドを適用するストレージ・テーブルを指定する1文字。感嘆符 (!) は、デバイスの揮発性メニュー構成テーブル上でコマンドの操作を実行します。ピリオド (.) は、デバイスの不揮発性メニュー構成テーブル上でコマンドの操作を実行します。不揮発性テーブルは、電源を入れ直したときにも保持したい半恒久的な変更についてのみ使用してください。

クエリ・コマンド

特殊文字を使用して、デバイスの設定を照会できます。

- ^ 設定のデフォルト値。
- > PAP サブ・コマンド。

注： >を使用した場合、その他のコマンドはすべて **NAK** を返します。

- ? デバイスの現在の設定値。
- * 設定可能な値の範囲（デバイスの応答では、値の連続範囲を示すためにダッシュ (-) を使用します。連続しない値のリストでは、項目をパイプ (|) で区切ります。）

:Name:フィールドの使い方（オプション）

このコマンドはスキャナーからクエリ情報を返します。

Tag フィールドの使い方

Tag フィールドの代わりにクエリを使用すると、コマンドの Storage フィールドで指定された特定のストレージ・テーブルで使用可能なコマンド・セット全体にそのクエリが適用されます。この場合、SubTag および Data フィールドはデバイスで無視されるため、使用しないでください。

SubTag フィールドの使い方

SubTag フィールドの代わりにクエリを使用すると、Tag フィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットにのみ、そのクエリが適用されます。この場合、Data フィールドはデバイスで無視されるため、使用しないでください。

Data フィールドの使い方

Data フィールドの代わりにクエリを使用すると、Tag フィールドおよび SubTag フィールドで識別される特定のコマンドにのみ、そのクエリが適用されます。

複数コマンドの連結

1つの Prefix/Storage シーケンス内に複数のコマンドを発行できます。シーケンス内の各コマンドで繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、および Data フィールドだけです。同じ Tag に追加のコマンドを適用する場合、新しいコマンド・シーケンスをカンマ (,) で区切り、追加コマンドの SubTag および Data フィールドのみが発行されます。追加コマンドに別の Tag フィールドが必要な場合は、コマンドと前のコマンドをセミコロン (;) で区切ります。

応答

デバイスは、シリアル・コマンドに対して以下の 3 つの応答を返します。

ACK コマンドが正常に処理されたことを示します。

ENQ Tag または SubTag コマンドが無効であることを示します。

NAK コマンドが正常でも、Data フィールドへの入力がこの Tag と SubTag の組み合わせの許容範囲を超えていたことを示します。たとえば、フィールドに 2 文字しか入力できない場合に、メッセージの最小長の入力値が 100 である場合などです。

応答する際、デバイスはコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、カンマ、セミコロン）の直前にステータス・キャラクタを挿入して、コマンド・シーケンスをエコー・バックします。

クエリ・コマンドの例

以降の例で、角かっこ[]は非表示応答を示します。

例： Codabar コード有効化の設定可能な値の範囲は？

入力： **cbrena***

応答： **CBRENA0-1[ACK]**

この応答は、Codabar コード有効化（CBRENA）の値の範囲が 0～1（オフおよびオン）であることを示しています。

例： Codabar コード有効化のデフォルト値は？

入力： **cbrena^**

応答： **CBRENA1[ACK]**

この応答は、Codabar コード有効化（CBRENA）のデフォルト値が 1、つまりオンであることを示しています。

例： Codabar コード有効化に対するデバイスの現在値は？

入力： **cbrena?**

応答： **CBRENA1[ACK]**

この応答は、デバイスの Codabar コード有効化（CBRENA）が 1、つまりオンに設定されていることを示しています。

例： Codabar のすべてのオプションに対する、デバイスの設定は？

入力： **cbr?**

応答： **CBRENA1[ACK]、
SSX0[ACK]、
CK20[ACK]、
CCT1[ACK]、
MIN2[ACK]、
MAX60[ACK]、
DFT[ACK]**

この応答は以下のことを示しています。デバイスの Codabar コード有効化（CBRENA）が 1（オン）に設定されている。
スタート/ストップ・キャラクタ（SSX）が 0（送信しない）に設定されている。
チェック・キャラクタ（CK2）が 0（必須ではない）に設定されている。
連結（CCT）が 1（有効）に設定されている。
メッセージの最小長（MIN）が 2 文字に設定されている。
メッセージの最大長（MAX）が 60 文字に設定されている。
デフォルトの設定（DFT）に値がない。

トリガー・コマンド

シリアル・トリガー・コマンドを使用して、スキャナーを起動および停止できます。まず、Manual Trigger Mode（手動トリガー・モード）バーコード（[40 ページ](#)）をスキャンするか、またはトリガー用のシリアル・メニュー・コマンド（[42 ページ](#)）を送信して、スキャナーを手動トリガー・モードにする必要があります。スキャナーがシリアル・トリガー・モードになったら、以下のコマンドを送信してトリガーを起動/停止します。

起動： **SYN T CR**

停止： **SYN U CR**

スキャナーは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるか、シリアル・タイムアウトに達するまでスキャンを続けます（詳細については、[42 ページ](#)の「[読み取りタイムアウト](#)」および [196 ページ](#)のシリアル・コマンドを参照）。

カスタム・デフォルトをリセットする

カスタム・デフォルト設定をスキャナーに復元したい場合は、以下の **Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)** バーコードをスキャンします。これにより、スキャナーはカスタム・デフォルト設定にリセットされます。カスタム・デフォルト設定がない場合、スキャナーは工場出荷時設定にリセットされます。カスタム・デフォルトで指定されていない設定は、デフォルトで工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)

以降のページの表には、各コマンドの工場出荷時設定（プログラミング・ページではアスタリスク（*）付きで示されています）が記載されています。

メニュー・コマンド

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
製品のデフォルト設定			
カスタム・デフォルトを設定する	カスタム・デフォルトを設定する	MNUCDP	8
	Save Custom Defaults (カスタム・デフォルトを保存する)	MNUCDS	8
カスタム・デフォルトをリセットする	Activate Custom Defaults (カスタム・デフォルトを有効化する)	DEFAULT	8
インターフェースのプログラミング			
Plug and Play Codes (プラグ&プレイ・コード)	Keyboard Wedge (キーボード・ウェッジ) : IBM PC AT and Compatibles with CR suffix (IBM PC AT および互換機、CR サフィックス付き)	PAP_AT	9
	Laptop Direct Connect with CR suffix (ラップトップ直接接続、CR サフィックス付き)	PAPLTD	10
	RS232 シリアル・ポート	PAP232	10
Plug and Play Codes (プラグ&プレイ・コード) : RS485	IBM Port 5B Interface (IBM ポート 5B インターフェース)	PAPP5B	10
	IBM Port 9B HHBCR-1 Interface (IBM ポート 9B HHBCR-1 インターフェース)	PAP9B1	10
	IBM Port 17 Interface (IBM ポート 17 インターフェース)	PAPP17	11
	IBM Port 9B HHBCR-2 Interface (IBM ポート 9B HHBCR-2 インターフェース)	PAP9B2	11
Plug and Play Codes (プラグ&プレイ・コード) : IBM SurePos	USB IBM SurePos Handheld (USB IBM SurePos ハンドヘルド)	PAPSPH	11
	USB IBM SurePos Tabletop (USB IBM SurePos テーブルトップ)	PAPSPT	11
Plug and Play Codes (プラグ&プレイ・コード) : USB	USB Keyboard (PC) (USB キーボード [PC])	PAP124	12
	USB Keyboard (Mac) (USB キーボード [Mac])	PAP125	12
	USB Japanese Keyboard (PC) (USB 日本語キーボード [PC])	TRMUSB134	12
	USB HID	PAP131	12
	USB シリアル	TRMUSB130	12
	CTS/RTS Emulation On (CTS/RTS エミュレーション・オン)	USBCTS1	13
	*CTS/RTS Emulation Off (CTS/RTS エミュレーション・オフ)	USBCTS0	13
	ACK/NAK Mode On (ACK/NAK モード・オン)	USBACK1	13
	*ACK/NAK Mode Off (ACK/NAK モード・オフ)	USBACK0	13
Plug and Play Codes (プラグ&プレイ・コード)	Verifone Ruby Terminal (Verifone Ruby 端末)	PAPRBY	13
	Gilbarco Terminal (Gilbarco 端末)	PAPGLB	14
	Honeywell バイオプティック補助ポート	PAPBIO	14
	Datalogic Magellan Aux Port (Datalogic Magellan 補助ポート)	PAPMAG	14
	Wincor Nixdorf 端末	PAPWNX	15
	Wincor Nixdorf Beetle	PAPBTL	15
	Wincor Nixdorf RS232 Mode A	PAPWMA	16

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Program Keyboard Country (国別 キーボードの設定)	* U.S.A. (米国)	KBDCTY0	16
	Albania (アルバニア)	KBDCTY35	16
	Azeri (Cyrillic) (アゼリー語 [キリル])	KBDCTY81	16
	Azeri (Latin) (アゼリー語 [ラテン])	KBDCTY80	16
	Belarus (ベラルーシ)	KBDCTY82	17
	Belgium (ベルギー)	KBDCTY1	17
	Bosnia (ボスニア)	KBDCTY33	17
	Brazil (ブラジル)	KBDCTY16	17
	Brazil (MS) (ブラジル [MS])	KBDCTY59	17
	Bulgaria (Cyrillic) (ブルガリア [キリル])	KBDCTY52	17
	Bulgaria (Latin) (ブルガリア [ラテン])	KBDCTY53	17
	Canada (French legacy) (カナダ [フランス語レガシー])	KBDCTY54	17
	Canada (French) (カナダ [フランス語])	KBDCTY18	17
	Canada (Multilingual) (カナダ [マルチリンガル])	KBDCTY55	17
	Croatia (クロアチア)	KBDCTY32	17
	Czech (チェコ語)	KBDCTY15	17
	Czech (Programmers) (チェコ語 [プログラマー])	KBDCTY40	18
	Czech (QWERTY) (チェコ語 [QWERTY])	KBDCTY39	18
	Czech (QWERTZ) (チェコ語 [QWERTZ])	KBDCTY38	18
	Denmark (デンマーク)	KBDCTY8	18
	Dutch (Netherlands) (オランダ語 [オランダ])	KBDCTY11	18
	Estonia (エストニア)	KBDCTY41	18
	Faroese (フェロー語)	KBDCTY83	18
	Finland (フィンランド)	KBDCTY2	18
	France (フランス)	KBDCTY3	18
	Gaelic (ゲール語)	KBDCTY84	18
	Germany (ドイツ)	KBDCTY4	18
	Greek (ギリシャ語)	KBDCTY17	18
	Greek (220 Latin) (ギリシャ語 [220 ラテン])	KBDCTY64	19
	Greek (220) (ギリシャ語 [220])	KBDCTY61	19
	Greek (319 Latin) (ギリシャ語 [319 ラテン])	KBDCTY65	19
	Greek (319) (ギリシャ語 [319])	KBDCTY62	19
	Greek (Latin) (ギリシャ語 [ラテン])	KBDCTY63	19
	Greek (MS) (ギリシャ語 [MS])	KBDCTY66	19
	Greek (Polytonic) (ギリシャ語 [ポリトニック])	KBDCTY60	19
	Hebrew (ヘブライ語)	KBDCTY12	19
	Hungarian (101 key) (ハンガリー語 [101 キーボード])	KBDCTY50	19

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Hungary (ハンガリー)	KBDCY19	19
	Iceland (アイスランド)	KBDCY75	19
	Irish (アイルランド語)	KBDCY73	19
	Italian (142) (イタリア語 [142])	KBDCY56	20
	Italy (イタリア)	KBDCY5	20
	Japan ASCII (日本 ASCII)	KBDCY28	20
	Kazakh (カザフ語)	KBDCY78	20
	Kyrgyz (Cyrillic) (キルギス語 [キリル])	KBDCY79	20
	Latin America (ラテン・アメリカ)	KBDCY14	20
	Latvia (ラトビア)	KBDCY42	20
	Latvia (QWERTY) (ラトビア [QWERTY])	KBDCY43	20
	Lithuania (リトアニア)	KBDCY44	20
	Lithuania (IBM) (リトアニア [IBM])	KBDCY45	20
	Macedonia (マケドニア)	KBDCY34	20
	Malta (マルタ)	KBDCY74	20
	Mongolian (Cyrillic) (モンゴル語 [キリル])	KBDCY86	21
	Norway (ノルウェー)	KBDCY9	21
	Poland (ポーランド)	KBDCY20	21
	Polish (214) (ポーランド語 [214])	KBDCY57	21
	Polish (Programmers) (ポーランド語 [プログラマー])	KBDCY58	21
	Portugal (ポルトガル)	KBDCY13	21
	Romania (ルーマニア)	KBDCY25	21
	Russia (ロシア)	KBDCY26	21
	Russian (MS) (ロシア語 [MS])	KBDCY67	21
	Russian (Typewriter) (ロシア語 [タイプライター])	KBDCY68	21
	SCS	KBDCY21	21
	Serbia (Cyrillic) (セルビア [キリル])	KBDCY37	21
	Serbia (Latin) (セルビア [ラテン])	KBDCY36	22
	Slovakia (スロバキア)	KBDCY22	22
	Slovakia (QWERTY) (スロバキア [QWERTY])	KBDCY49	22
	Slovakia (QWERTZ) (スロバキア [QWERTZ])	KBDCY48	22
	Slovenia (スロベニア)	KBDCY31	22
	Spain (スペイン)	KBDCY10	22
	Spanish variation (スペイン語バリエーション)	KBDCY51	22
	Sweden (スウェーデン)	KBDCY23	22
	Switzerland (French) (スイス [フランス語])	KBDCY29	22
	Switzerland (German) (スイス [ドイツ語])	KBDCY6	22

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Tatar (タタール語)	KBDCTY85	22
	Turkey F (トルコ F)	KBDCTY27	22
	Turkey Q (トルコ Q)	KBDCTY24	23
	Ukrainian (ウクライナ語)	KBDCTY76	23
	United Kingdom (イギリス)	KBDCTY7	23
	United States (Dvorak right) (米国 [Dvorak 右])	KBDCTY89	23
	United States (Dvorak left) (米国 [Dvorak 左])	KBDCTY88	23
	United States (Dvorak) (米国 [Dvorak])	KBDCTY87	23
	United States (International) (米国 [インターナショナル])	KBDCTY30	23
	Uzbek (Cyrillic) (ウズベク語 [キリル])	KBDCTY77	23
ALT モード	* Off (オフ)	KBDALT0	24
	3 Characters (3 文字)	KBDALT6	24
	4 Characters (4 文字)	KBDALT7	24
Keyboard Style (キーボード配列)	* Regular (標準)	KBDSTY0	24
	Caps Lock (Caps ロック)	KBDSTY1	24
	Shift Lock (Shift ロック)	KBDSTY2	24
	Automatic Caps Lock (自動 Caps ロック)	KBDSTY6	25
	Autocaps via NumLock (Num ロック経由の Autocaps)	KBDSTY7	25
	Emulate External Keyboard (外付けキーボードをエミュレートする)	KBDSTY5	25
Keyboard Conversion (キーボード変換)	* Keyboard Conversion Off (キーボード変換オフ)	KBDCNV0	25
	Convert All Characters to Upper Case (すべての文字を大文字に変換する)	KBDCNV1	26
	Convert All Characters to Lower Case (すべての文字を小文字に変換する)	KBDCNV2	26
制御文字出力	* Control Character Output Off (制御文字出力オフ)	KBDNPE0	26
	Control Character Output On (制御文字出力オン)	KBDNPE1	26

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
キーボードの修飾キー	*Control + X Off (Control + X オフ)	KBDCAS0	27
	DOS Mode Control + X (DOS モードの Control + X)	KBDCAS1	27
	Windows Mode Control + X (Windows モードの Control + X)	KBDCAS2	27
	Windows Mode Prefix/Suffix Off (Windows モードのプレフィックス/サフィックス・オフ)	KBDCAS3	27
	DOS Mode Control + X Mode On with Windows Mode Prefix/Suffix (DOS モードの Control + X モード・オン、Windows モードのプレフィックス/サフィックス付き)	KBDCAS4	27
	Supports ALT 3 Digit HEX Mode (ALT 3 桁 16 進モードに対応)	KBDCAS5	27
	* Turbo Mode Off (ターボモード・オフ)	KBDTMD0	27
	Turbo Mode On (ターボモード・オン)	KBDTMD1	27
	* Numeric Keypad Off (テンキー・オフ)	KBDNPS0	27
	Numeric Keypad On (テンキー・オン)	KBDNPS1	27
	* Auto Direct Connect Off (自動直接接続モード・オフ)	KBDADC0	28
	Auto Direct Connect On (自動直接接続モード・オン)	KBDADC1	28
Baud Rate (ボー・レート)	300 BPS	232BAD0	28
	600 BPS	232BAD1	28
	1200 BPS	232BAD2	28
	2400 BPS	232BAD3	28
	4800 BPS	232BAD4	28
	9600 BPS	232BAD5	28
	19200 BPS	232BAD6	29
	38400 BPS	232BAD7	29
	57600 BPS	232BAD8	29
	*115200 BPS	232BAD9	29
Word Length: Data Bits, Stop Bits, and Parity (ワード長 : データ・ビット、ストップ・ビット、パリティ)	7 Data, 1 Stop, Parity Even (7 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティ偶数)	232WRD3	29
	7 Data, 1 Stop, Parity None (7 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティなし)	232WRD0	29
	7 Data, 1 Stop, Parity Odd (7 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティ奇数)	232WRD6	29
	7 Data, 2 Stop, Parity Even (7 データ・ビット、2 ストップ・ビット、パリティ偶数)	232WRD4	29
	7 Data, 2 Stop, Parity None (7 データ・ビット、2 ストップ・ビット、パリティなし)	232WRD1	29
	7 Data, 2 Stop, Parity Odd (7 データ・ビット、2 ストップ・ビット、パリティ奇数)	232WRD7	30
	8 Data, 1 Stop, Parity Even (8 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティ偶数)	232WRD5	30
	* 8 Data, 1 Stop, Parity None (* 8 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティなし)	232WRD2	30
	8 Data, 1 Stop, Parity Odd (8 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティ奇数)	232WRD8	30
	8 Data, 1 Stop, Parity Mark (8 データ・ビット、1 ストップ・ビット、パリティ・マーク)	232WRD14	30
RS232 Receiver Time-Out (RS232 レシーバー・タイムアウト)	Range 0 - 300 seconds (範囲 0~300 秒) *0	232LPT###	30

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
RS232 Handshaking (RS232 ハンドシェイク)	* RTS/CTS Off (RTS/CTS オフ)	232CTS0	31
	Flow Control, No Timeout (フロー制御、タイムアウトなし)	232CTS1	31
	Two-Direction Flow Control (2方向フロー制御)	232CTS2	31
	Flow Control with Timeout (フロー制御、タイムアウトあり)	232CTS3	31
	RS232 Timeout (1-5100 milliseconds) (RS232 タイムアウト (1~5100 ミリ秒))	232DEL####	31
	* XON/XOFF Off (XON/XOFF オフ)	232XON0	32
	XON/XOFF On (XON/XOFF オン)	232XON1	31
	* ACK/NAK Off (ACK/NAK オフ)	232ACK0	32
	ACK/NAK On (ACK/NAK オン)	232ACK1	32
スキャナーとバイオプティック間のパケット・モード	* Packet Mode Off (パケット・モード・オフ)	232PKT0	32
	Packet Mode On (パケット・モード・オン)	232PKT2	32
スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK モード	* Bioptic ACK/NAK Off (バイオプティック ACK/NAK オフ)	232NAK0	33
	Bioptic ACK/NAK On (バイオプティック ACK/NAK オン)	232NAK1	33
スキャナーとバイオプティック間の ACK/NAK タイムアウト	ACK/NAK Timeout (1-30000 milliseconds) (ACK/NAK タイムアウト (1~30000 ミリ秒)) *5100	232DLK####	33
入出力の選択			
起動ブザー	Power Up Beeper Off - Scanner (起動ブザー・オフ・スキャナー)	BEPPWR0	35
	* Power Up Beeper On - Scanner (起動ブザー・オン・スキャナー)	BEPPWR1	35
BEL 文字受信時のブザー音	Beep on BEL On (BEL 文字受信時のブザー音オン)	BELBEP1	35
	* Beep on BEL Off (BEL 文字受信時のブザー音オフ)	BELBEPO	35
トリガー・クリック	On (オン)	BEPTRG1	36
	* Off (オフ)	BEPTRG0	36
Beeper - Good Read (ブザー - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPBEPO	36
	* On (オン)	BEPBEP1	36
Beeper Volume - Good Read (ブザーの音量 - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPLV0	37
	*Low (低) (デフォルト値 - Xenon XP ヘルスケア)	BEPLV1	36
	Medium (中)	BEPLV2	36
	*High (高) (デフォルト値 - Xenon XP)	BEPLV3	37
Beeper Pitch - Good Read (Frequency) (ブザーのピッチ - 読み取り成功時 [周波数])	Low (1600 Hz) (min 400 Hz) (低[1600 Hz] [400 Hz 以上])	BEPFQ11600	37
	*Medium (2700 Hz) (中 [2700 Hz])	BEPFQ12700	37
	High (4200 Hz) (max 9000 Hz) (高[4200 Hz] [9000 Hz 以下])	BEPFQ14200	37
Beeper Pitch - Error (Frequency) (ブザーのピッチエラー時 [周波数])	*Razz (250 Hz) (min 200 Hz) (ブザー音低[250 Hz] [200 Hz 以上])	BEPFQ282500	37 [A6]
	Medium (3250 Hz) (中 [3250 Hz])	BEPFQ23250	37
	High (4200 Hz) (max 9000 Hz) (高[4200 Hz] [9000 Hz 以下])	BEPFQ24200	37
Beeper Duration - Good Read (ブザーの長さ - 読み取り成功時)	* Normal Beep (通常のブザー音)	BEPBIP0	38
	Short Beep (短いブザー音)	BEPBIP1	38

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
LED - Good Read (LED - 読み取り成功時)	Off (オフ)	BEPLED0	38
	* On (オン)	BEPLED1	38
Number of Beeps - Good Read (ブザーの回数 - 読み取り成功時)	(Range 1 - 9) (範囲 1~9) *1	BEPRPT#	38
Number of Beeps - Error (ブザーの回数 - エラー時)	(Range 1 - 9) (範囲 1~9) *1	BEPERR#	39
読み取り成功時の遅延	* No Delay (遅延なし)	DLYGRD0	39
	Short Delay (500 ms) (短い遅延 [500 ms])	DLYGRD500	39
	Medium Delay (1000 ms) (中程度の遅延 [1,000 ms])	DLYGRD1000	39
	Long Delay (1500 ms) (長い遅延 [1,500 ms])	DLYGRD1500	39
ユーザー指定の読み取り成功時の遅延	Range 0 - 30,000 ms (範囲 0~30,000 ms)	DLYGRD#####	39
オブジェクト検出モード	オブジェクト検出モード	PAPTIR	40
	*Short Range (近距離)	AOSRNG1	40
	Mid Range (中距離)	AOSRNG2	40
トリガー・モード	*Manual Trigger - Normal (手動トリガー - 標準)	PAPHHF	40
	Manual Trigger - Enhanced (手動トリガー - 拡張)	PAPHHS	40
トリガー・トグル	*Trigger Toggle Off (トリガー・トグル・オフ)	TRGTGM0	41
	Trigger Toggle - Image Capture (トリガー・トグル - 画像キャプチャー)	TRGTGM1	41
	Trigger Toggle - Centering (トリガー・トグル - センタリング)	TRGTGM3	41
トリガー回数	2 Quick Triggers (2 クイック・トリガー)	TRGTPC2	41
	3 Quick Triggers (3 クイック・トリガー)	TRGTPC3	41
	4 Quick Triggers (4 クイック・トリガー)	TRGTPC4	41
トリガー・タイミング	Trigger Timing (Range 50 - 2000) (トリガー・タイミング[範囲 50~2000]) *400	TRGTT####	41
Trigger Toggle Timeout (トリガー・トグル・タイムアウト)	Trigger Toggle Timeout (Range 0 - 65) (トリガー・トグル・タイムアウト[範囲 0~65]) *5	TRGTGT##	42
Serial Trigger Mode (シリアル・トリガー・モード)	Read Time-Out (読み取りタイムアウト) (0~300,000 ms) *30,000	TRGSTO####	42
プレゼンテーション・モード	プレゼンテーション・モード	PAPTIR	43
トリガード・プレゼンテーション・モード	Ambient Light Only (環境光のみ)	PDCLD0	43
	*Ambient and Scanner Light (環境光とスキャナー照明)	PDCLD1	43
Presentation LED Behavior After Decode (デコード後のプレゼンテーション LED の動作)	*LEDs On (LED オン)	TRGPCK1	43
	LEDs Off (LED オフ)	TRGPCK0	43

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
プレゼンテーション・センタリング	Presentation Centering On (プレゼンテーション・センタリング・オン)	PDCWIN1	44
	* Presentation Centering Off (プレゼンテーション・センタリング・オフ)	PDCWIN0	44
	Left of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ左辺 [40%])	PDCLFT###	45
	Right of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ右辺 [60%])	PDCRGT###	45
	Top of Presentation Centering Window (*40%) (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ上辺 [40%])	PDCTOP###	45
	Bottom of Presentation Centering Window (プレゼンテーション・センタリング・ウィンドウ下辺 [60%])	PDCBOT###	45
低品質コード	Poor Quality 1D Reading On (低品質 1次元読み取りオン)	DECLDI1	45
	* Poor Quality 1D Reading Off (低品質 1次元読み取りオフ)	DECLDI0	45
	*Poor Quality PDF Reading On (低品質 PDF 読み取りオン)	PDFXPR10	46
	Poor Quality PDF Reading Off (低品質 PDF 読み取りオフ)	PDFXPRO	46
	Low Resolution PDF Codes On (低解像度 PDF コード・オン)	PDFDM11	46
	*Low Resolution PDF Codes Off (低解像度 PDF コード・オン)	PDFDM10	46
CodeGate	*CodeGate Off Out-of-Stand (CodeGate オフ、スタンド不使用時)	AOSCGD0	46
	CodeGate OnOut-of-Stand (CodeGate オン、スタンド不使用時)	AOSCGD1	47
ハンズフリー・タイムアウト	Range (0 - 300,000 ms) 5000 ms (範囲[0~300,000 ms] 5000 ms)	TRGPT0#####	47
再読み取り遅延	Short (500 ms) (短 [500 ms])	DLYRRD500	47
	* Medium (750 ms) (中 [750 ms])	DLYRRD750	47
	Long (1000 ms) (長 [1000 ms])	DLYRRD1000	47
	Extra Long (2000 ms) (極長 [2000 ms])	DLYRRD2000	47
ユーザー指定の再読み取り遅延	Range 0 - 30,000 ms (範囲 0~30,000 ms)	DLYRRD#####	48
2次元再読み取り遅延	* 2D Reread Delay Off (2次元再読み取り遅延オフ)	DLY2RR0	48
	Short (1000ms) (短 [1000 ms])	DLY2RR1000	48
	Medium (2000ms) (中 [2000 ms])	DLY2RR2000	48
	Long (3000ms) (長 [3000 ms])	DLY2RR3000	48
	Extra Long (4000ms) (極長 [4000 ms])	DLY2RR4000	48
Character Activation Mode (文字有効化モード)	* Off (オフ)	HSTCEN0	49
	On (オン)	HSTCEN1	49
	Activation Character (Range 0- 255) *12 [DC2] (有効化文字[範囲 0~255] *12 [DC2])	HSTACH###	49
	Do Not End Character Activation After Good Read (読み取り成功後に文字有効化を終了しない)	HSTCGD0	49
	読み取り成功後に文字有効化を終了	HSTCGD1	49
	Character Activation Timeout (Range 1 - 300,000) * 30,000 ms (文字有効化タイムアウト [範囲 1~300,000] * 30,000 ms)	HSTCDT#####	50

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Character Deactivation Mode (文字無効化モード)	* Off (オフ)	HSTDEN0	50
	On (オン)	HSTDEN1	50
	Deactivation Character (Range 0- 255) *14 [DC4] (無効化文字[範囲 0~255] *14 [DC4])	HSTDCH###	50
照明	* Lights On (照明オン)	SCNLED1	51
	Lights Off (照明オフ)	SCNLED0	51
エイマー遅延	1millisecond (1 ミリ秒)	SCNDLY1	51
	250 milliseconds (250 ミリ秒)	SCNDLY250	51
	500 milliseconds (500 ミリ秒)	SCNDLY500	51
	*Off (no delay) (オフ (遅延なし))	SCNDLY0	51
ユーザー定義のエイマー遅延	Range 0 - 4,000 ms (範囲 0~4,000 ms)	SCNDLY####	52
エイマー・モード	Off (オフ)	SCNAIM0	52
	*Interlaced (インターレース)	SCNAIM2	52
プレゼンテーション・エイマー・モード	Interlaced (インターレース)	PDCAIM2	53
	* Off (オフ)	PDCAIM0	53
拡張オブジェクト検出	*Normal Object Detection (標準オブジェクト検出)	TRGOPE0	53
	拡張オブジェクト検出	TRGOPE1	53
単一コード・センタリング	単一コード・センタリング	DECWIN1;DECTOP49;DECBOT51;DECRGT51;DECLFT49	54
Centering Window (センタリング・ウィンドウ)	Centering On (センタリング・オン)	DECWIN1	55
	*Centering Off (センタリング・オフ)	DECWIN0	55
	Left of Centering Window (*40%) (センタリング・ウィンドウ左辺[*40%])	DECLFT###	56
	Right of Centering Window (*60%) (センタリング・ウィンドウ右辺[*60%])	DECRGT###	56
	Top of Centering Window (*40%) (センタリング・ウィンドウ上辺[*40%])	DECTOP###	56
	Bottom of Centering Window (*60%) (センタリング・ウィンドウ下辺[*60%])	DECBOT###	56
優先シンボル体系	On (オン)	PRFENA1	56
	* Off (オフ)	PRFENA0	56
	高優先度シンボル体系	PRFCOD##	57
	低優先度シンボル体系	PRFBLK##	57
	Preferred Symbology Time-out (Range 100-3000) *500 (優先シンボル体系のタイムアウト (範囲 100~3000) *500)	PRFPTO####	57
	優先シンボル体系のデフォルト	PRFDFT	57
アウトプット・シーケンス・エディター	アウトプット・シーケンスの入力	SEQBLK	59
	Add Prefix to Complete Output Sequences (アウトプット・シーケンス全体にプレフィックスを追加)	SEQPRE	59
	Add Suffix to Complete Output Sequences (アウトプット・シーケンス全体にサフィックスを追加)	SEQSUF	59
	Add Separators to Complete Output Sequences (アウトプット・シーケンス全体にセパレーターを追加)	SEQSEP	59

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Terminate String (文字列を終了)	FF	59
部分シーケンス	Transmit Partial Output Sequence (部分アウトプット・シーケンスを送信)	SEQTTS1	59
	Add Prefix to Partial Output Sequences (部分アウトプット・シーケンスにプレフィックスを追加)	SEQIPR	59
	Add Suffix to Partial Output Sequences (部分アウトプット・シーケンスにサフィックスを追加)	SEQISU	59
	Add Separators to Partial Output Sequences (部分アウトプット・シーケンスにセパレーターを追加)	SEQISE	59
	Terminate String (文字列を終了)	FF	59
	Define Satisfactory Subsets (満足するサブセットを定義)	SEQSAT	59
	Timeout for SEQSAT (SEQSAT のタイムアウト)	SEQTIM	59
	*Discard Partial Output Sequence (部分アウトプット・シーケンスの破棄)	SEQTTS0	64
	デフォルトのアウトプット・シーケンス	SEQDFT	65
アウトプット・シーケンスの要求	Required (必須)	SEQ_EN2	65
	On/Not Required (オン/要求しない)	SEQ_EN1	65
	* Off (オフ)	SEQ_EN0	65
読み取り成功音 - アウトプット・シーケンス	Good Read Beep - Each Code in Sequence (読み取り成功ブザー音 - シーケンスの各コード)	BEPSINO	66
	*Good Read Click - Each Code in Sequence (読み取り成功クリック音 - シーケンスの各コード)	BEPSIN1	66
	Good Read Beep - Partial Sequence Output (読み取り成功ブザー音 - 部分シーケンス出力)	BEPISE0	66
	*Error Tone - Partial Sequence Output (エラー音 - 部分シーケンス出力)	BEPISE1	66
複数シンボル	On (オン)	SHOTGN1	66
	* Off (オフ)	SHOTGN0	66
読み取りなし	On (オン)	SHWNRD1	67
	* Off (オフ)	SHWNRD0	67
ビデオ・リバース	Video Reverse Only (ビデオ・リバースのみ)	VIDREV1	67
	Video Reverse and Standard barcodes (ビデオ・リバースおよび標準のバーコード)	VIDREV2	67
	* Video Reverse Off (ビデオ・リバース・オフ)	VIDREV0	68
読み取り方向	* Upright (直立)	ROTATN0	68
	Vertical, Bottom to Top (Rotate CCW 90°) (垂直、先頭下 [反時計回りに 90°回転])	ROTATN1	68
	Upside Down (上下反対)	ROTATN2	68
	Vertical, Top to Bottom (Rotate CW 90°) (垂直、先頭上 [時計回りに 90°回転])	ROTATN3	68
タバコ製品に最適なスキャン	European Tobacco Products (欧州のタバコ製品)	PAPTBE	69
	Russian Tobacco Products (ロシアのタバコ製品)	PAPTBR	69
	European & Tobacco Products (欧州とロシアのタバコ製品) [A7]	PAPTBC	69

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
プレフィックス/サフィックスの選択			
Add CR Suffix to All Symbologies (すべてのシンボル体系にCRサフィックスを追加)		VSUFCR	73
プレフィックス	Add Prefix (プレフィックスを追加)	PREBK2##	73
	Clear One Prefix (1つのプレフィックスをクリア)	PRECL2	73
	Clear All Prefixes (すべてのプレフィックスをクリア)	PRECA2	73
サフィックス	Add Suffix (サフィックスを追加)	SUFBK2##	73
	Clear One Suffix (1つのサフィックスをクリア)	SUFCL2	73
	Clear All Suffixes (すべてのサフィックスをクリア)	SUFCA2	74
ファンクション・コードの送信	* Enable (有効)	RMVFNC0	74
	Disable (無効)	RMVFNC1	74
文字間遅延	Range 0 - 5000 (5 ms increments) (範囲 0~5000 [5 ms 単位])	DLYCHR####	74
ユーザー指定の文字間遅延	Delay Length 0-5000 (5 ms increments) (遅延の長さ [範囲 0~5000 (5 ms 単位)])	DLYCRX####	75
	Character to Trigger Delay (遅延を発生させる文字)	DLY_XX##	75
ファンクション間遅延	Range 0 - 5000 (5 ms increments) (範囲 0~5000 [5 ms 単位])	DLYFNC####	75
メッセージ間遅延	Range 0 - 5000 (5 ms increments) (範囲 0~5000 [5 ms 単位])	DLYMSG####	76
データ・フォーマッターの選択			
Data Format Editor (データ・フォーマット・エディター)	* Default Data Format (None) (デフォルト・データ・フォーマット [なし])	DFMDF3	78
	Show Data Format Settings (データ・フォーマット設定を表示する)	DFMBK3?	78
	Enter Data Format (データ・フォーマットを入力)	DFMBK3##	79
	Clear One Data Format (1つのデータ・フォーマットをクリア)	DFMCL3	79
	Clear All Data Formats (すべてのデータ・フォーマットをクリア)	DFMCA3	79
データ・フォーマッター	Data Formatter Off (データ・フォーマッター・オフ)	DFM_EN0	93
	* Data Formatter On, Not Required, Keep Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを保持)	DFM_EN1	94
	データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを保持	DFM_EN2	94
	Data Formatter On, Not Required, Drop Prefix/Suffix (データ・フォーマッター・オン、必須ではない、プレフィックス/サフィックスを切り捨て)	DFM_EN3	94
	データ・フォーマット必須、プレフィックス/サフィックスを切り捨て	DFM_EN4	94
データ・フォーマット不一致エラー音	*Data Format Non-Match Error Tone On (データ・フォーマット不一致エラー音オン)	DFMDECO	94
	Data Format Non-Match Error Tone Off (データ・フォーマット不一致エラー音オフ)	DFMDEC1	95

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
基準/代用データ・フォーマット	Primary Data Format (基準データ・フォーマット)	ALTFNM0	95
	Data Format 1 (データ・フォーマット 1)	ALTFNM1	95
	Data Format 2 (データ・フォーマット 2)	ALTFNM2	95
	Data Format 3 (データ・フォーマット 3)	ALTFNM3	95
単一スキャンのデータ・フォーマットの変更	Single Scan-Primary Data Format (単一 スキャン-基準データ・フォーマット)	VSAF_0	95
	Single Scan-Data Format 1 (単一スキャン-データ・フ ォーマット 1)	VSAF_1	96
	Single Scan-Data Format 2 (単一スキャン-データ・フ ォーマット 2)	VSAF_2	96
	Single Scan-Data Format 3 (単一スキャン-データ・フ ォーマット 3)	VSAF_3	96
シンボル体系			
すべてのシンボル体系	All Symbologies Off (すべてのシンボル体系をオフ)	ALLENA0	98
Codabar	Default All Codabar Settings (Codabar の 設定をすべてデフォルトに戻す)	CBRDFT	98
	Off (オフ)	CBRENA0	99
	* On (オン)	CBRENA1	98
Codabar Start/Stop Char. (Codabar のスタート/スト ップ・キャラクタ)	* Don't Transmit (送信しない)	CBRSSX0	99
	Transmit (送信する)	CBRSSX1	99
Codabar Check Char. (Codabar のチェック・キャラク タ)	* No Check Char. (チェック・キャラクタなし)	CBRCCK20	99
	Validate, But Don't Transmit (検証するが送信しな い)	CBRCCK21	99
	Validate and Transmit (検証して送信)	CBRCCK22	99
Codabar Concatenation (Codabar の連結)	* Off (オフ)	CBRCCT0	100
	On (オン)	CBRCCT1	100
	Require (要求する)	CBRCCT2	100
Codabar のメッセージ長	Minimum (2 - 60) *4 (最小長 [2~60] *4)	CBRMIN##	100
	Maximum (2 - 60) *60 (最大長 [2~60] *60)	CBRMAX##	100
Code 39	Default All Code 39 Settings (Code 39 の 設定をすべてデフォルトに戻す)	C39DFT	101
	Off (オフ)	C39ENA0	101
	* On (オン)	C39ENA1	101
Code 39 Start/Stop Char. (Code 39 のスタート/スト ップ・キャラクタ)	* Don't Transmit (送信しない)	C39SSX0	101
	Transmit (送信する)	C39SSX1	101
Code 39 Check Char. (Code 39 のチェック・キャラク タ)	* No Check Char. (チェック・キャラクタなし)	C39CK20	102
	Validate, But Don't Transmit (検 証するが送信しない)	C39CK21	102
	Validate and Transmit (検証して送信)	C39CK22	102
Code 39 のメッセージ長	Minimum (0 - 48) *0 (最小長 [0~48] *0)	C39MIN##	102
	Maximum (0 - 48) *48 (最大長 [0~48] *48)	C39MAX##	102

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Code 39 の連結	* Off (オフ)	C39APPO	102
	On (オン)	C39APP1	102
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)	* Off (オフ)	C39B320	103
	On (オン)	C39B321	103
Code 39 Full ASCII	* Off (オフ)	C39ASCO	104
	On (オン)	C39ASC1	103
	Code 39 のコード・ページ	C39DCP	104
Interleaved 2 of 5	Default All Interleaved 2 of 5 Settings (Interleaved 2 of 5 の設定をすべてデ フォルトに戻す)	I25DFT	104
	Off (オフ)	I25ENA0	104
	* On (オン)	I25ENA1	104
Interleaved 2 of 5 Check Digit (Interleaved 2 of 5 のチェ ック・デジット)	*No Check Digit (チェック・デジットなし)	I25CK20	105
	Validate, But Don't Transmit (検 証するが送信しない)	I25CK21	105
	Validate and Transmit (検証して送信)	I25CK22	105
Interleaved 2 of 5 のメッセージ長	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	I25MIN##	105
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	I25MAX##	105
	*FEBRABAN Decode Off (FEBRABAN デコード・オフ)	I25PAY0	105
	FEBRABAN Decode On (FEBRABAN デコード・オン)	I25PAY1	105
NEC 2 of 5	Default All NEC 2 of 5 Settings (NEC 2 of 5 の設 定をすべてデフォルトに 戻す)	N25DFT	106
	Off (オフ)	N25ENA0	106
	* On (オン)	N25ENA1	106
NEC 2 of 5 Check Digit (NEC 2 of 5 のチェック・デジッ ト)	*No Check Digit (チェック・デジットなし)	N25CK20	106
	Validate, But Don't Transmit (検証する が送信しない)	N25CK21	106
	Validate and Transmit (検証して送信)	N25CK22	106
NEC 2 of 5 のメッセージ長	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	N25MIN##	107
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	N25MAX##	107
Code 93	Default All Code 93 Settings (Code 93 の 設定をすべてデフォルトに戻す)	C93DFT	107
	Off (オフ)	C93ENA0	107
	* On (オン)	C93ENA1	107
Code 93 のメッセージ長	Minimum (0 - 80) *0 (最小長 [0~80] *0)	C93MIN##	107
	Maximum (0 - 80) *80 (最大長 [0~80] *80)	C93MAX##	107
Code 93 の連結	On (オン)	C93APP1	108
	* Off (オフ)	C93APPO	108
Code 93 のコード・ページ	Code 93 のコード・ページ	C93DCP	108

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Straight 2 of 5 Industrial	Default All Straight 2 of 5 Industrial Settings (Straight 2 of 5 Industrial の設定をすべてデフォルトに戻す)	R25DFT	109
	* Off (オフ)	R25ENAO	109
	On (オン)	R25ENA1	109
Straight 2 of 5 Industrial のメッセージ長	Minimum (1 - 48) *4 (最小長 [1~48] *4)	R25MIN##	109
	Maximum (1 - 48) *48 (最大長 [1~48] *48)	R25MAX##	109
Straight 2 of 5 IATA	Default All Straight 2 of 5 IATA Settings (Straight 2 of 5 IATA の設定をすべてデフォルトに戻す)	A25DFT	110
Straight 2 of 5 IATA	* Off (オフ)	A25ENAO	110
	On (オン)	A25ENA1	110
Straight 2 of 5 IATA のリダンダンシー	(Range 0 - 10) (範囲 0~10) *0	A25VOT##	110
Straight 2 of 5 IATA のメッセージ長	Minimum (1 - 48) *4 (最小長 [1~48] *4)	A25MIN##	110
	Maximum (1 - 48) *48 (最大長 [1~48] *48)	A25MAX##	111
Matrix 2 of 5	Default All Matrix 2 of 5 Settings (Matrix 2 of 5 の設定をすべてデフォルトに戻す)	X25DFT	111
	* Off (オフ)	X25ENAO	111
	On (オン)	X25ENA1	111
Matrix 2 of 5 のメッセージ長	Minimum (1 - 80) *4 (最小長 [1~80] *4)	X25MIN##	111
	Maximum (1 - 80) *80 (最大長 [1~80] *80)	X25MAX##	111
Code 11	Default All Code 11 Settings (Code 11 の設定をすべてデフォルトに戻す)	C11DFT	112
	* Off (オフ)	C11ENAO	112
	On (オン)	C11ENA1	112
Code 11 Check Digits Required (Code 11 のチェック・デジット必須)	1 Check Digit (チェック・デジット 1 つ)	C11CK20	112
	* 2 Check Digits (チェック・デジット 2 つ)	C11CK21	112
Code 11 のメッセージ長	Minimum (1 - 80) *4 (最小長 [1~80] *4)	C11MIN##	112
	Maximum (1 - 80) *80 (最大長 [1~80] *80)	C11MAX##	112
Code 128	Default All Code 128 Settings (Code 128 の設定をすべてデフォルトに戻す)	128DFT	113
	Off (オフ)	128ENAO	113
	* On (オン)	128ENA1	113
ISBT Concatenation (ISBT の連結)	* Off (オフ)	ISBENAO	113
	On (オン)	ISBENA1	113
Code 128 のリダンダンシー	(Range 0 - 10) (範囲 0~10) *0	128VOT##	114
Code 128 のメッセージ長	Minimum (0 - 80) *0 (最小長 [0~80] *0)	128MIN##	114
	Maximum (0 - 80) *80 (最大長 [0~80] *80)	128MAX##	114
Code 128 の連結	On (オン)	128APP1	114
	* Off (オフ)	128APPO	114
Code 128 のコード・ページ	Code 128 Code Page (*2) (Code 128 のコード・ページ [*2])	128DCP##	114

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
GS1-128	Default All GS1-128 Settings (GS1-128 の設定をすべてデフォルトに戻す)	GS1DFT	115
	* On (オン)	GS1ENA1	115
	Off (オフ)	GS1ENAO	115
GS1-128 のメッセージ長	Minimum (1 - 80) *1 (最小長 [1~80] *1)	GS1MIN##	115
	Maximum (0 - 80) *80 (最大長 [0~80] *80)	GS1MAX##	115
Telepen	Default All Telepen Settings (Telepen の設定をすべてデフォルトに戻す)	TELDFT	116
	* Off (オフ)	TELENAO	116
	On (オン)	TELENA1	116
Telepen の出力	*AIM Telepen Output (AIM Telepen 出力)	TELOLDO	116
	Original Telepen Output (オリジナル Telepen 出力)	TELOLD1	116
Telepen のメッセージ長	Minimum (1 - 60) *1 (最小長 [1~60] *1)	TELMIN##	116
	Maximum (1 - 60) *60 (最大長 [1~60] *60)	TELMAX##	116
UPC-A	Default All UPC-A Settings (UPC-A の設定をすべてデフォルトに戻す)	UPADFT	117
	Off (オフ)	UPBENAO	117
	* On (オン)	UPBENA1	117
UPC-A のチェック・デジット	Off (オフ)	UPACKX0	117
	* On (オン)	UPACKX1	117
UPC-A Number System (UPC-A のナンバー・システム)	Off (オフ)	UPANSX0	118
	* On (オン)	UPANSX1	118
UPC-A 2 Digit Addenda (UPC-A の 2 桁のアドオン)	* Off (オフ)	UPAAD20	118
	On (オン)	UPAAD21	118
UPC-A 5 Digit Addenda (UPC-A の 5 桁のアドオン)	* Off (オフ)	UPAAD50	118
	On (オン)	UPAAD51	118
UPC-A Addenda Required (UPC-A アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	UPAARQ0	119
	Required (必須)	UPAARQ1	118
アドオンのタイムアウト	(Range 0 - 120) (範囲 0~120) *500	DLYADD#####	119
UPC-A のアドオン・セパレータ —	Off (オフ)	UPAADS0	119
	* On (オン)	UPAADS1	119
拡張クーポン・コード付き UPC-A/EAN-13	* Off (オフ)	CPNENAO	120
	Allow Concatenation (連結許可)	CPNENA1	120
	Require Concatenation (連結必須)	CPNENA2	120
アドオンのタイムアウト	(Range 0 - 120) (範囲 0~120) *500	DLYADD#####	120
クーポン GS1 DataBar 出力	*GS1 Output Off (GS1 出力オフ)	CPNGS10	120
	GS1 Output On (GS1 出力オン)	CPNGS11	120

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
UPC-E0	Default All UPC-E Settings (UPC-E の設定をすべてデフォルトに戻す)	UPEDF1	121
	Off (オフ)	UPEEN00	121
	* On (オン)	UPEEN01	121
UPC-E0 Expand (UPC-E0 拡張)	* Off (オフ)	UPEEXP0	121
	On (オン)	UPEEXP1	121
UPC-E0 Addenda Required (UPC-E0 アドオン必須)	Required (必須)	UPEARQ1	121
	* Not Required (必須ではない)	UPEARQ0	121
アドオンのタイムアウト	(Range 0 - 120) (範囲 0~120) *500	DLYADD#####	122
UPC-E0 のアドオン・セパレーター	* On (オン)	UPEADS1	122
	Off (オフ)	UPEADS0	122
UPC-E0 のチェック・デジット	Off (オフ)	UPECKX0	122
	* On (オン)	UPECKX1	122
UPC-E0 の先頭のゼロ	Off (オフ)	UPEXSX0	123
	* On (オン)	UPEXSX1	123
UPC-E0 のアドオン	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	UPEAD21	123
	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	UPEAD20	123
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	UPEAD51	123
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	UPEAD50	123
UPC-E1	* Off (オフ)	UPEEN10	123
	On (オン)	UPEEN11	123
EAN/JAN-13	Default All EAN/JAN Settings (EAN/JAN の設定をすべてデフォルトに戻す)	E13DFT	124
	Off (オフ)	E13ENAO	124
	* On (オン)	E13ENA1	124
Convert UPC-A to EAN13 (UPC-A を EAN13 に変換)	UPC-A Converted to EAN-13 (UPC-A を EAN-13 に変換する)	UPAENA0	124
	* Do not Convert UPC-A (UPC-A を変換しない)	UPAENA1	124
EAN/JAN-13 のチェック・デジット	Off (オフ)	E13CKX0	125
	* On (オン)	E13CKX1	125
EAN/JAN-13 のアドオン	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	E13AD21	125
	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	E13AD20	125
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	E13AD51	125
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	E13AD50	125
EAN/JAN-13 Addenda Required (EAN/JAN-13 アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	E13ARQ0	125
	Required (必須)	E13ARQ1	125
EAN-13 Beginning with 290 Addenda Required (290 で始まる EAN-13 アドオン必須)	* Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ2900	126
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ2901	126

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
378/379 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ3780	127
	Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)	ARQ3781	127
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ3782	127
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求)	ARQ3783	127
414/419 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ4140	127
	Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)	ARQ4141	127
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ4142	127
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求)	ARQ4143	128
434/439 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require Addenda (アドオンを要求しない)	ARQ4340	128
	Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)	ARQ4341	128
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ4342	128
	Require 2 or 5 Digit Addenda (2桁または5桁のアドオンを要求)	ARQ4343	128
977 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求しない)	ARQ9770	129
	Require 2 Digit Addenda (2桁のアドオンを要求)	ARQ9771	129
978 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ9780	129
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ9781	129
979 で始まる EAN-13 アドオン必須	*Don't Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求しない)	ARQ9790	130
	Require 5 Digit Addenda (5桁のアドオンを要求)	ARQ9791	130
アドオンのタイムアウト	(Range 0 - 120) (範囲 0~120) *500	DLYADD#####	130
EAN/JAN-13 Addenda Separator (EAN/JAN-13 のアドオン・セパレーター)	Off (オフ)	E13ADS0	130
	* On (オン)	E13ADS1	130
ISBN 変換	* Off (オフ)	E13ISB0	131
	On (オン)	E13ISB1	131
EAN/JAN-8	Default All EAN/JAN-8 Settings (EAN/JAN-8 の設定をすべてデフォルトに戻す)	EA8DFT	131
	Off (オフ)	EA8ENAO	131
	* On (オン)	EA8ENA1	131
EAN/JAN-8 のチェック・デジット	Off (オフ)	EA8CKX0	131
	* On (オン)	EA8CKX1	131
EAN/JAN-8 のアドオン	* 2 Digit Addenda Off (2桁のアドオン・オフ)	EA8AD20	132
	2 Digit Addenda On (2桁のアドオン・オン)	EA8AD21	132
	* 5 Digit Addenda Off (5桁のアドオン・オフ)	EA8AD50	132
	5 Digit Addenda On (5桁のアドオン・オン)	EA8AD51	132
EAN/JAN-8 Addenda Required (EAN/JAN-8 アドオン必須)	* Not Required (必須ではない)	EA8ARQ0	132
	Required (必須)	EA8ARQ1	132
アドオンのタイムアウト	(Range 0 - 120) (範囲 0~120) *500	DLYADD#####	132
EAN/JAN-8 のアドオン・セパレーター	Off (オフ)	EA8ADS0	133
	* On (オン)	EA8ADS1	133

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
MSI	Default All MSI Settings (MSI の設定をすべてデフォルトに戻す)	MSIDFT	133
	* Off (オフ)	MSIENAO	133
	On (オン)	MSIENA1	133
MSI のチェック・キャラクタ	* Validate Type 10, but Don't Transmit (タイプ 10 を検証するが送信しない)	MSICHK0	134
	Validate Type 10 and Transmit (タイプ 10 を検証して送信)	MSICHK1	134
	Validate 2 Type 10 Chars, but Don't Transmit (2 つのタイプ 10 文字を検証するが送信しない)	MSICHK2	134
	Validate 2 Type 10 Chars and Transmit (2 つのタイプ 10 文字を検証して送信)	MSICHK3	134
	Validate Type 11 then Type 10 Char, but Don't Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証するが送信しない)	MSICHK4	134
	Validate Type 11 then Type 10 Char and Transmit (タイプ 11 文字の後でタイプ 10 文字を検証し送信)	MSICHK5	134
	Disable MSI Check Characters (MSI のチェック・キャラクタ無効)	MSICHK6	134
MSI のメッセージ長	Minimum (4 - 48) *4 (最小長 [4~48] *4)	MSIMIN##	135
	Maximum (4 - 48) *48 (最大長 [4~48] *48)	MSIMAX##	135
GS1 DataBar Omnidirectional	Default All GS1 DataBar Omnidirectional Settings (GS1 DataBar Omnidirectional の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSSDFT	135
	Off (オフ)	RSENAO	135
	* On (オン)	RSENA1	135
GS1 DataBar Limited	Default All GS1 DataBar Limited Settings (GS1 DataBar Limited の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSLDFT	136
	Off (オフ)	RSENAO	136
	* On (オン)	RSENA1	136
GS1 DataBar Expanded	Default All GS1 DataBar Expanded Settings (GS1 DataBar Expanded の設定をすべてデフォルトに戻す)	RSEDFT	136
	Off (オフ)	RSENAO	136
	* On (オン)	RSENA1	136
GS1 DataBar Expanded Msg. Length (GS1 DataBar Expanded のメッセージ長)	Minimum (4 - 74) *4 (最小長 [4~74] *4)	RSEMIN##	136
	Maximum (4 - 74) *74 (最大長 [4~74] *74)	RSEMAX##	137
Trioptic Code	* Off (オフ)	TRIENAO	137
	On (オン)	TRIENA1	137
Codablock A	Default All Codablock A Settings (Codablock A の設定をすべてデフォルトに戻す)	CBADFT	137
	* Off (オフ)	CBAENAO	137
	On (オン)	CBAENA1	137
Codablock A Msg. Length (Codablock A のメッセージ長)	Minimum (1 - 600) *1 (最小長 [1~600] *1)	CBAMIN###	138
	Maximum (1 - 600) *600 (最大長 [1~600] *600)	CBAMAX###	138

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
Codablock F	Default All Codablock F Settings (Codablock F の設定をすべてデフォルトに戻す)	CBFDFT	138
	* Off (オフ)	CBFENA0	138
	On (オン)	CBFENA1	138
Codablock F Msg. Length (Codablock F のメッセージ長)	Minimum (1 - 2048) *1 (最小長 [1~2048] *1)	CBFMIN####	138
	Maximum (1 - 2048) *2048 (最大長 [1~2048] *2048)	CBFMAX####	139
Label Code (ラベル・コード)	On (オン)	LBLENA1	139
	* Off (オフ)	LBLENA0	139
PDF417	Default All PDF417 Settings (PDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す)	PDFDFT	139
	* On (オン)	PDFENA1	139
	Off (オフ)	PDFENA0	139
PDF417 Msg. Length (PDF417 のメッセージ長)	Minimum (1 - 2750) *1 (最小長 [1~2750] *1)	PDFMIN####	140
	Maximum (1 - 2750) *2750 (最大長 [1~2750] *2750)	PDFMAX####	140
MacroPDF417	* On (オン)	PDFMAC1	140
	Off (オフ)	PDFMAC0	140
MicroPDF417	Default All Micro PDF417 Settings (MicroPDF417 の設定をすべてデフォルトに戻す)	MPDDFT	140
	On (オン)	MPDENA1	140
	* Off (オフ)	MPDENA0	141
MicroPDF417 Msg. Length (MicroPDF417 のメッセージ長)	Minimum (1 - 366) *1 (最小長 [1~366] *1)	MPDMIN####	141
	Maximum (1 - 366) *366 (最大長 [1~366] *366)	MPDMAX####	141
GS1 コンボジット・コード	On (オン)	COMENA1	141
	* Off (オフ)	COMENA0	141
UPC/EAN のバージョン	On (オン)	COMUPC1	142
	* Off (オフ)	COMUPC0	142
GS1 Composite Codes Msg. Length (GS1 コンボジット・コードのメッセージ長)	Minimum (1 - 2435) *1 (最小長 [1~2435] *1)	COMMIN####	142
	Maximum (1 - 2435) *2435 (最大長 [1~2435] *2435)	COMMAX####	142
GS1 エミュレーション	GS1-128 Emulation (GS1-128 エミュレーション)	EANEMU1	143
	GS1 DataBar Emulation (GS1 DataBar エミュレーション)	EANEMU2	143
	GS1 Code Expansion Off (GS1 コード拡張オフ)	EANEMU3	143
	EAN8 to EAN13 Conversion (EAN8 を EAN13 に変換)	EANEMU4	143
	* GS1 Emulation Off (GS1 エミュレーション・オフ)	EANEMU0	143
TCIF Linked Code 39	On (オン)	T39ENA1	143
	* Off (オフ)	T39ENA0	143
QR Code	Default All QR Code Settings (QR コードの設定をすべてデフォルトに戻す)	QRCDFT	144
	* On (オン)	QRCENA1	144
	Off (オフ)	QRCENA0	144
QR Code Msg. Length (QR コードのメッセージ長)	Minimum (1 - 7089) *1 (最小長 [1~7089] *1)	QRCMIN####	144
	Maximum (1 - 7089) *7089 (最大長 [1~7089] *7089)	QRCMAX####	144

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
QR コードの連結	* One Scan (ワンスキャン)	QRCAPP1	145
	Swipe (スワイプ)	QRCAPP2	145
	Point & Shoot (ポイント・アンド・シュート)	QRCAPP3	145
	Off (オフ)	QRCAPP0	145
QR コードのコード・ページ	QR Code Page (QR コードのコード・ページ) (*3)	QRCDPC##	145
Web リンク付き QR コード	On (オン)	QRCWEB0	146
	* Off (オフ)	QRCWEB1	146
DotCode	Default All DotCode Settings (ドットコードの設定をすべてデフォルトに戻す)	DOTDFT	146
	On (オン)	DOTENA1	146
	* Off (オフ)	DOTENA0	146
低品質 DotCode	Poor Quality DotCodes On (低品質 DotCode オン)	DOTXS1	146
	* Poor Quality DotCodes Off (低品質 DotCode オフ)	DOTXS0	146
DotCode Msg.Length (DotCode のメッセージ長)	Minimum (1-2400) *1 (最小長 [1~2400] *1)	DOTMIN####	147
	Maximum (1-2400) *2400 (最大長 [1~2400] *2400)	DOTMAX####	147
Digimarc Barcode	Decoder Attempts (0-10) *3 (デコーダー 試行回数 (0~10) *3)	DIGSTR##	147
	Off (オフ)	DIGENA0	148
	On (オン)	DIGENA1	148
	Uses ID Decoder then Both Decoders (ID デコーダー使用後に両方のデコーダーを使用)	DIGENA2	148
	* Uses Digimarc Decoder then Both Decoders (Digimarc デコーダーの使用後に両方のデコーダーを使用)	DIGENA3	148
	Uses ID Decoder then Alternates Decoders (ID デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)	DIGENA4	148
	Uses Digimarc Decoder then Alternates Decoders (Digimarc デコーダー使用後に代替デコーダーを使用)	DIGENA5	148
Data Matrix	Default All Data Matrix Settings (Data Matrix の設定をすべてデフォルトに戻す)	IDMDFT	148
	* On (オン)	IDMENA1	148
	Off (オフ)	IDMENA0	148
Direct Part Marking (DPM) Decoding (ダイレクト・マーク・マーキング (DPM) デコード)	Dotpeen DPM decoding (Dotpeen DPM のデコード)	DPMENA1	149
	* Disable DPM Decoding (DPM デコード無効)	DPMENA0	149
	Reflective (Etched) DPM decoding (反射 (エッチング) DPM のデコード)	DPMENA2	149
Data Matrix Msg. Length (Data Matrix のメッセージ長)	Minimum (1-3116) *1 (最小長 [1~3116] *1)	IDMMIN####	149
	Maximum (1-3116) *3116 (最大長 [1~3116] *3116)	IDMMAX####	149
Data Matrix のコード・ページ	Data Matrix Code Page (Data Matrix コードのコード・ページ) (*51)	IDMDCP##	150
MaxiCode	Default All MaxiCode Settings (MaxiCode の設定をすべてデフォルトに戻す)	MAXDFT	150
	On (オン)	MAXENA1	150
	* Off (オフ)	MAXENA0	150

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
MaxiCode Msg.Length (MaxiCode のメッセージ長)	Minimum (1-150) *1 (最小長 [1~150] *1)	MAXMIN###	150
	Maximum (1-150) *150 (最大長 [1~150] *150)	MAXMAX###	150
Aztec Code	Default All Aztec Code Settings (Aztec Code の設定をすべてデフォルトに戻す)	AZTDFT	151
	* On (オン)	AZTENA1	151
	Off (オフ)	AZTENA0	151
Aztec Code Msg. Length (Aztec Code のメッセージ長)	Minimum (1-3832) *1 (最小長 [1~3832] *1)	AZTMIN####	151
	Maximum (1-3832) *3832 (最大長 [1~3832] *3832)	AZTMAX####	151
Aztec の連結	* On (オン)	AZTAPP1	151
	Off (オフ)	AZTAPP0	152
Aztec のコード・ページ	Aztec Code Page (Aztec のコード・ページ) (*51)	AZTDCP##	152
Chinese Sensible (Han Xin) Code	Default All Han Xin Code Settings (Han Xin Code の設定をすべてデフォルトに戻す)	HX_DFT	152
	On (オン)	HX_ENA1	152
	* Off (オフ)	HX_ENA0	152
Chinese Sensible (Han Xin) Code Msg. Length (Chinese Sensible (Han Xin) Code のメッセージ長)	Minimum (1-7833) *1 (最小長 [1~7833] *1)	HX_MIN####	153
	Maximum (1-7833) *7833 (最大長 [1~7833] *7833)	HX_MAX####	153
郵便コード - 2次元			
2D Postal Codes (2次元郵便コード)	* Off (オフ)	POSTAL0	153
Single 2D Postal Codes (単独 2次元郵便コード)	Australian Post On (Australian Post オン)	POSTAL1	153
	British Post On (British Post オン)	POSTAL7	153
	Canadian Post On (Canadian Post オン)	POSTAL30	153
	Intelligent Mail barcode On (Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL10	153
	Japanese Post On (日本郵便オン)	POSTAL3	154
	KIX Post On (KIX Post オン)	POSTAL4	154
	Planet Code On (Planet Code オン)	POSTAL5	154
	Postal-4i On (Postal-4i オン)	POSTAL9	154
	Postnet On (Postnet オン)	POSTAL6	154
	Postnet with B and B' Fields On (Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL11	154
InfoMail On (InfoMail オン)	POSTAL2	154	
Combination 2D Postal Codes (組み合わせの 2次元郵便コード)	InfoMail and British Post On (InfoMail と British Post オン)	POSTAL8	154
	Intelligent Mail Barcode and Postnet with B and B' Fields On (Intelligent Mail バーコードならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL20	154
	Postnet and Postal-4i On (Postnet と Postal-4i オン)	POSTAL14	155
	Postnet and Intelligent Mail Barcode On (Postnet と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL16	155
	Postal-4i and Intelligent Mail Barcode On (Postal-4i と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL17	155
	Postal-4i and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL19	155
	Planet and Postnet On (Planet と Postnet オン)	POSTAL12	155

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Planet and Postnet with B and B' Fields On (Planet ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL18	155
	Planet and Postal-4i On (Planet と Postal-4i オン)	POSTAL13	155
	Planet and Intelligent Mail Barcode On (Planet と Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL15	155
	Planet, Postnet, and Postal-4i On (Planet、Postnet、Postal-4i オン)	POSTAL21	155
	Planet, Postnet, and Intelligent Mail BarCode On (Planet、Postnet、Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL22	155
	Planet, Postal-4i, and Intelligent Mail Barcode On (Postnet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL23	156
	Postnet, Postal-4i, and Intelligent Mail Barcode On (Postnet、Postal-4i、および Intelligent Mail バーコード・オン)	POSTAL24	156
	Planet, Postal-4i, and Postnet with B and B' Fields On (Planet、Postal-4i、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL25	156
	Planet, Intelligent Mail BarCode, and Postnet with B and B' Fields On (Planet、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL26	156
	Postal-4i, Intelligent Mail Barcode, and Postnet with B and B' Fields On (Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL27	156
	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail BarCode, and Postnet On (Planet、Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、Postnet オン)	POSTAL28	156
	Planet, Postal-4i, Intelligent Mail BarCode, and Postnet with B and B' Fields On (Planet、Postal-4i、Intelligent Mail バーコード、ならびに Postnet B および B'フィールド・オン)	POSTAL29	156
Planet Code のチェック・デジット	Transmit (送信する)	PLNCKX1	156
	* Don't Transmit (送信しない)	PLNCKX0	157
Postnet のチェック・デジット	Transmit (送信する)	NETCKX1	157
	* Don't Transmit (送信しない)	NETCKX0	157
Australian Post の解釈	*Bar Output (バー出力)	AUSINT0	157
	Numeric N Table (数字 N テーブル)	AUSINT1	157
	Alphanumeric C Table (英数字 C テーブル)	AUSINT2	157
	Combination N and C Tables (N および C テーブルの組み合わせ)	AUSINT3	158
郵便コード - リニア			
China Post (Hong Kong 2 of 5)	Default All China Post (Hong Kong 2 of 5) Setting (China Post (Hong Kong 2 of 5) の設定をすべてデフォルトに戻す)	CPCDFT	158
	* Off (オフ)	CPCENA0	158
	On (オン)	CPCENA1	158
China Post (Hong Kong 2 of 5) Msg. Length (China Post (Hong Kong 2 of 5) のメッセージ長)	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	CPCMIN##	158
	Maximum (2 - 80) *80 (最大長 [2~80] *80)	CPCMAX##	158

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ	
Korean Post	Default All Korea Post Settings (Korean Post の設定をすべてデフォルトに戻す)	KPCDFT	159	
	* Off (オフ)	KPCENA0	159	
	On (オン)	KPCENA1	159	
Korea Post Msg. Legnth (Korean Post のメッセージ長)	Minimum (2 - 80) *4 (最小長 [2~80] *4)	KPCMIN##	159	
	Maximum (2 - 80) *48 (最大長 [2~80] *48)	KPCMAX##	159	
Korean Post のチェック・デジット	Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信する)	KPCCHK1	159	
	* Don't Transmit Check Digit (チェック・デジットを送信しない)	KPCCHK0	159	
イメージング・デフォルト・コマンド				
Image Snap (画像撮影)	Default all Imaging Commands (すべてのイメージング・コマンドをデフォルトに戻す)	IMGDFT	161	
	Imaging Style - Decoding (イメージング・スタイル - デコード)	SNPSTY0	162	
	*Imaging Style - Photo (イメージング・スタイル - 写真)	SNPSTY1	162	
	Imaging Style - Manual (イメージング・スタイル - 手動)	SNPSTY2	162	
	Beeper On (ブザー・オン)	SNPBEP1	162	
	*Beeper Off (ブザー・オフ)	SNPBEP0	162	
	*Wait for Trigger Off (トリガーの待機オフ)	SNPTRG0	163	
	Wait for Trigger On (トリガーの待機オン)	SNPTRG1	163	
	*LED State - Off (LED の状態 - オフ)	SNPLED0	163	
	LED State - On (LED の状態 - オン)	SNPLED1	163	
	Exposure (1-7874 microseconds) (露光 (1~7874 マイクロ秒)) *7874	SNPEXP	163	
	*Gain - None (ゲイン - なし)	SNPGAN1	164	
	Gain - Medium (ゲイン - 中)	SNPGAN2	164	
	Gain - Heavy (ゲイン - 高)	SNPGAN4	164	
	Gain - Maximum (ゲイン - 最大)	SNPGAN8	164	
	Target White Value (0-255) *125 (ターゲット・ホワイト値 (0~255) *125)	SNPWHT###	164	
	Delta for Acceptance (0-255) *25 (許容範囲 (0~255) *25)	SNPDEL###	164	
	Update Tries (0-10) *6 (アップデート試行 (0~10) *6)	SNPTRY##	165	
	Target Set Point Percentage (1-99) *50 (ターゲット・セット・ポイント比率 (1~99) *50)	SNPPCT##	165	
	Image Ship (画像送信)	*Infinity Filter - Off (無限遠フィルター - オフ)	IMGINFO	166
		Infinity Filter - On (無限遠フィルター - オン)	IMGINF1	166
*Compensation Off (補正オフ)		IMGCOR0	166	
Compensation On (補正オン)		IMGCOR1	166	
*Pixel Depth - 8 bits/pixel (grayscale) (ピクセル深度 - 8 ビット/ピクセル (グレースケール))		IMGBPP8	166	
Pixel Depth - 1 bit/pixel (B&W) (ピクセル深度 - 1 ビット/ピクセル (白黒))		IMGBPP1	166	
*Don't Sharpen Edges (エッジをシャープニングしない)		IMGEDG0	167	
Sharpen Edges (0-23) (エッジをシャープニングする (0~23))		IMGEDG##	167	

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	*File Format - JPEG (ファイル・フォーマット - JPEG)	IMGFMT6	167
	File Format - KIM (ファイル・フォーマット - KIM)	IMGFMT0	167
	File Format - TIFF binary (ファイル・フォーマット - TIFF バイナリー)	IMGFMT1	167
	File Format - TIFF binary group 4, compressed (ファイル・フォーマット - TIFF バイナリー・グループ4、圧縮)	IMGFMT2	167
	File Format - TIFF grayscale (ファイル・フォーマット - TIFF グレースケール)	IMGFMT3	167
	File Format - Uncompressed binary (ファイル・フォーマット - 非圧縮バイナリー)	IMGFMT4	167
	File Format - Uncompressed grayscale (ファイル・フォーマット - 非圧縮グレースケール)	IMGFMT5	167
	File Format - BMP (ファイル・フォーマット - BMP)	IMGFMT8	167
	*Histogram Stretch Off (ヒストグラム・ストレッチ・オフ)	IMGHISO	168
	Histogram Stretch On (ヒストグラム・ストレッチ・オン)	IMGHIS1	168
	*Noise Reduction Off (ノイズ低減オフ)	IMGFSP0	168
	Noise Reduction On (ノイズ低減オン)	IMGFSP1	169
	Invert Image around X axis (X 軸を中心に画像を反転)	IMGNVX1	168
	Invert Image around Y axis (Y 軸を中心に画像を反転)	IMGVY1	168
	Rotate Image none (画像回転なし)	IMGROT0	169
	Rotate Image 90° right (画像を右に 90 度回転)	IMGROT1	169
	Rotate Image 180° right (画像を右に 180 度回転)	IMGROT2	169
	Rotate Image 90° left (画像を左に 90 度回転)	IMGROT3	169
	JPEG Image Quality (0-100) *50 (JPEG 画像品質 (0~100) *50)	IMGJQ###	170
	*Gamma Correction Off (ガンマ補正オフ)	IMGGAM0	170
	Gamma Correction On (0-1000) (ガンマ補正オン (0~1000))	IMGGAM###	170
	Image Crop - Left (0-843) *0 (画像切り取り - 左 (0~843) *0)	IMGWNL###	170
	Image Crop - Right (0-843) *843 (画像切り取り - 右 (0~843) *843)	IMGWNR###	170
	Image Crop - Top (0-639) *0 (画像切り取り - 上 (0~639) *0)	IMGWNT###	170
	Image Crop - Bottom (0-639) (画像切り取り - 下 (0~639))	IMGWNB###	171
	Image Crop - Margin (1-238) *0 (画像切り取り - マージン (1~238) *0)	IMGMAR###	171
	Protocol - None (raw) (プロトコル - なし (生))	IMGXFR0	171
	Protocol - None (default USB) (プロトコル - なし (USB のデフォルト値))	IMGXFR2	171
	Protocol - Hmodem Compressed (default RS232) (プロトコル - Hmodem 圧縮 (RS232 のデフォルト値))	IMGXFR3	171
	Protocol - Hmodem (プロトコル - Hmodem)	IMGXFR4	171
	*Ship Every Pixel (すべてのピクセルを送信)	IMGSUB1	172
	Ship Every 2nd Pixel (2ピクセルごとに送信)	IMGSUB2	172
	Ship Every 3rd Pixel (3ピクセルごとに送信)	IMGSUB3	172
	*Document Image Filter Off (文書画像フィルター・オフ)	IMGUSH0	172

オプション	設定 *はデフォルト値を示す	シリアル・コマンド #は入力する数値を示す	ページ
	Document Image Filter On (0-255) (文書画像フィルター・オン (0~255))	IMGUSH###	172
	*Don't Ship Histogram (ヒストグラムを送信しない)	IMGHST0	173
	Ship Histogram (ヒストグラムを送信)	IMGHST1	173
画像サイズの互換性	Force VGA Resolution (VGA 解像度を強制)	IMGVGA1	173
	*Native Resolution (ネイティブ解像度)	IMGVGA0	174
Intelligent Signature Capture (インテリジェント署名取り込み)	Optimize On (最適化オン)	DECBND1	174
	*Optimize Off (最適化オフ)	DECBND0	174
ユーティリティ			
	Add Code I.D.Prefix to All Symbolologies (Temporary) (すべてのシンボル体系にコード ID プレフィックスを追加 [一時的])	PRECA2、BK2995C80!	181
	ソフトウェアの改訂情報を表示する	REVINF	181
テスト・メニュー	On (オン)	TSTMNU1	182
	* Off (オフ)	TSTMNU0	182
アプリケーション・プラグイン (アプリ)	*Decoding Apps On (デコード・アプリ・オン)	PLGDCE1	182
	Decoding Apps Off (デコード・アプリ・オフ)	PLGDCE0	182
	*Formatting Apps On (フォーマット・アプリ・オン)	PLGFOE1	182
	Formatting Apps Off (フォーマット・アプリ・オフ)	PLGFOE0	182
	List Apps (アプリ一覧)	PLGINF	182
工場出荷時設定にリセットする	Remove Custom Defaults (カスタム・デフォルトを削除する)	DEFOVR	184
	Activate Defaults (デフォルトを有効化する)	DEFALT	184

Genesis XP 7680GSR スキャナーの製品仕様

パラメーター	仕様
機械仕様	
高さ	4.1 インチ (105mm) / 5.7 インチ (145mm) (スタンドあり) 3.2 インチ (80mm)
長さ	1.6 インチ (40mm)
幅	12 オンス (340g) (スタンドあり)
重量	7.1 オンス (200g) (スタンドなし)
電気仕様	
電圧要件	5.0 VDC ±0.25V
電流引き込み	400mA @ 5VDC、2.0W
照明 LED：ピーク時波長	660nm ±10nm (Digimarc SKU のみ) (赤色 LED) IEC 62471：“Exempt Risk Group” 2700K (白色 LED) IEC 62471：“Exempt Risk Group”
エイミング： ピーク時 LED 波長	520nm ±18nm (緑色 LED) IEC 62471：“Exempt Risk Group”
環境仕様	
温度範囲： 動作時	32°F ~ 122°F (0°C ~ 50°C)
Storage (ストレージ)	-40°F ~ 158°F (-40°C ~ 70°C)
湿度	0~95%、結露なきこと
機械的落下	5 フィート (1.5m) からコンクリート面に 50 回落下して動作すること
ESD 耐性	最大±15kV (直接空気) 最大±8 kV (間接的結合面)

パラメーター (続き)	仕様
シーラント定格	IP52
画像	
画像サイズ	1280 x 800 ピクセル
スキャン性能	
スキュー角度	65°
ピッチ角度	65°
モーション・トレランス	最適焦点での 13 mil UPC の場合、最大 400 cm/s (158 in/s)
シンボル・コントラスト	20%

被写界深度図

7680g の標準性能

焦点		標準範囲	
シンボル体系		近距離	遠距離
3 mil Cod 39	mm	0	98
	in.	0	3.9
5 mil Code 39	mm	0	151
	in.	0	6.0
6.7 mil PDF417	mm	0	138
	in.	0	5.4
10 mil Data Matrix	mm	0	129
	in.	0	5.1
13 mil UPC	mm	0	250
	in.	0	9.9
20 mil QR Code	mm	0	212
	in.	0	8.3
解像度 (1 次元)		3 mil (.076mm)	
解像度 (2 次元)		5 mil (.127mm)	

7680g の保証性能

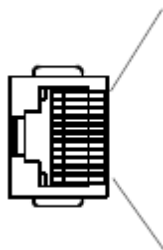
焦点		標準範囲	
シンボル体系		近距離	遠距離
3 mil Cod 39	mm	0	88
	in.	0	3.5
5 mil Code 39	mm	0	126
	in.	0	4.9
6.7 mil PDF417	mm	0	124
	in.	0	4.9
10 mil Data Matrix	mm	0	112
	in.	0	4.4
13 mil UPC	mm	0	210
	in.	0	8.3
20 mil QR Code	mm	0	175
	in.	0	6.9

標準コネクタ・ピン配列

注： 以下のピン配列は Honeywell の一部のレガシー製品と互換性がありません。不適切なピン配列のケーブルを使用すると、ユニットに損傷を与える可能性があります。メーカー提供のものではないケーブルを使用した場合、それによって生じた損傷については、保証の対象外となります。

キーボード・ウェッジ

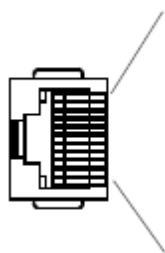
10 ピン RJ41 モジュラー・プラグ - ベースに接続



- 1 ケーブル・シールド
- 2 ケーブル・セレクト
- 3 電源接地
- 4 端末データ
- 5 端末クロック
- 6 キーボード・クロック
- 7 +5V 電源
- 8 キーボード・データ
- 9
- 10

シリアル出力

10 ピン RJ41 モジュラー・プラグ - ベースに接続

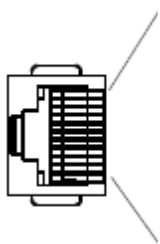


- 1 ケーブル・シールド
- 2 ケーブル・セレクト
- 3 電源接地
- 4 端末データ
- 5 受信データ - スキャナーへのシリアル・データ
- 6 CTS
- 7 +5V 電源
- 8 RTS
- 9
- 10

RS485 出力

10 ピン RJ41 モジュラー・プラグ - ベースに接続

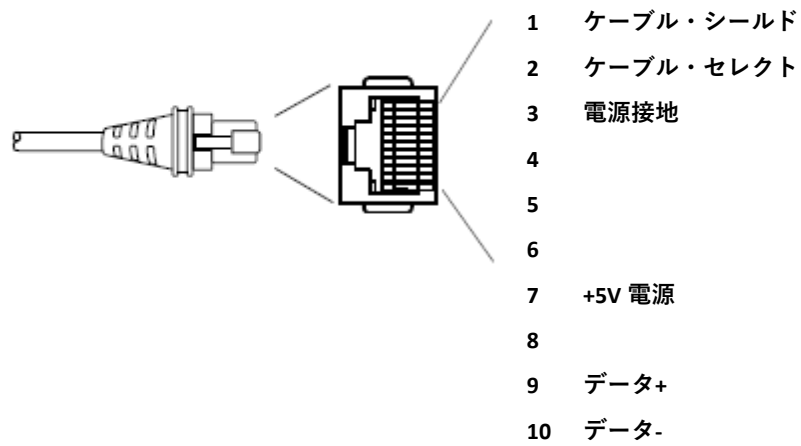
注：RS485 信号変換はケーブルで行われます。



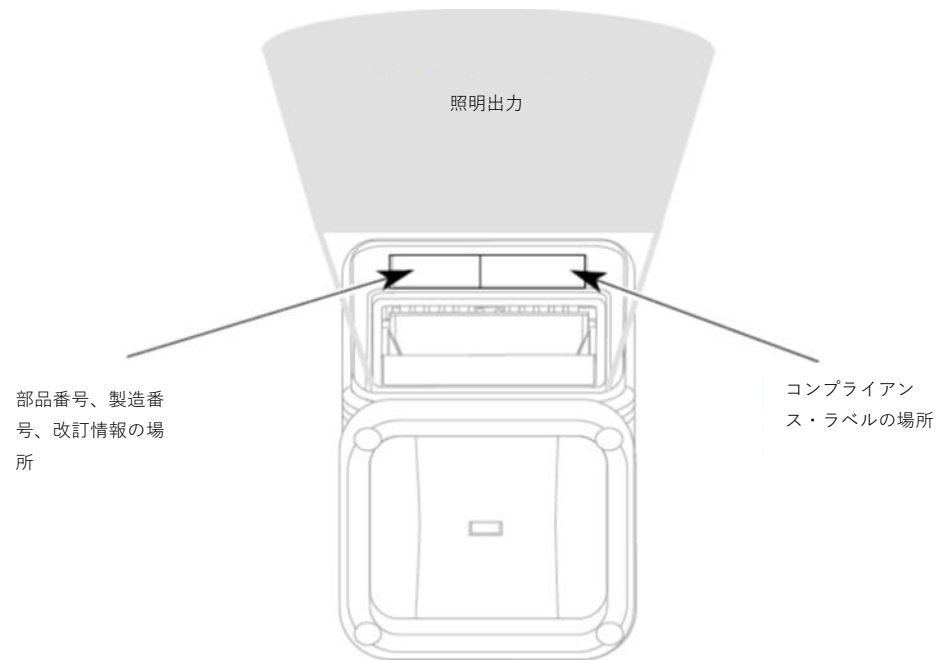
- 1 ケーブル・シールド
- 2 ケーブル・セレクト
- 3 電源接地
- 4 端末データ
- 5 受信データ - スキャナーへのシリアル・データ
- 6
- 7 +5V 電源
- 8 送信有効化
- 9
- 10

USB

10ピン・モジュラー・プラグ - ベースに接続



必要な安全ラベル



修理

本製品の修理やアップグレードを行わないでください。これらのサービスは、必ず正規サービス・センターで行う必要があります（xiii ページの「[カスタマー・サポート](#)」を参照）。

メンテナンス

本デバイスは、最低限のお手入れで、信頼性の高い、効率的な操作性を提供します。特別なメンテナンスは不要ですが、以下のセクションで、信頼性の高い動作を確保するための定期点検について説明します。

スキャナーの清掃

スキャナーやスキャナーのウィンドウは、柔らかい布に水（または水で薄めた中性洗剤）を含ませて清掃してください。中性洗剤溶液を使用する場合は、洗剤が残らないよう、水のみで湿らせた清潔な布でスキャナーを拭き上げてください。

注： スキャナーのウィンドウが汚れていると、読み取り性能が低下する場合があります。スキャナーのウィンドウが明らかに汚れている、またはスキャナーが上手く動作しない場合は、ウィンドウを清掃してください。



注意： スキャナーを水に浸けないでください。研磨剤入りの布やティッシュでスキャナーのウィンドウを拭かないでください。研磨剤入りのティッシュを使用すると、ウィンドウに傷がつく恐れがあります。ハウジングやウィンドウには、溶媒（アセトンなど）を使用しないでください。溶剤によって仕上げやウィンドウが損傷する場合があります。

注意： スキャナーと充電用付属品または他の周辺装置とを接続する前に、すべてのコンポーネントが乾燥していることを確認してください。濡れたコンポーネントを接続した場合、それによって生じた損傷については、保証の対象外となります。

滅菌消毒対応機種について

Genesis XP スキャナーは、有害な化学薬品の影響を防ぐよう設計された、プラスチック製の外装を備えています。これらのスキャナーには、一般市場向けに、DRH (disinfectant-ready housing、滅菌消毒対応ハウジング) が装備されています。

滅菌消毒対応ハウジングを採用した Genesis XP スキャナーの清掃方法の詳細については、Honeywell のセーフティ&プロダクティビティ・ソリューションズの Web サイトを参照してください。以下の記事に、これらの特殊製品のお手入れに役立つ情報を記載しています。

- Honeywell の滅菌消毒対応ハウジングを採用した汎用デバイスに関する説明

ケーブルおよびコネクタの点検

インターフェース・ケーブルおよびコネクタに摩耗や損傷の痕跡がないか点検してください。ケーブルの摩耗やコネクタの損傷がひどい場合は、スキャナーの動作が妨げられることがあります。ケーブルの交換については、販売店にお問い合わせください。ケーブルの交換手順については、[222 ページ](#)を参照してください。

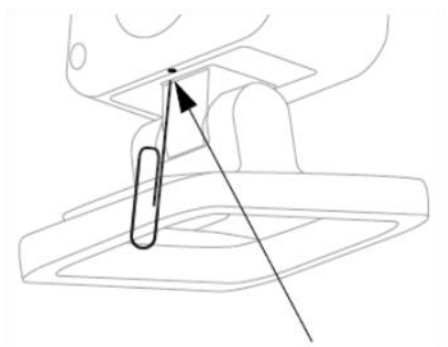
ケーブルの交換

標準インターフェース・ケーブルは、10 ピンのモジュラー・コネクタでスキャナーに取り付けられています。コネクタを適切に固定すると、弾力性のある保持爪によってスキャナーのハンドル内にコネクタが保持されます。インターフェース・ケーブルは、現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルは Honeywell もしくは正規の販売店よりお買い求めください。
- 交換用ケーブルをご注文の際は、元のインターフェース・ケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

インターフェース・ケーブルの交換

1. ホスト・システムへの電源をオフにします。
2. スキャナーのケーブルを端末またはコンピューターから外します。
3. スキャナーのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これがケーブル・リリースです。
4. ペーパー・クリップの片方の先端をまっすぐにします。
5. ペーパー・クリップの先端を小さな穴に差し込んで押し込みます。これにより保持爪が押され、コネクタのロックが解除されます。ペーパー・クリップを押したままコネクタを引き抜き、その後クリップをはずします。



ケーブル・リリース

6. ケーブルを新しいものと交換します。
コネクタを穴に差し込んでしっかりと押し込みます。コネクタは、一方向にしか差し込めないようにキーが付いており、所定の位置でカチッと音がします。

トラブルシューティング

スキャナーは電源投入時に自己診断を自動的に実行します。スキャナーが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティング・ガイドに従って問題を特定してください。

電源は入っていますか? エイマーはオンになっていますか?

エイマーが点灯していない場合は、以下の点を確認してください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホスト・システムの電源が入っているか（外部電源を使用していない場合）。
- トリガーが動作するか。

スキャナーでのシンボル読み取りに問題がありますか?

スキャナーでシンボルをうまく読み取れない場合は、以下についてシンボルを確認してください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナー、またはスキャナーが接続されているデコーダーで有効になっているか。

バーコードが表示されているのに入力されませんか?

バーコードがホスト・デバイスに正しく表示されていても、入力するにはキーを押す必要があります（Enter/Return キーまたは Tab キーなど）。

- サフィックスをプログラムする必要があります。サフィックスをプログラムすると、スキャナーがバーコードのデータおよび必要なキー（「CR」など）を出力して、アプリケーションにデータを入力できます。詳細については、71 ページの「[プレフィックス／サフィックスの概要](#)」を参照してください。

スキャナーでどのようなプログラミング・オプションが設定されているか分からない場合、または工場出荷時のデフォルト設定を復元したい場合は、184 ページの「[工場出荷時設定にリセットする](#)」を参照してください。

A

リファレンス・チャート

シンボル体系チャート

注： 「m」はAIM 修飾文字を表します。AIM 修飾文字の詳細は、国際技術仕様書の「シンボル識別子」を参照してください。

特定のシンボル体系に関するプレフィックスまたはサフィックスの入力は、汎用 (All Symbologies [すべてのシンボル体系], 99) の入力に優先します。

コード ID と AIM ID の使用方法の詳細については、71 ページ以降の「データ編集」と 77 ページ以降の「データ・フォーマット」を参照してください。

リニア・シンボル体系

リニア・シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
すべてのシンボル体系				99
Codabar]Fm	0-1	a	61
Code 11]H3		h	68
Code 128]Cm	0、1、2、4	j	6A
Code 32 Pharmaceutical (PARAF)]X0		<	3C
Code 39 (Full ASCII モードに対応)]Am	0、1、3、4、5、7	b	62
TCIF Linked Code 39 (TLC39)]L2		T	54
Code 93 および 93i]Gm	0-9、A-Z、 a-m	i	69
EAN]Em	0、1、3、4	d	64
EAN-13 (Bookland EAN を含む)]E0		d	64
アドオン付き EAN-13]E3		d	64
拡張クーポン・コード付き EAN-13]E3		d	64
EAN-8]E4		D	44

リニア・シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
アドオン付き EAN-8]E3		D	44
GS1				
GS1 DataBar]em	0	y	79
GS1 DataBar Limited]em		{	7B
GS1 DataBar Expanded]em		}	7D
GS1-128]C1		l	49
2 of 5				
China Post (Hong Kong 2 of 5)]X0		Q	51
Interleaved 2 of 5]lm	0、1、3	e	65
Matrix 2 of 5]X0		m	6D
NEC 2 of 5]X0		Y	59
Straight 2 of 5 IATA]Rm	0、1、3	f	66
Straight 2 of 5 Industrial]S0		f	66
MSI]Mm	0、1	g	67
Telepen]Bm		t	74
UPC		0、1、2、3、8、9、A、 B、C		
UPC-A]E0		c	63
アドオン付き UPC-A]E3		c	63
拡張クーポン・コード付き UPC-A]E3		c	63
UPC-E]E0		E	45
アドオン付き UPC-E]E3		E	45
UPC-E1]X0		E	45

Honeywell コード ID の追加				5C80
AIM コード ID の追加				5C81
バックスラッシュの追加				5C5C
バッチ・モード数			5	35

2次元シンボル体系

2次元シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
すべてのシンボル体系				99
Aztec Code]zm	0-9、A-C	z	7A

2次元シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
Chinese Sensible Code (Han Xin Code)]X0		H	48
Codablock A]O6	0、1、4、5、6	V	56
Codablock F]Om	0、1、4、5、6	q	71
Code 49]Tm	0、1、2、4	l	6C
Data Matrix]dm	0-6	w	77
Dot Code]J0		.	2E
GS1]em	0-3	y	79
GS1 Composite]em	0-3	y	79
GS1 DataBar Omnidirectional]em	0-3	y	79
MaxiCode]Um	0-3	x	78
PDF417]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417]Lm	0-5	R	52
QR Code]Qm	0-6	s	73
Micro QR Code]Qm		s	73

郵便シンボル体系

郵便シンボル体系	AIM		Honeywell	
	ID	使用可能な修飾文字 (m)	ID	Hex
すべてのシンボル体系				99
Australian Post]X0		A	41
British Post]X0		B	42
Canadian Post]X0		C	43
China Post]X0		Q	51
InfoMail]X0		,	2c
Intelligent Mail Barcode]X0		M	4D
Japanese Post]X0		J	4A
KIX (Netherlands) Post]X0		K	4B
Korean Post]X0		?	3F
Planet Code]X0		L	4C
Postal-4i]X0		N	4E
Postnet]X0		P	50

ASCII 変換表 (コード・ページ 1252)

キーボード・アプリケーションでは、以下に示す 3 つの異なる方法で ASCII 制御文字を表すことができます。CTRL+X 機能は、OS およびアプリケーションによって異なります。以下の表に、よく使用される Microsoft の機能の一部を記載します。この表は、US 配列キーボードに適用されます。一部の文字は、国コードや PC の地域設定によって異なる場合があります。

印刷できない 制御文字			ASCII	キーボード Control + ASCII (CTRL+X) モード		
DEC	HEX	文字		Windows Mode Control + X (Windows モードの Control + X) モード・オン (KBDCAS2)		
				Control + X モード・オフ (KBDCAS0)	CTRL + X 機能	
0	00	NUL		予備	CTRL+ @	
1	01	SOH		NP Enter	CTRL+ A	すべて選択
2	02	STX		Caps Lock (Caps ロック)	CTRL+ B	太字
3	03	ETX		ALT Make	CTRL+ C	コピー
4	04	EOT		ALT Break	CTRL+ D	ブックマーク
5	05	ENQ		CTRL Make	CTRL+ E	中央揃え
6	06	ACK		CTRL Break	CTRL+ F	検索
7	07	BEL		Enter / Return	CTRL+ G	
8	08	BS		(Apple Make)	CTRL+ H	履歴
9	09	HT		Tab	CTRL+ I	斜体
10	0A	LF		(Apple Break)	CTRL+ J	両端揃え
11	0B	VT		Tab	CTRL+ K	ハイパーリンク
12	0C	FF		Delete	CTRL+ L	リスト、 左揃え
13	0D	CR		Enter / Return	CTRL+ M	
14	0E	SO		Insert	CTRL+ N	新規
15	0F	SI		ESC	CTRL+ O	開く
16	10	DLE		F11	CTRL+ P	印刷
17	11	DC1		Home	CTRL+ Q	終了
18	12	DC2		PrtScn	CTRL+ R	
19	13	DC3		BackSpace	CTRL+ S	Save (保存)
20	14	DC4		Back Tab	CTRL+ T	
21	15	NAK		F12	CTRL+ U	
22	16	SYN		F1	CTRL+ V	貼り付け
23	17	ETB		F2	CTRL+ W	
24	18	CAN		F3	CTRL + X	
25	19	EM		F4	CTRL+ Y	?
26	1A	SUB		F5	CTRL+ Z	?
27	1B	ESC		F6	CTRL+ [?
28	1C	FS		F7	CTRL+ ¥	?
29	1D	GS		F8	CTRL+]	?
30	1E	RS		F9	CTRL+ ^	?
31	1F	US		F10	CTRL+ -	?
127	7F	△		NP Enter		?

下位 ASCII 参照表

注： Windows のコード・ページ1252 と下位 ASCII で使用する文字は同じです。

印刷可能文字								
DEC	HEX	文字	DEC	HEX	文字	DEC	HEX	文字
32	20	<SPACE>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	¥	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	△

拡張 ASCII 文字					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャン・コード
128	80	€	ç	上矢印 ↑	0x48
129	81		ü	下矢印 ↓	0x50
130	82	,	é	右矢印 →	0x4B
131	83	f	â	左矢印 ←	0x4D
132	84	„	ä	Insert	0x52
133	85	…	à	Delete	0x53
134	86	†	ã	Home	0x47
135	87	#	ç	End	0x4F
136	88	^	ê	Page Up	0x49
137	89	‰	ë	Page Down	0x51
138	8A	š	è	右の ALT	0x38
139	8B	ƒ	ì	右の CTRL	0x1D

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャン・コード
140	8C	Ĉ	ĉ	予備	n/a
141	8D	Ċ	ċ	予備	n/a
142	8E	Č	č	テンキーの Enter	0x1C
143	8F	Ď	ď	テンキーの /	0x35
144	90	Ě	ě	F1	0x3B
145	91	ƒ	ƒ	F2	0x3C
146	92	ƒ	ƒ	F3	0x3D
147	93	“	“	F4	0x3E
148	94	”	”	F5	0x3F
149	95	•	•	F6	0x40
150	96	—	—	F7	0x41
151	97	—	—	F8	0x42
152	98	˜	˜	F9	0x43
153	99	™	™	F10	0x44
154	9A	š	š	F11	0x57
155	9B	›	›	F12	0x58
156	9C	œ	œ	テンキーの +	0x4E
157	9D	¥	¥	テンキーの -	0x4A
158	9E	ž	ž	テンキーの *	0x37
159	9F	ÿ	ÿ	Caps Lock (Caps ロック)	0x3A
160	A0	á	á	Num Lock	0x45
161	A1	í	í	左の Alt	0x38
162	A2	ć	ć	左の Ctrl	0x1D
163	A3	é	é	左の Shift	0x2A
164	A4	ř	ř	右の Shift	0x36
165	A5	¥	¥	Print Screen	n/a
166	A6	ı	ı	Tab	0x0F
167	A7	š	š	Shift Tab	0x8F
168	A8	ˆ	ˆ	Enter	0x1C
169	A9	©	©	Esc	0x01
170	AA	ª	ª	Alt Make	0x36
171	AB	«	½	Alt Break	0xB6
172	AC	¬	¼	Control Make	0x1D
173	AD	ı	ı	Control Break	0x9D
174	AE	®	«	1 文字を含む Alt シーケンス	0x36
175	AF	ˆ	»	1 文字を含む Ctrl シーケンス	0x1D
176	B0	°	☒		
177	B1	±	☒		
178	B2	²	☒		
179	B3	³			
180	B4	´			
181	B5	µ			
182	B6	¶			
183	B7	·			
184	B8	¸			
185	B9	¹			
186	BA	º			
187	BB	»			
188	BC	¼			
189	BD	½			
190	BE	¾			
191	BF	¿			
192	C0	À			
193	C1	Á			

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャン・コード
194	C2	Â	┐		
195	C3	Ã	┌		
196	C4	Ä	—		
197	C5	Å	ı		
198	C6	Æ	⌈		
199	C7	Ç	⌋		
200	C8	È	⌌		
201	C9	É	⌍		
202	CA	Ê	⌎		
203	CB	Ë	⌏		
204	CC	İ	⌐		
205	CD	Í	⌑		
206	CE	Î	⌒		
207	CF	Ï	⌓		
208	D0	Ð	⌔		
209	D1	Ñ	⌕		
210	D2	Ò	⌖		
211	D3	Ó	⌗		
212	D4	Ô	⌘		
213	D5	Õ	⌙		
214	D6	Ö	⌚		
215	D7	×	⌛		
216	D8	Ø	⌜		
217	D9	Ù	⌝		
218	DA	Ú	⌞		
219	DB	Û	■		
220	DC	Ü	■		
221	DD	Ý	■		
222	DE	Þ	■		
223	DF	ß	■		
224	E0	à	α		
225	E1	á	β		
226	E2	â	Γ		
227	E3	ã	π		
228	E4	ä	Σ		
229	E5	å	σ		
230	E6	æ	μ		
231	E7	ç	τ		
232	E8	è	Φ		
233	E9	é	Θ		
234	EA	ê	Ω		
235	EB	ë	δ		
236	EC	ì	∞		
237	ED	í	φ		
238	EE	î	ε		
239	EF	ï	∩		
240	F0	ð	≡		
241	F1	ñ	±		
242	F2	ò	≥		
243	F3	ó	≤		
244	F4	ô	∫		
245	F5	õ	∫		
246	F6	ö	÷		
247	F7	÷	≈		

拡張 ASCII 文字 (続き)					
DEC	HEX	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 スキャン・コード
248	F8	ø	°		
249	F9	ù	·		
250	FA	ú	·		
251	FB	û	√		
252	FC	ü	ñ		
253	FD	ý	²		
254	FE	þ	■		
255	FF	ÿ			

ISO 2022/ISO 646 置換文字

コード・ページでは、文字コードから文字へのマッピングを定義します。受信したデータが正しい文字で表示されない場合は、スキャンしたバーコードがホスト・プログラムの想定とは異なるコード・ページを使用して作成されたものである可能性があります。そのような場合は、バーコードが作成されたコード・ページを選択してください。これにより、データの文字が正しく表示されるようになります。

コード・ページの選択方法/国	標準	キーボード 国番号	Honeywell コード・ページ・オプション
米国 (標準 ASCII)	ISO/IEC 646-IRV	n/a	1
各国文字の自動置換	ISO/IEC 2022	n/a	2 (デフォルト値)
バイナリ・コード・ページ	n/a	n/a	3
デフォルトの「各国文字の自動置換」では、Code 128、Code 39、および Code 93 に対して以下の Honeywell コード・ページ・オプションが選択されます。			
米国	ISO/IEC 646-06	0	1
Canada (カナダ)	ISO /IEC 646-121	54	95
Canada (カナダ)	ISO /IEC 646-122	18	96
Japan (日本)	ISO/IEC 646-14	28	98
China (中国)	ISO/IEC 646-57	92	99
Great Britain (イギリス) (UK)	ISO /IEC 646-04	7	87
France (フランス)	ISO /IEC 646-69	3	83
Germany (ドイツ)	ISO/IEC646-21	4	84
Switzerland (スイス)	ISO /IEC 646-CH	6	86
Sweden / Finland (extended Annex C) (スウェーデン/フィンランド (拡張 Annex C))	ISO/IEC 646-11	2	82
Ireland (アイルランド)	ISO /IEC 646-207	73	97
Denmark (デンマーク)	ISO/IEC 646-08	8	88
Norway (ノルウェー)	ISO/IEC 646-60	9	94
Italy (イタリア)	ISO/IEC 646-15	5	85
Portugal (ポルトガル)	ISO/IEC 646-16	13	92

コード・ページの選択方法／国	標準	キーボード 国番号	Honeywell コー ド・ページ・オ プション
Spain (スペイン)	ISO/IEC 646-17	10	90
Spain (スペイン)	ISO/IEC 646-85	51	91

DEC			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
Hex			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	-
CN	92	99	#	¥	@	[¥]	^	`	{		}	-
GB	7	87	£	\$	@	[¥]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	§	^	μ	é	ù	è	..
DE	4	84	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	Å	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	-
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	§	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	§	Ã	Ç	Õ	^	`	ã	ç	õ	°
ES	10	90	#	\$	§	i	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$.	i	Ñ	Ç	¿	`	'	ñ	ç	..
国	ド	国 別 キー ボー	ー ン キ ー ボ ー ド	ISO/IEC 646 国別置換文字										

キーボードのキーマップ

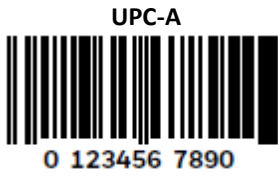
6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B				5C	61	66		
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39	53	5D	62	67	6C				
3A	3B	3C			3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68			

104 キーUS 配列キーボード

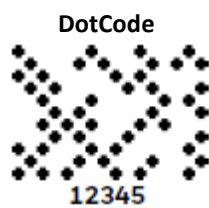
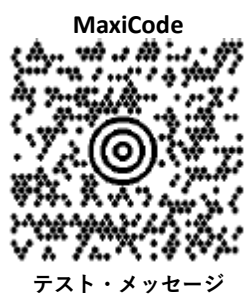
6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A				5C	61	66		
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39	53	5D	62	67	6C			
3A	3B	3C			3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68			

105 キーEU 配列キーボード

シンボルの例



シンボルの例（続き）



プログラミング・チャート



K0K
0



K2K
2



K4K
4



K6K
6



K8K
8



K1K
1



K3K
3



K5K
5



K7K
7



K9K
9

プログラミング・チャート (続き)



KAK
A



KCK
C



KEK
E



MNUSAV.
Save (保存)



RESET_
Reset (リセット)



KBK
B



KDK
D



KFK
F



MNUABT.
Discard (破棄)

注： 文字または数字のスクランを間違えた場合は (**Save (保存)** をスクランする前に)、**Discard (破棄)** をスクランしてから、正しい文字または数字をもう一度スクランし、**Save (保存)** をスクランしてください。

Honeywell
9680 Old Bailes Road
Fort Mill, SC 29707

www.honeywellaidc.com